

佐久市埋藏文化財調査報告書 第230集

野馬窪遺跡群

野馬窪遺跡Ⅵ

長野県佐久市猿久保野馬窪遺跡発掘調査報告書

2015. 3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第230集

野馬窪遺跡群

野馬窪遺跡Ⅵ

長野県佐久市猿久保野馬窪遺跡発掘調査報告書

2015. 3

佐久市教育委員会

例 言

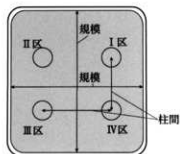
- 1 本書は佐久市による創縁の森整備事業に伴う、野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市教育委員会社会教育部公民館・体育課、建設部道路建設課
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VI
佐久市猿久保
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H-竪穴住居跡 Ta- 竪穴状遺構 M-溝状遺構 D-土坑
F-掘立柱建物跡 P-ピット
- 2 スクリーントーンの表示は以下のとおりである。



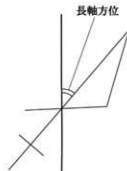
- 3 挿図の縮尺は以下のとおりである。
遺構-竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑・掘立柱建物跡・ピット 1/80・1/40 溝状遺構 1/80・1/160
遺物-土器 1/4、石器・石製品、鉄製品 1/4・1/2・1/1
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 6 土層・遺物の色調は「新版 標準土色帖」による。
- 7 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
- 8 住居跡の区割りは上を北として4分割し、北東区から反時計回りにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区とした。
- 9 遺物観察表内の [] は推定値、() は残存値を示す。
- 10 遺構及び方位の計測は次のとおりである。



竪穴住居跡



土坑



長軸方位

目 次

第I章 調査の経過				
第1節 調査に至る経緯	1			
1. 創設の森整備事業と保護協議	1			
2. 文化財保護手続き	2			
3. 調査体制	2			
第2節 発掘作業の経過	3			
1. 発掘作業	3			
2. 整理作業	4			
第II章 遺跡の位置と環境	6			
第1節 地理的環境	6			
第2節 歴史的環境	7			
第3節 発見された遺構と遺物	11			
第4節 基本層序	11			
第III章 遺構と遺物				
第1節 竪穴住居址 (H)	15			
H 1号住居址-15	H 2号住居址-16	H 3号住居址-17	H 4号住居址-19	
H 5号住居址-21	H 6号住居址-22	H 7号住居址-23	H 8号住居址-24	
H 9号住居址-28	H10号住居址-32	H11号住居址-34	H12号住居址-36	
H13号住居址-37	H14号住居址-39	H15号住居址-39	H16号住居址-41	
H17号住居址-44	H18号住居址-46	H19号住居址-47	H20号住居址-50	
H21号住居址-51	H22号住居址-53	H23号住居址-55	H24号住居址-57	
H25号住居址-58	H26号住居址-59	H27号住居址-62		
第2節 竪穴状遺構 (Ta)	64			
Ta 1号竪穴状遺構-64	Ta 2号竪穴状遺構-64	Ta 3号竪穴状遺構-64		
第3節 溝状遺構 (M)	65			
M 1号溝状遺構-65	M 2号溝状遺構-65	M 3号溝状遺構-66		
M 4号溝状遺構-66	M 5号溝状遺構-66	M 6号溝状遺構-67		
M 7号溝状遺構-67	M 8号溝状遺構-67			
第4節 土坑・井戸 (D)	68			
D 1号土坑-68	D 2号土坑-68	D 3号土坑-68	D 4号土坑-68	
D 5号土坑-69	D 6号土坑-68	D 7号土坑-68	D 8号土坑-68	
D 9号土坑-69	D10号土坑-69	D11号土坑-69	D12号土坑-69	
D13号土坑-69				
第5節 掘立柱建物跡 (F)	70			
F 1号掘立柱建物跡-70	F 2号掘立柱建物跡-70			
第6節 ビット (P)	71			
第7節 遺構外遺物	103			

写真図版 図版1～31 現場写真

図版32～54 出土遺物写真

抄録

図版目次

図版目次

第1図	野馬嶺遺跡群 野馬嶺遺跡VI位置図 (1:100,000)	1
第2図	野馬嶺遺跡群 野馬嶺遺跡VI位置図 (1:5,000)	5
第3図	在久市地質図 (在久市志 尾崎村から)	6
第4図	周辺遺跡位置図 (1:10,000)	10
第5図	野馬嶺遺跡IV 基本層平式図	11
第6図	野馬嶺遺跡IV 全体図 (1:2,000)	12
第7図	野馬嶺遺跡VI 遺跡配置図 (1:1,000)	13
第8図	H1号住居址遺構・遺物実測図	15
第9図	H2号住居址遺構・遺物実測図	16
第10図	H3号住居址遺構実測図 (2)	17
第11図	H3号住居址遺構・遺物実測図	18
第12図	H3号住居址遺物実測図 (2)	19
第13図	H4号住居址遺構・遺物実測図	20
第14図	H5号住居址遺構・遺物実測図	21
第15図	H6号住居址遺構・遺物実測図	22
第16図	H7号住居址遺構・遺物実測図	23
第17図	H7号住居址遺物実測図 (2)	24
第18図	H8号住居址遺構・遺物実測図	25
第19図	H8号住居址遺物実測図 (2)	26
第20図	H8号住居址遺物実測図 (3)	27
第21図	H9号住居址遺構・遺物実測図	29
第22図	H9号住居址遺物実測図 (2)	30
第23図	H9号住居址遺物実測図 (3)	31
第24図	H10号住居址遺構・遺物実測図	33
第25図	H10号住居址遺物実測図 (2)	34
第26図	H11号住居址遺構・遺物実測図	35
第27図	H12号住居址遺構・遺物実測図	36
第28図	H12号住居址遺物実測図 (2)	37
第29図	H13号住居址遺構・遺物実測図	38
第30図	H14号住居址遺構・遺物実測図	39
第31図	H15号住居址遺構・遺物実測図	40
第32図	H15号住居址遺物実測図 (2)	41
第33図	H16号住居址遺構・遺物実測図	42
第34図	H16号住居址遺物実測図 (2)	43
第35図	H17号住居址実測図	44
第36図	H17号住居址遺物実測図	45
第37図	H18号住居址遺構・遺物実測図	46
第38図	H19号住居址実測図 (1)	47
第39図	H19号住居址実測図 (2)	48
第40図	H19号住居址遺物実測図 (1)	48
第41図	H19号住居址遺物実測図 (2)	49
第42図	H19号住居址遺物実測図 (3)	50
第43図	H20号住居址遺構・遺物実測図	51
第44図	H21号住居址遺構・遺物実測図	52
第45図	H22号住居址実測図	53
第46図	H22号住居址遺物実測図	54
第47図	H23号住居址実測図	55
第48図	H23号住居址遺物実測図	56
第49図	H24号住居址遺構・遺物実測図	57
第50図	H25号住居址遺構・遺物実測図	58
第51図	H26号住居址実測図	59
第52図	H26号住居址遺物実測図 (1)	60
第53図	H26号住居址遺物実測図 (2)	61
第54図	H27号住居址遺構・遺物実測図	63
第55図	Ta1・2・3号竪穴式遺構・Ta2号遺物実測図	64
第56図	M1・2号溝状遺構・M2号遺物実測図	65
第57図	M3号溝状遺構遺物実測図	65
第58図	M3・4・5号溝状遺構実測図	66
第59図	M4号溝状遺構遺物実測図	67

第60図	M6・7・8号溝状遺構実測図	67
第61図	D1~4・6~8号土坑実測図	68
第62図	D5・9~13号土坑実測図	69
第63図	土坑遺物実測図	70
第64図	F1・2号遺立住居物遺物実測図	70
第65図	F1・2号遺立住居物遺物実測図	71
第66図	ビット実測図 (1)	71
第67図	ビット実測図 (2)	72
第68図	ビット実測図 (3)	73
第69図	ビット実測図 (4)	74
第70図	ビット実測図 (5)	75
第71図	ビット実測図 (6)	76
第72図	ビット実測図 (7)	77
第73図	ビット実測図 (8)	78
第74図	ビット実測図 (9)	79
第75図	ビット実測図 (10)	80
第76図	ビット実測図 (11)	81
第77図	ビット実測図 (12)	82
第78図	ビット実測図 (13)	83
第79図	ビット実測図 (14)	84
第80図	ビット実測図 (15)	85
第81図	ビット実測図 (16)	86
第82図	ビット実測図 (17)	87
第83図	ビット実測図 (18)	88
第84図	ビット実測図 (19)	89
第85図	ビット実測図 (20)	90
第86図	ビット実測図 (21)	91
第87図	ビット実測図 (22)	92
第88図	ビット実測図 (23)	93
第89図	ビット実測図 (24)	94
第90図	ビット実測図 (25)	95
第91図	ビット実測図 (26)	96
第92図	ビット実測図 (27)	97
第93図	ビット実測図 (28)	98
第94図	ビット実測図 (29)	99
第95図	遺構外遺物実測図	103

表目次

第1表	周辺遺跡表	9
第2表	H1号住居址遺物観察表	15
第3表	H2号住居址遺物観察表	17
第4表	H3号住居址遺物観察表	19
第5表	H4号住居址遺物観察表 (1)	20
第6表	H4号住居址遺物観察表 (2)	21
第7表	H5号住居址遺物観察表	21
第8表	H6号住居址遺物観察表	22
第9表	H7号住居址遺物観察表	24
第10表	H8号住居址遺物観察表 (1)	27
第11表	H8号住居址遺物観察表 (2)	28
第12表	H9号住居址遺物観察表 (1)	31
第13表	H9号住居址遺物観察表 (2)	32
第14表	H10号住居址遺物観察表	34
第15表	H11号住居址遺物観察表	35
第16表	H12号住居址遺物観察表	37
第17表	H13号住居址遺物観察表 (1)	38
第18表	H13号住居址遺物観察表 (2)	39
第19表	H14号住居址遺物観察表	41
第20表	H15号住居址遺物観察表	49
第21表	H16号住居址遺物観察表 (1)	43

第22表	H16号住居地建物観察表 (2)	44
第23表	H17号住居地建物観察表	45
第24表	H18号住居地建物観察表	46
第25表	H19号住居地建物観察表	50
第26表	H20号住居地建物観察表	51
第27表	H21号住居地建物観察表 (1)	52
第28表	H21号住居地建物観察表 (2)	53
第29表	H22号住居地建物観察表	55
第30表	H23号住居地建物観察表	56
第31表	H24号住居地建物観察表 (1)	57
第32表	H24号住居地建物観察表 (2)	58
第33表	H25号住居地建物観察表	59
第34表	H26号住居地建物観察表 (1)	61
第35表	H26号住居地建物観察表 (2)	62
第36表	H27号住居地建物観察表 (1)	63
第37表	H27号住居地建物観察表 (2)	64
第38表	T a 2号聖六伏道橋遺物観察表	64
第39表	聖六伏道橋観察表	64
第40表	M 2号湧状遺構遺物観察表	68
第41表	M 4号湧状遺構遺物観察表	68
第42表	土坑観察表	70
第43表	土坑遺物観察表	70
第44表	F 1 - 2号獨立柱礎物跡観察表	71
第45表	F 1 - 2号獨立柱礎物跡遺物観察表	71
第46表	ピット遺物観察表	99
第47表	ピット観察表 (1)	200
第48表	ピット観察表 (2)	201
第49表	ピット観察表 (3)	202
第50表	ピット観察表 (4)	203
第51表	遺構外遺物観察表	208

写真版目次

図版7

野馬在遺跡VI 調査区調査前 (北東から)
野馬在遺跡VI 調査区調査前 (南から)
A区全景 (北東から)
A区全景 (南から)
B区全景 (南西から)
C区全景 (北西から)

図版8

D区全景 (南から)
D区全景 (北から)

図版9

E区全景 (西から)
E区全景 (東から)

図版10

F区全景 (南西から)
G区全景 (南西から)

図版11

H区全景 (北西から)
H区全景 (東から)

図版12

観音堂遺構 (北から)
平成24年度表土除去作業 (南から)
平成24年度表土除去作業 (北から)
A・B区調査終了状況 (南から)
C区調査終了状況 (南から)
平成24年度基準杭設定作業・調査風景1 (南から)
平成24年度調査風景2 (北東から)
平成24年度調査風景3 (南から)

図版7

平成25年度表土除去作業1 (北から)
平成25年度表土除去作業2 (北から)
平成25年度表土除去作業3 (北から)
平成25年度表土除去作業4 (南東から)
平成25年度ハウス敷置状況
平成25年度基準杭設定作業・調査風景 (北から)
平成25年度調査風景2 (南から)
平成25年度調査風景3 (西から)

図版8

平成25年度調査風景4 (南東から)
平成25年度調査風景5 (西から)
平成25年度D区調査終了状況 (北から)
平成25年度F区調査終了状況 (南西から)
平成25年度G区調査終了状況 (西から)
平成25年度H区調査終了状況 (南から)
平成25年度I区調査終了状況 (東から)
平成25年度K区調査終了状況 (東から)

図版9

H1号住居址全景 (北から)
H1号住居址遺方 (北から)
H2号住居址全景 (東から)
H2号住居址カマド (南から)
H2号住居址遺物出土状況1
H2号住居址遺物出土状況2
H2号住居址遺物出土状況3
H2号住居址土坑

図版10

H2号住居址カマド遺方 (南から)
H2号住居址遺方 (北から)
平成24年度調査分13号住居址全景 (西から)
平成25年度調査分13号住居址全景 (北東から)
H3号住居址カマド (西から)
H3号住居址土坑
平成24年度調査分13号住居址遺方 (西から)
平成25年度調査分13号住居址遺方 (東から)

図版11

平成24年度調査分14号住居址全景 (西から)
平成25年度調査分14号住居址全景 (東から)
H4号住居址カマド (東から)
H4号住居址カマド遺方 (南から)
平成24年度調査分14号住居址遺方 (北西から)
平成25年度調査分14号住居址遺方 (南東から)
H5号住居址全景 (東から)
H5号住居址カマド (南から)

図版12

H5号住居址遺方 (北東から)
H6号住居址全景 (東から)
H6号住居址カマド (南から)
H6号住居址遺物出土状況
H6号住居址カマド遺方 (南東から)
H7号住居址全景 (南から)
H7号住居址カマド (南から)
H7号住居址カマド遺方 (南から)

図版13

H7号住居址遺方 (北西から)
H8号住居址出土状況 (東から)
H8号住居址全景 (南東から)
H8号住居址カマド (南から)
H8号住居址遺物出土状況1

H18号住居址遺物出土状況2
H18号住居址遺物出土状況3
H18号住居址遺物出土状況4

図版14

H18号住居址遺物出土状況5
H18号住居址カマド跡方(南から)
H18号住居址庭方(東から)
H18号住居址検出状況(北から)
H19号住居址金葉(南から)
H19号住居址カマド(南から)
H19号住居址遺物出土状況1
H19号住居址遺物出土状況2

図版15

H19号住居址遺物出土状況3
H19号住居址カマド跡方(南から)
H19号住居址庭方(南から)
H10号住居址金葉1(南から)
H10号住居址金葉2(西から)
H10号住居址カマド(南から)
H10号住居址遺物出土状況1
H10号住居址遺物出土状況2

図版16

H10号住居址遺物出土状況3
H10号住居址カマド跡方(西から)
H10号住居址庭方(南から)
H11号住居址検出状況(西から)
H11号住居址金葉1(南西から)
H11号住居址金葉2(南西から)
H11号住居址遺物出土状況
H11号住居址カマド(南西から)

図版17

H11号住居址カマド跡方(南西から)
H11号住居址庭方(南西から)
H12号住居址金葉(西から)
H12号住居址カマド(西から)
H12号住居址遺物出土状況1
H12号住居址カマド南側土坑・遺物出土状況2
H12号住居址カマド跡方(西から)
H12号住居址庭方(西から)

図版18

H13号住居址検出状況(北東から)
H13号住居址金葉(南から)
H13号住居址北カマド(南西から)
H13号住居址東カマド(西から)
H13号住居址庭方(南から)
H14号住居址検出状況(北西から)
H14号住居址金葉(西から)
H14号住居址庭方(南から)

図版19

H15・16号住居址検出状況(北西から)
H15号住居址金葉(南から)
H15号住居址カマド(西から)
H15号住居址遺物出土状況1
H15号住居址遺物出土状況2
H15号住居址遺物出土状況3
H15号住居址遺物出土状況4
H15号住居址カマド跡方(南西から)

図版20

H15号住居址庭方(南から)
H16号住居址金葉(南から)

H16号住居址カマド(南から)
H16号住居址遺物出土状況
H16号住居址カマド跡方(南から)
H16号住居址庭方(南から)
H17号住居址検出状況(南西から)
H17号住居址金葉(南西から)

図版21

H17号住居址カマド(南東から)
H17号住居址カマド跡方(東から)
H17号住居址庭方(南東から)
H18号住居址検出状況(北東から)
H18号住居址金葉(南から)
H18号住居址カマド(南から)
H18号住居址遺物出土状況1
H18号住居址遺物出土状況2

図版22

H18号住居址カマド跡方(南から)
H18号住居址庭方(南から)
H19号住居址検出状況(北から)
H19号住居址金葉(南から)
H19号住居址カマド(南から)
H19号住居址ヒット内遺物出土状況
H19号住居址カマド跡方(南から)
H19号住居址庭方(南から)

図版23

H20号住居址金葉(南から)
H20号住居址カマド(西から)
H20号住居址カマド跡方(西から)
H20号住居址庭方(北から)
H21号住居址検出状況(西から)
H21号住居址金葉(南から)
H21号住居址カマド(南から)
H21号住居址カマド跡方(南から)

図版24

H21号住居址庭方(南から)
H22号住居址金葉(北東から)
H22号住居址カマド(北東から)
H22号住居址カマド跡方(北東から)
H22号住居址庭方(北東から)
H22号住居址検出状況(東から)
H22号住居址金葉(南東から)
H22号住居址庭方(南東から)

図版25

H24号住居址検出状況(南西から)
H24号住居址金葉(西から)
H24号住居址カマド(西から)
H24号住居址カマド(南西から)
H24号住居址庭方(南から)
H25号住居址検出状況(南東から)
H25号住居址金葉(南から)
H25号住居址カマド(南から)

図版26

H25号住居址土坑
H25号住居址カマド跡方(南から)
H25号住居址庭方(南から)
H25号住居址金葉(西から)
H26号住居址東カマド(西から)
H26号住居址東カマド周辺遺物出土状況
H26号住居址北カマド(南から)
H26号住居址東カマド跡方(西から)

区版27

- H26号住居址北カマド掘方 (南から)
- H26号住居址北カマド竪溝遺物出土状況
- H26号住居址掘方 (西から)
- H27号住居址出土状況 (西から)
- I127号住居址全景 (北京から)
- H27号住居址カマド (南東から)
- H27号住居址カマド東礎土坑
- I127号住居址カマド掘方 (南東から)

区版28

- H27号住居址掘方 (南東から)
- Ta1号竪穴状遺構全景 (西から)
- Ta2号竪穴状遺構全景 (東から)
- Ta3号竪穴状遺構全景 (南から)
- 平成24年度調査分M1号溝状遺構全景 (西から)
- 平成25年度調査分M1号溝状遺構全景 (東から)
- M2号溝状遺構北側部全景 (北から)
- M2号溝状遺構中間部全景 (西から)

区版29

- M2号溝状遺構南側部全景 (南西から)
- M3号溝状遺構全景 (西から)
- M4・5号溝状遺構全景 (南から)
- M6号溝状遺構全景 (南西から)
- M7号溝状遺構全景 (南西から)
- M8号溝状遺構全景 (南西から)
- D1号土坑全景

区版30

- D2号土坑全景
- D3号土坑全景
- D4号土坑全景
- D5号土坑全景
- D6号土坑全景
- D7号土坑全景
- D8号土坑全景
- D9号土坑全景

区版31

- D10号土坑全景
- D11号土坑全景
- D12号土坑全景
- D13号土坑全景
- D13号土坑遺物出土状況
- G区ビット群 (南東から)
- G区ビット群1 (南から)
- G区ビット群2 (南から)

区版32

- H1・2号住居址出土遺物

区版33

- H3・4・5号住居址出土遺物

区版34

- H8・7号住居址出土遺物

区版35

- H8号住居址出土遺物

区版36

- H8・9号住居址出土遺物

区版37

- I19号住居址出土遺物

区版38

- H9・10号住居址出土遺物

区版39

- H10・11号住居址出土遺物

区版40

- H11・12号住居址出土遺物

区版41

- H12・13・14・15号住居址出土遺物

区版42

- H15・16号住居址出土遺物

区版43

- H16・17号住居址出土遺物

区版44

- I17・18・19号住居址出土遺物

区版45

- H19号住居址出土遺物

区版46

- H19・20・21号住居址出土遺物

区版47

- H21・22号住居址出土遺物

区版48

- H22・23・24号住居址出土遺物

区版49

- H25・26号住居址出土遺物

区版50

- H26号住居址出土遺物

区版51

- H26・27号住居址、Ta2号竪穴状遺構、M2・4号溝状遺構出土遺物

区版52

- M4号溝状遺構、土坑、掘立柱建物跡、ビット、遺構外出土遺物

区版53・54

- 墓室土器

第I章 調査の経過

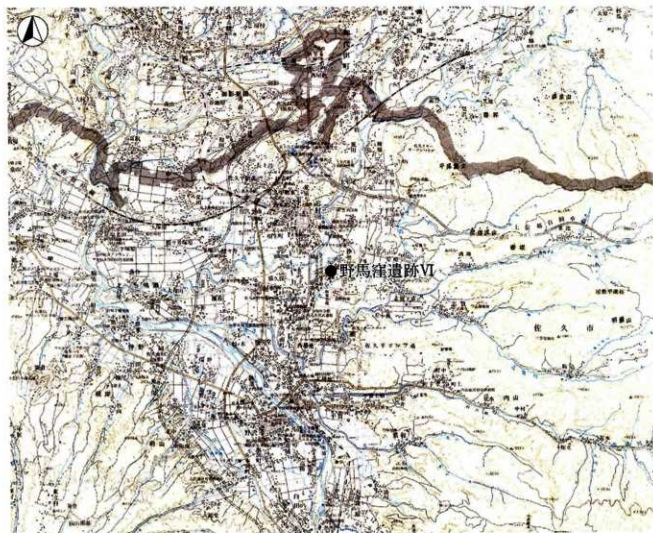
第1節 調査に至る経緯

1. 創練の森整備事業と保護協議

創練の森は、武道館・研修センター改築等の必要性から、周辺道路整備とあわせ、事業が開始されることとなった。

佐久市教育委員会では、この整備計画にあたり、開発地域一帯が、野馬窪遺跡群に含まれる事から、社会教育部体育課・公民館・建設部道路建設課等の関係部署と保護協議を重ねた（平成24年4月～）。平成24年7月9～13日には、創練の森事業用地内の試掘確認調査を実施し、調査結果を基に行った協議から、遺跡が破壊される調整池及び掘削造成される地域周辺、車道部分、研修センター建築部、周辺道路拡幅部の発掘調査と既存道路改良工事の立ち会い調査を実施する運びとなった。なお、工事によって遺構への影響が認められない地域については埋土保存とした。

平成24年11・12月に、創練の森周辺道路整備に係わるS3-2号線、S3-5号線拡幅部のうち遺跡が認められた地域の調査を実施し、平成25年5～8月には、創練の森整備地域内の調整池・造成により掘削される地域周辺・車道及び研修センター建築予定地、周辺道路整備に係わるS3-8号線拡幅部の調査を実施した。また、平成25年8月から平成26年3月にかけて道路改良工事に伴い掘削幅が狭小で遺跡の存在が未確認であったS3-9号線、S3-5号線の立ち会い調査及び平成25年度事業用地内のうち未買収地域であったS3-2号線北側の試掘確認調査を実施した。



第1図 野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VI位置図(1:100,000)

2. 文化財保護手続き

平成24年4月9日 土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出（94条書類）

武道館・多目的運動場事業、研修センター整備事業

平成24年6月12日 土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出（94条書類）

周辺道路整備

3. 調査体制

調査受託者 佐久市教育委員会

教育長 土屋 盛夫（～平成26年5月）

榎澤 晴樹（平成26年5月～）

（平成24年度）

事務局 社会教育部長

伊藤明弘

文化財課長

吉瀬 隆

文化財調査係長

三石宗一

文化財調査係

須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明 上原学

並木節子 神津一明 久保浩一郎

囑託職員

林幸彦

現場・整理担当者

上原学

現場・整理調査員

浅沼勝男 江原富子 小幡弘子 風間敏 木内勇

小井土秀元 小林百合子 滑水澄生 滝沢三男 土屋武士

中嶋フクジ 比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 渡辺長子

渡辺学

（平成25年度）

事務局 社会教育部長

矢野光宏

文化財課長

三石宗一

文化財調査係長

比田井清美

文化財調査係

須藤隆司 小林眞寿 富沢一明 上原学 神津一明

久保浩一郎

囑託職員

林幸彦

現場・整理担当者

上原学

現場・整理調査員

赤羽根充江 浅沼勝男 岩崎重子 岩松茂年 小幡弘子

神津和子 小島真 小林節子 中澤登 羽毛田利明

比田井久美子 武者幸彦 横尾敏雄 依田好行 渡辺学

（平成26年度）

事務局 社会教育部長

山浦俊彦

文化財課長

三石宗一

文化財調査係長

比田井清美

文化財調査係

小林眞寿 富沢一明 上原学 神津一明 久保浩一郎

囑託職員

林幸彦

整理担当者

上原学

整理調査員

浅沼勝男 岩崎重子 岩松茂年 小幡弘子 羽毛田利明

比田井久美子 武者幸彦 横尾敏雄 渡辺学

第2節 発掘作業の経過

1. 発掘作業

(1)名称と記号

遺跡名は、事業予定地域が佐久市演跡詳細分布区により、野馬嶺演跡群内に含まれており、周辺地域では、野馬嶺遺跡群 野馬嶺遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴの調査が実施されていることから、「野馬嶺遺跡群 野馬嶺遺跡Ⅵ」と名付けた。略号は調査済みの遺跡に使用されていた「SNK」に野馬嶺遺跡群内では6カ所目の調査を意味するローマ数字のⅥを付記し「SNKⅥ」とした。

(2)遺構の名称と記号

H—竪穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は見られていない。）

Ta—竪穴状遺構（地面を円形や方形に掘りくぼめ、中世の建物、築碁住居、貯蔵庫等と考えられるもの。土坑と区別するため、径または長さ3m以上とした。）

F—傾立柱建物跡（円形や方形に掘りくぼめ、柱を建てたと考えられるピットが規則正しく配列され、倉庫等の建物として使用されたと考えられるもの。）

D—土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめ、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・竪穴状遺溝と区別するため、径または長さ0.5m以上3m未満を土坑とした。）

M—溝状遺構（地面を溝状に掘り下げたもので、環濠・水路・道路・堀等と考えられるもの。）

P—ピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを建てたと思われるもの。土坑と区別するため、径が0.5m未満とした。）

(3)調査区の設定

調査区上に區画座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に、木製の遺構測量用基準杭を打設した。（頭部に釘設置）

グリッド名は、大グリッドにローマ文字（A、B、C・・・）を、小グリッドは北から南方向にアラビア数字を（1～10）、東から西方向にひらがな（あ～こ）を使用し、グリッド名A—あ—1グリッドのように設定した。

(4)調査の方法

調査は、試掘確認調査の結果及び保護協議から設定した調査区の表土を重機によって遺構検出面である黄褐色ローム上層まで除去した。その後、人員による遺構の検出作業を行い、設定可能な地域から基準杭を打設した。検出した遺構は命名後、掘り下げ・区面作成・写真撮影等の作業を実施した。住居址の掘り下げは、4区画（Ⅰ～Ⅳ区）に分割し、対角のⅠ・Ⅲ区を床面まで掘り下げ、セクション図作成後、層ごとに床面まで完掘した。その後ピット、炉、カマド等の付随施設を掘り下げ、写真撮影、平面区作成を実施し、住居址掘方の写真撮影及び図面の追加作成を行った。カマドが設置されている住居址は、住居址掘方掘り下げ時にカマドの解体調査を実施しながら図面を作成した。遺物は、地区及び可能なものは層ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は撮影ごとにタワーを設置して撮影した。遺構の平面区作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

調査地域の順序は、範囲が、広く分散していることから、一定の区域を設定し、調査の進捗状況によって徐々に調査箇所を移動した。

(5)日誌

- 平成24年度 7月9日～13日 試掘調査（住居址・溝状遺構・ピットなど発見）。
11月21日～重機による表土除去作業開始。
11月21日～遺構検出・遺構掘り下げ・区画作成・写真撮影等。基準杭設定作業。
12月21日 機材撤収。平成24年度現場作業終了。
- 平成25年度 4月12日～調査区範囲の設定・機材準備等。
5月13日～重機による表土除去作業。
5月15日～遺構検出・遺構掘り下げ・区画作成・写真撮影等・基準杭設定作業。
8月26日～創設の森事業用地内・S3-8号線拡張部調査終了。
9月2日～17日 S3-5号線、S3-9号線道路改良部立会調査。
12月11日～S3-2号線立会・試掘・確認調査。
2月13日～S3-2号工事立会調査。

2. 整理作業

(1)整理の内容

整理作業は発掘調査年度（H24・25年度）に図面整理・図面修正、写真整理、遺構図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測、覆土ふり作業等を行い、最終年度である26年度に残りの遺物実測図作成、遺物写真撮影、割付本作成、鉄製品保存処理、遺構・遺物図版作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・区画収納作業を実施した。

遺物実測は調査員が1/2で鉛筆実測したものを、1/2でトーンスし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による反割付を行った後、製図ペンにてトースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト製「ワード」、表原稿はマイクロソフト製「エクセル」を使用し、遺構・遺物写真はニコン「NEFデータ」を使用した。

金属製品は劣化を防ぐため、平成26年度に保存処理業務を業者委託した。

(2)資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

平成24年度

平成24年12月4日～整理作業開始。

遺物を遺構ごとに整理した後、洗浄作業から開始。遺物乾燥後、注記・接合・補修補強・実測図作成を行う。

同時に図面整理・修正、写真ネガ・写真データの整理を実施。

平成25年1月18日 平成24年度分整理作業終了。（平成25年度へ継続）

平成25年度

平成25年4月15日～5月14日 実測図作成、遺構トース、遺物補修補強作業を実施。

5月21日～図面修正、写真整理、遺構鉛筆トース、遺構トース。

平成26年2月20日 遺物洗浄、遺物注記、遺物接合、遺物復元補強、覆土ふり、

遺物実測、遺構・遺物図版作成。

平成26年度

6月2日～11月28日 遺物実測、遺物トレース、遺構・遺物図版作成、埋土ふるい、原稿作成。

7月1日 鉄器保存処理契約。

12月5日 原稿入稿。

12月～平成27年3月 遺物・図面整理、遺物・図面収納作業。

3月 報告書刊行。



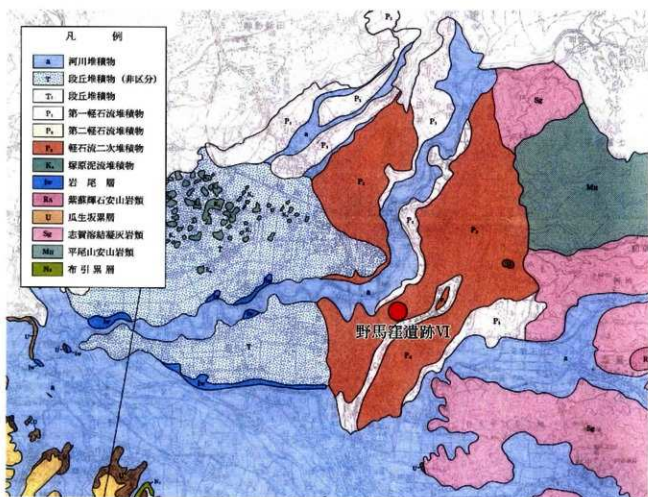
第2図 野馬窟遺跡群 野馬窟遺跡VI位置図 (1:5,000)

第二章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷(田切り地形)を形成している。これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査対象となった野馬窟遺跡VIは、浅間山の噴出物である軽石流の第二次堆積物が厚く堆積した湯川左岸、猿久保地籍の湯川と谷状地形に挟まれたおよそ南北方向に細長い段丘上に位置し、北から南に向かって緩やかな傾斜を示す。標高は700~704mを測る。



第3図 佐久市地質図 (佐久市志自然編から)



佐久平周辺航空写真（南から）

第2節 歴史的環境

野馬窪遺跡VIは、北方の浅間山に源を発する湯川左岸段丘上の猿久保地籍に展開する弥生時代から中世の複合遺跡である。今回は、遺跡付近の湯川右岸端部及び湯川左岸における遺跡状況を中心に以下時代別に述べる。

旧石器時代-佐久市における遺跡は、北に聳える浅間山の形成段階で噴出した軽石流（約13,000～11,000年前）の影響によって遺跡が埋没または消滅したと考えられる湯川右岸以北地域を除く、佐久平縁辺丘陵地帯に展開する傾向が窺え、段丘平坦部に展開する野馬窪遺跡群内では今のところ発見されていない。市内の代表的な遺跡は、南部の前山地籍に所在する立科F遺跡、北東部の香坂地籍に所在する八風山遺跡群がある。東方の香坂川流域に展開する八風山遺跡IIでは、始良Tn火山灰・ハヶ岳4テフラ降灰以前、放射能炭素年代測定補正後の値が $32,240 \pm 260$ BP（BPは1,950年代からの遡りを意味する）といった数値が測定された（測定資料の炭化物中最も古い数値）石器群が出土し、八風山遺跡I、八風山遺跡IV A～C地点では付近で産出するガラス質安山岩を使用している石槍製作跡が発見されている。

縄文時代-遺跡は佐久盆地の周囲を取り囲む山際の台地上に形成される傾向があり、付近に河川等の水源が認められることも多い。野馬窪遺跡群内では土器は僅かに出土しているが、住居址を伴う遺跡は発見されていない。範囲を広げると、東方には戦国時代まで志賀湖と呼ばれる大きな湖が存在しており（戦国時代の開拓によって消滅）、湖周辺の平坦な湖岸及び東方から突き出した低丘陵先端の緩斜面に草創期から後期の遺構又は遺物が確認されている。

草創期は本遺跡の東方、志賀湖の西岸に位置する和田上遺跡IIから爪形文土器が1片出土している。また、西方の湯川左岸段丘上に位置する寺畑遺跡から爪形文土器及び同時期と思われる石器が出土している。土器は、底部・胴部・口縁部分が存在しているため、この時期としては好資料である。

早期は、志賀湖の南岸に展開する寄山遺跡群及び西岸の和田上遺跡・和田上遺跡IIから、楕円・山形文などの土器片が出土している。また、志賀湖に注ぎ込む河川の一つである霞川上流の香坂地籍に所在する曲尾II遺跡から楕円・山形押型文、貝殻沈線文系、貝殻条痕文系、絡状体圧痕文系など、茂内口遺跡では中葉から末の土器片が出土している。

前期は東方の寄山遺跡群の一つである中条峯遺跡に初頭の集落が営まれ、寄山遺跡IV B区、7区からは土器が出土している。また、茂内口遺跡からは後半の諸磯式土器が、志賀湖北側の霞川左岸に位

置する権現平遺跡からは羽状縄文系土器などを伴う住居址数軒が発見された。日当たりのよい緩やかな南斜面を利用して集落が形成されている。

中期になると遺跡数が増加し、遺構・遺物が共に発見される例が多くなる。特に奇山遺跡群は、佐久市を代表する縄文時代の遺跡で、住居址等の遺構及び土器、土偶、多量の打製石斧が発見されている。また、曲尾Ⅱ遺跡からは加曾利B系、曾利系、唐草文系土器などが発見されている。

後期は東方の志賀湖西岸に位置する和田上遺跡において堀之内式期の敷石住居址1軒が調査された。和田上遺跡Ⅱからこの時期と考えられる土坑及び堀之内・加曾利B・称名寺式などの土器片が出土している。土器が認められるD26号土坑から出土した炭化材の年代測定結果は3,470±20yrBPであった。また、鶴ノネ遺跡からは中期末から後期初頭の土器を出土する住居址が数軒発見されている。

晩期の遺跡は佐久市全域をみても破片資料が主体である。

弥生時代前期の遺跡は近年、徐々に増してきてはいるが、佐久市全域をみても未だ少ない状況である。西方の湯川左岸低位段丘上に位置する敷久保地籍の仲田遺跡からは口縁部の蓋1片が、南の千曲川左岸沖積地上に位置する野沢地籍の五里田遺跡から氷Ⅱ式の土器片が土坑などから発見されている。土器が認められるD7号土坑から出土した炭化材の年代測定結果は2,370±40yrBPであった。本遺跡に比較的近い湯川対岸の低位段丘上に位置する岩村田地籍の下俣遺石遺跡からは、斜面地・黒色土中から氷式と考えられる土器片が多数出土し、年代測定を行った2点の結果は、条痕文壺肩部2,400±30、壺編代底2,440±30であった。

遺跡の発見例が増加し始めるのは中期後半になってからである。湯川兩岸の段丘上には数多くの遺跡が所在する。右岸の岩村田から鳴瀬地籍にかけての台地端部では西八日町遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡、森平遺跡など、中期後半から後期にかけての遺跡が連続して所在している。左岸においても、本遺跡北方の上流に下小平遺跡、西方の下流に根々井芝宮遺跡、東方の戸坂遺跡、南方の深畑遺跡で住居址等の遺構が発見され、比較的規模の大きな集落が形成されていたようである。野馬窟遺跡群内では、本調査区南において、昭和56年に幼稚園増築工事に伴う野馬窟遺跡の調査が行われ、後期の住居址2軒、溝址2条が発見されている。しかし、周辺で行われた発掘調査の状況は、弥生土器が出土してはいるが、住居址等遺構の発見例が少ない状況であることから、遺跡群内においては、小規模な集落が形成される程度であった可能性が考えられる。

古墳時代前期の遺跡数は、近年発見数は徐々に増しているが、遺跡数は前代の弥生時代後期に比べ少なく、各遺跡で発見される住居数が数件と小規模である。本遺跡周辺では湯川左岸の狭小な段丘、丘陵地帯山麓部の台地、田切り地形の東西を浸食谷によって分断された細長い台地上から発見され、小規模ながら市内では比較的多くの遺跡が認められる。池端城跡は巖川左岸の三方が丘陵地帯に囲まれた台地に存在し、前期の住居址2軒が発見され、S字状口縁付壺、小型器合、小型丸底壺等の遺物が出土した。この時期では比較的良好な残存状況を示し、H2号住居址は8.5×7.5mを測るやや大型であった。池端遺跡は田切り地形の台地上に位置し、2軒の住居址が発見され、出土遺物から弥生時代末～古墳時代初頭と考えられている。また、北の湯川左岸第2段丘上のやや手狭な台地に形成された腰巻遺跡からは前期後半の住居址4軒が、南の深堀遺跡から数軒の住居址が発見されている。5世紀後半になると、徐々に発見される遺跡数が増加し、この頃に佐久市では、住居内にカマドが導入され始めるようである。立地は、これまでの山麓部などの小規模集落に加え、比較的平坦で幅広い田切り地形の台地上、河川によって形成された肥沃な沖積地上に大規模な集落が発生してくる。南の千曲川及び東から注ぎ込む滑津川によって形成された沖積地に立地する平賀地籍の榎村遺跡では、5世紀後半から7世紀にかけての住居址が300軒以上発見されている。湯川左岸に位置する本遺跡周辺の台地上では、東の権現平遺跡から後期の住居址が6軒、北東の四ツ塚遺跡Ⅱから後期の住居址2軒、南方の深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、深堀遺跡Ⅳから後期の住居址2軒、南東の馬瀬口遺跡から後期の住居址4軒が発見されている。今回の調査では5軒の住居址が調査されている。これらの状況から、野馬窟遺跡周辺の湯川左岸段丘上では、榎村遺跡ほどの大規模集落は形成されなかったようである。

次に古墳だが、佐久市内では、現存・消滅をあわせ、約500基を数える。形態は円墳が主体で、これ

に方墳が加わる。市内では前方後円墳と断定できる古墳は未だ確認されていないが、千曲川左岸丘陵上に前方後方型と考えられる瀬の峰古墳（現在は墳丘墓と考えられている）が存在することから未確認の前方後円墳が存在する可能性も否定できない。時期的にみると前半期の古墳は少なく、単独で河川の段丘上及び丘陵尾端上に構築されている。後期から終末期は圧倒的に数が増し、小型円墳が主体

№	遺跡名	所在地	正	郭	築	古	原	中	備考
1	野馬嶺遺跡Ⅵ	猿久保					○	○	今回調査
2	立科マ遺跡	前山字立科		○					H2年度調査 佐久市第5集
8	八風山遺跡群	香浜島谷前池	○						H5～7年度調査 佐久市第75集
4	寺畑遺跡Ⅰ	猿久保字下原		○					H6年度調査 佐久市第40集
5	和田上遺跡Ⅰ	新子江・瀬戸			○	○	○	○	S64年度調査
6	和田上遺跡Ⅱ	瀬戸		○	○	○	○		H23年度調査 佐久市第206集
7	曲尾工助跡	香坂字山尾		○					S62年度調査 佐久市文化財調査レポート第15集
8	茂内口遺跡	香坂字茂内口		○			○		S61年度調査 佐久市「茂内口遺跡」
9	中条塚遺跡	瀬戸字中城塚・中城平	○	○	○				E2・3年度調査 佐久市第42集
10	寄山遺跡	瀬戸	○	○					E2～4年度調査 佐久市第42集
11	権現平・準畑遺跡	新子田字権現平	○	○	○				E8年度調査 佐久市第45集
12	鷲ノ木遺跡	香坂字鷲ノ木		○					S62年度調査 佐久市文化財調査レポート第21集
13	五里田遺跡	野沢字五里田		○	○	○			H9年度調査 佐久市第79集
14	仲田遺跡	猿久保仲田							H7年度調査 佐久市第66集
15	下俣磯石遺跡	岩村田下俣磯石池		○	○	○			H16年度調査 佐久市第134集
16	西八日町遺跡	岩村田字西八日町池		○	○	○			佐久市第113・126・127・139・172・173・175集他
17	北一本郷遺跡	岩村田字北一本郷池		○	○	○			S46・47・H15・16・19年度調査 佐久市第168集他
18	西一本郷遺跡	岩村田一本郷池		○	○	○			佐久市第34・37・73・91・113・125・139・154集他
19	北西の久保遺跡	岩村田北西久保		○	○	○			S67～69年度調査 佐久市「北西の久保」
20	森ノ池遺跡	横和字森平		○	○	○			H18年度調査 佐久市第165集
21	下小平遺跡	岩村田		○	○				S55年度調査 佐久市「下小平遺跡」
22	根々井芝宮遺跡	根々井字芝宮池			○	○	○		H3・4年度調査 佐久市第49集
23	戸塚遺跡	新子田字戸塚池		○	○	○			E16年度調査 佐久市第129集
24	深瀬遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	瀬戸		○	○	○	○		E10～12年度調査 佐久市第98集
26	深瀬遺跡Ⅳ	瀬戸字西原庄		○	○	○			H11・12年度調査 佐久市第101集
26	池端城跡	新子田字池端			○	○	○		H7年度調査 佐久市第48集
27	辰越遺跡	上平尾字辰越		○	○	○			S62年度調査 佐久市文化財調査レポート第15集
28	強村遺跡Ⅰ	豆賀字強村		○	○	○			S57・58年度調査 佐久市「強村遺跡」
29	強村遺跡Ⅱ	平賀字強村				○	○		H11・12年度調査 佐久市第106集
30	四ツ塚遺跡Ⅰ	新子田字供養塚		○	○	○			H10年度調査 佐久市第79集
31	四ツ塚遺跡Ⅱ	新子田字供養塚			○				H11年度調査 佐久市第81集
32	馬瀬口遺跡	瀬戸				○	○		H19年度調査 佐久市第182集
33	権の塚古墳	根岸				○			S67年度調査 佐久市文化財調査レポート第14集
34	蛇塚古墳	安原蛇塚				○			H8年度調査 佐久市78集
35	野馬嶺古墳	猿久保				○			
36	塚敷古墳	安原字塚敷				○			
37	金井塚古墳	猿久保				○			
38	街懸塚古墳	猿久保				○			
39	供養塚遺跡Ⅰ	新子田字供養塚				○			E10年度調査 佐久市第67集
40	供養塚遺跡Ⅱ	新子田字供養塚				○			E15年度調査 佐久市第114集
41	野馬嶺遺跡Ⅰ	猿久保		○	○				S56年度調査
42	野馬嶺遺跡Ⅱ・Ⅲ	猿久保		○	○	○	○		H20年度調査 佐久市第170集
43	蛇塚B遺跡Ⅱ	新子田				○			H6年度調査
44	志賀町遺跡Ⅱ	新子田字高師町				○	○		H7年度調査 佐久市第57集
45	磐瀬前遺跡Ⅰ・Ⅱ	猿久保字磐瀬前池				○	○		H8年度調査 佐久市第55集
46	香坂前遺跡Ⅲ	猿久保字香坂前				○			H10年度調査 佐久市第77集
47	穴戸田遺跡	平賀字穴戸田		○	○	○	○		H14・15年度調査 佐久市第135集
48	馬山遺跡	内山字馬山		○	○	○	○		H18～18年度調査 佐久市第135集

第1次 周辺遺跡表

(第4回中冊号の無い遺跡は地図外)



第4图 周边遗址位置图 (1:10,000)

となり丘陵末端部の緩斜面形及び段丘部に古墳群を形成している。付近の調査例としては北方の湯川左岸段丘端部に所在した蛇塚古墳群3基の古墳が調査され、青・水色・緑・黄色のガラス小玉、馬具、金銅貼鈿といった遺物が出土した。築造時期は6世紀後葉から7世紀の川城と考えられた。現在は消滅している。この他、現存している古墳として、野馬籠遺跡群周辺の段丘平坦部では、調査区東に野馬籠古墳、北に枝敷古墳、南西に金比羅塚古墳、御経塚古墳が確認できる。

奈良・平安時代～奈良時代は、西方の湯川左岸段丘上の伴田遺跡で住居跡10軒、東の四ツ塚遺跡Ⅰで5軒、供養塚遺跡で2軒、供養塚遺跡Ⅱで1軒、南の深沼遺跡から数軒発見されている。四ツ塚遺跡Ⅰ、供養塚遺跡、供養塚遺跡Ⅱはそれぞれ霞川、香坂川右岸段丘上に近接する遺跡であることから、一定の空間を保って形成された同一集落と推察される。野馬籠遺跡群内ではこれまで奈良時代と断定できる住居跡は発見されていない。平安時代になると住居址等の遺構が発見されるようになる。野馬籠遺跡で平安時代の住居址1軒、野馬籠遺跡Ⅰ・Ⅲで1軒、西に隣接する地域で実施した試掘調査で同時期と考えられる遺構が発見されている。周辺遺跡では東方の蛇塚B遺跡Ⅱで7軒、高師町遺跡Ⅱで4軒、南東の馬瀬川遺跡で4軒、西方の伴田遺跡で11軒、南方の深塚遺跡で90軒前後が調査されている。立地的な特徴として、いずれの遺跡も河川によって形成された段丘及び谷状地形に分断された台地端部に広がる平土地を利用する傾向が認められる。

中世～野馬籠遺跡群内では、東側の隣接地である野馬籠遺跡Ⅱ・Ⅲで竪穴遺物址、竪立柱建物跡、土坑、区画に利用したと考えられる溝跡、ピットが調査され、一帯に中世前期頃の館跡が所在していたと考えられている。また、南に隣接する番屋前遺跡群内に位置する番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱから中世と考えられる溝跡が、番屋前遺跡Ⅲから中世の竪穴遺構、土坑、溝状遺構、ピットが発見されている。

第3節 発見された遺構と遺物

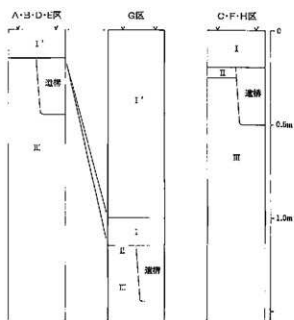
遺 構 竪穴住居址・27軒（古墳～平安時代） 竪立柱建物跡・2棟 竪穴状遺構・3軒
土坑・13基 溝状遺構・8条 ピット・830個

遺 物 弥生土器片（甕） 土師器（坏・高坏・碗・甕・甌・羽釜） 須恵器（坏・甕）
灰釉陶器（碗・皿・壺）
石器・石製品（すり石・紡錘車） 鉄製品（刀子・斧・紡錘車） 銅製品（巡方）

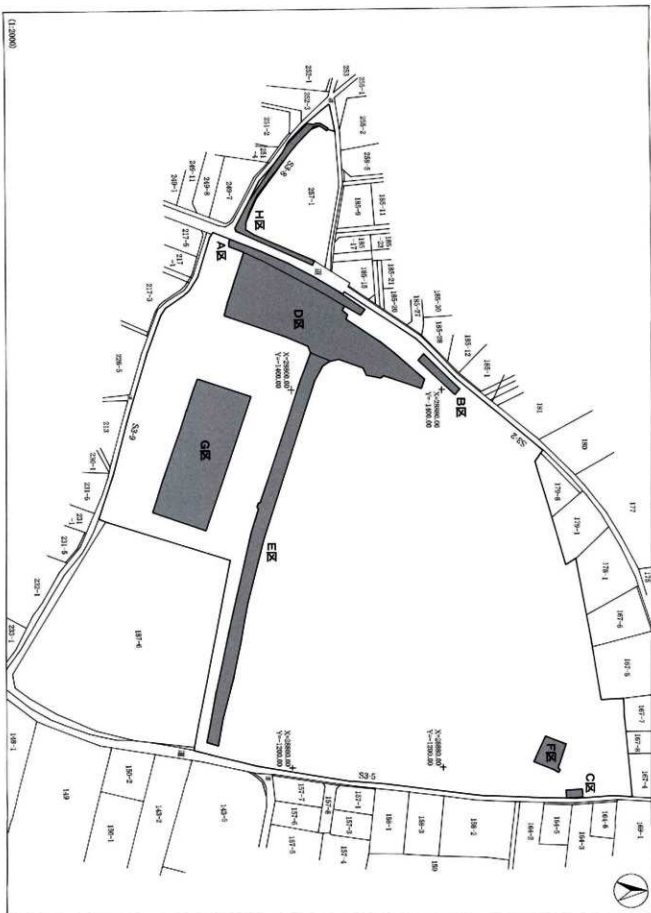
第4節 基本層序

遺跡付近は、羽仁の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面を日表土及び道路工事・グラウンド造成等による整地層が覆っている。今回調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

I'層は厚層10～100cmを測る溜土の整地層である。I層はC・F・H区及びG区で確認された整地層直下に残存した表土層で10～35cmを測る。西側のA・B・D・E区は完全に削り取られ存在しない地域が多い。II層は表土とロームの暗褐色土中間層である。III層は浅間山の噴出物であるローム層である。遺構確認は、III層上面で明確に判断できる。D区周辺では、遺構上部の大半が残存していない状況から、旧表土と共にIII層上面も数10cmの厚みで削り取られていると考えられた。



第5図 野馬籠遺跡Ⅰ 基本層序模式図

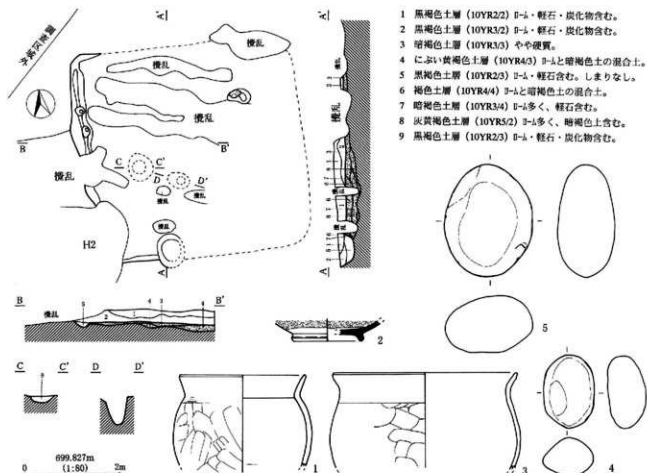


第6図 野馬津灘跡VI 全体図 (1 : 2,000)

第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居

H1号住居



- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) 0- δ ・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR3/2) 0- δ ・軽石・炭化物含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/3) やや硬質。
- 4 におい・黄褐色土層 (10YR4/3) 0- δ と暗褐色土の混合土。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/3) 0- δ ・軽石含む。しまりなし。
- 6 褐色土層 (10YR4/4) 0- δ と暗褐色土の混合土。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/4) 0- δ 多く、軽石含む。
- 8 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 0- δ 多く、暗褐色土含む。
- 9 黒褐色土層 (10YR2/3) 0- δ ・軽石・炭化物含む。

第8図 H1号住居遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	[13.4]	-	(9.5)	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・胴部破片	外面 10YR6/4 におい・黄褐色粘 土質表面 製方出土
2	灰胎陶器	碗 or 皿	-	[7.2]	(2.2)	回転ヘラケズリ後高台貼り付け	底部・体部破片	外面 2.5Y7/2 灰黄色 土質表面 IV区出土
3	土師器	甕	[19.5]	-	(10.1)	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・胴部破片	外面 10YR6/4 におい・黄褐色粘 土質表面 Ⅷ・IV区・検出出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
4	石器	すり石	7.7	5.38	4.18	表面すり痕	210.01	IV区出土
5	石器	すり石	10.81	9.27	5.96	表面すり痕	814.07	検出出土

第2表 H1号住居遺物観察表

遺構は調査区西のW-おー7グリッドに位置し、南西コーナーをH2に破壊され、H23と切り合い関係にあり、近年の耕作によって大きく破壊されている。確認できたのは西壁周辺の壁立ち上がりと床面の一部で、主軸はN5°Wである。

平面形態は残存状況から方形又は長方形と考えられる。

規模は確認した範囲で南北壁3.2m、南壁0.8m、確認面から床面までの深さは最大28cmである。

覆土は、大半が攪乱の混合土で埋没当時の状況は不明確である。

構造の特徴として、残存した床面は硬質で、西壁際には壁溝が存在する。ピットは床面上で1個、南壁際に1個、堀方が2個確認できたが、周辺は攪乱によるピットも多数存在したため、本住居に確実に作るピットであるかは断定できない。カマド、炉は認められない。堀方は中央付近が浅く、壁際を深く掘り下げている。

出土遺物は土師器の坏・須恵器の坏・灰軸陶器が出土した。攪乱が激しい状態であったため、古墳時代と平安時代の土器が混在する。小破片が大半である。平安時代は土師器の坏・甕、須恵器の坏が認められ、内面黒色処理の土師器坏が最も多い。古墳時代は土師器の坏・高坏・甕、須恵器の坏・甕が認められる。古墳時代の土器は、切り合い関係にあるH23とほぼ同時期であることから、H23の混入と思われる。図示したのは形状が認められる土師器甕と灰軸陶器の皿または碗、掘方から出土の混入と思われる土師器小型甕である。

時期は、土師器甕の口縁形状がコの字状を呈し、全体的に薄手である事から平安時代、9世紀代としたい。

H2号住居址

遺構は調査区西のW-お-8グリッドに位置し、H1を切り、D1に切られ、西側の一部は調査区域外となる。主軸はN3°Wである。

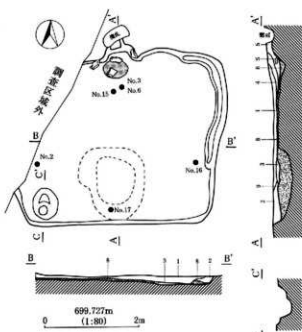
平面形態は調査状況からやや東西に長い長方形である。

規模は南北3.6m、東西4.0m、確認面から床面までの深さは最大18cmを測る。

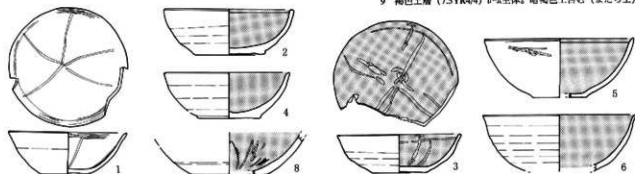
覆土は遺構周辺の壁際から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は全体的に土間状の硬質面を持ち、東壁の一部に深さ5cm、幅23cm内外の壁溝が、南西コーナーに長径65cm、深さ35cmでテラスを持つ南北に長い楕円形の土坑が認められる。ピットは確認できない。カマドは北壁の中央と考えられる位置に構築されている。円形に厚さ10cm程度の焼土が堆積した火床から煙道への立ち上がりが残存し、煙道先端は攪乱に破壊されている。掘方の中央部は浅く、周辺部が若干深く掘り下げた状態である。

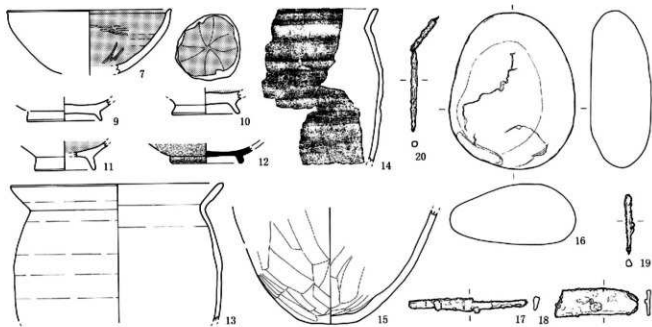
出土遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕、灰軸陶器の碗、鉄製品が出土した。土師器坏・碗は内面黒色処理された個体が未処理に比べ破片も含め倍以上の比率である。形態は口径に対して器高が深めの形状と底部から丸みを持って立ち上がり、器高が低めの形状が混在する。甕はロク口甕が中心で、口辺部の短い形状と長い形状が存在する。H3のロク口甕に比べややつくりが粗い。須恵器坏は破片が数点と僅かな



- 1 黒褐色土層 (10YR3/2)
D-A酸・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3)
D-A酸・炭化物含む。
- 3 褐色土層 (7.5YR4/3) D-Aやや多く含む。
- 4 濃い赤褐色土層 (5YR4/3)
粘土・灰・焼土・炭化物含む。
- 5 暗赤褐色土層 (5YR3/3)
粘土・灰・焼土・炭化物やや多く含む。
- 6 極暗赤褐色土層 (5YR2/3)
焼土・灰・炭化物含む。
- 7 極暗赤褐色土層 (5YR2/4) 焼土・灰・炭化物含む。
- 8 褐色土層 (7.5YR4/3) D-Aと暗褐色土の混合土。しまりあり。
- 9 褐色土層 (7.5YR4/4) D-A主体。暗褐色土含む(まだら土)。



第9図 H2号住居址遺構・遺物実測図



第10図 H2号住居址遺物実測図(2)

出土である。灰釉陶器は高台周辺の破片で、高台の外形は「く」の字、内側は湾曲気味である。施釉方法の漬げがけかの判断はできなかった。須恵器甕は破片数点である。

時期は、須恵器の坏が極僅かで、ロク口甕が主体であること、土師器坏に口径に対し器高が高い形状と浅い形状が混在することから平安時代、9世紀末から10世紀前半としたい。

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.6	4.9	4.6	裏面回転糸切り 体部横ナジ 内面中央から6本の放射状暗文	95	外面10YR6/2黄褐色完全失調 1区・カマド出土
2	土師器	坏	13.8	7.4	4.9	裏面回転糸切り 体部横ナジ 内面中央から放射状暗文	70	外面7.5YR7/6褐色完全失調 5区遺物
3	土師器	坏	13.2	5.5	4.2	裏面回転糸切り 体部横ナジ 内面中央から2本単位の子放射状暗文 内面黒色処理	70	外面7.5YR6/6褐色完全失調 5区遺物
4	土師器	坏	[13.4]	6.7	4.9	裏面回転糸切り 体部横ナジ 内面中央から放射状暗文の遺残あり	45	外面7.5YR7/6褐色一部回転気味 1区出土
5	土師器	坏	[15.8]	[5.6]	6.3	底面ヘラケズリ 体部横ナジ 内面黒色処理	底面から口縁破片	外面7.5YR3/1黄褐色回転気味 H-IV6・焼出出土
6	土師器	坏	[16.2]	-	-	体部横ナジ 内面黒色処理	体部破片	外面7.5YR7/4C, 5J, 6色回転気味 5区遺物
7	土師器	坏	[17.4]	-	-	体部横ナジ 内面黒色処理 中央から放射状暗文 5と同一個体の可能性あり	体部破片	外面7.5YR7/4C, 5J, 6色回転気味 5区出土
8	土師器	坏	-	[7.8]	-	体部横ナジ 裏面ヘラケズリ 中央から放射状暗文 7と同一個体の可能性あり	底面から口縁破片	外面7.5YR7/4C, 5J, 6色回転気味 5区出土
9	土師器	碗	-	7.8	(2.2)	体部横ナジ 内面ナジ 底面高台貼り付け	高台から体部破片	外面7.5YR6/6褐色一部回転気味 焼出出土
10	土師器	碗	-	[7.2]	(2.3)	内面黒色処理・中央から5本の放射状暗文 裏面高台貼り付け	高台から体部破片	外面7.5YR6/6褐色完全失調 焼出出土
11	土師器	碗	-	[6.4]	(2.9)	内面黒色処理 底面やや足高の高台貼り付け	高台から体部破片	外面5YR6/6褐色回転気味 カマド出土
12	灰釉陶器	碗	-	7.4	(1.8)	裏面回転ヘラケズリ後高台貼り付け	高台から体部破片	外面5YR6/6褐色回転気味 カマド出土
13	土師器	ロク口甕	[22.6]	-	[14.7]	-	口縁から体部破片	外面7.5YR6/6褐色回転気味 カマド出土
14	土師器	ロク口甕	-	-	[16.2]	内外面ロク口ナジ	口縁から体部破片	外面7.5YR7/4C, 5J, 6色黒色変調 カマド出土
15	土師器	甕	-	丸底	(12.5)	内外面ヘラケズリ	底面破片	外面7.5YR3/6黄褐色一部回転気味 カマド出土
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大径(cm)	最大径(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
16	石厨	すり石	16.6	13.31	6.36	表面なめらか すり痕か?	2112.4	
17	鉄製品	刀子	(12.47)	1.39	0.54		17.2	5区遺物
18	鉄製品	鎌	(8.66)	2.85	0.55	先端欠損	27.1	焼出出土
19	鉄製品	釘	(6.2)	0.68	0.68	舟形鉄製品 片無欠損	5.44	焼出出土
20	鉄製品	-	(12.18)	0.65	0.54	舟形鉄製品 片無欠損	10.37	焼出出土

第3表 H2号住居址遺物観察表

H3号住居址

遺構は調査区西のW-お-9グリッドに位置し、北壁を擾乱し南壁をD2に破壊され、H22を切る。主軸はN2°Wである。

平面形態は残存状況からやや隅の丸い方形である。

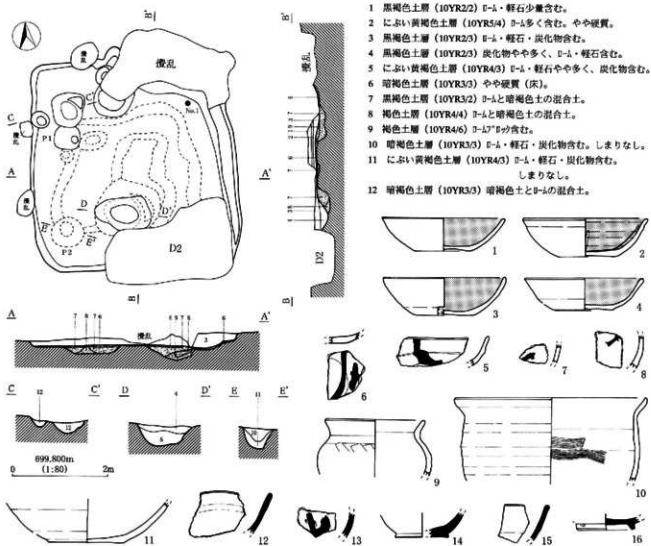
規模は南北4.3m、東西4.2m、確認面から床面までの深さは最大36cmを測る。

覆土は中央付近の一部が3層の他は黒褐色土の単層で、不規則な堆積状況が認められないことから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は土間状の硬質面を持つ。壁溝は確認できない。ピットは床面上で4個、掘方で3個確認できた。主柱穴はP1と掘方で発見したP2と思われる。カマドは北壁のほぼ中央に構築されているが東側半分は攪乱に破壊されている。確認できたのは火床の一部と北壁外に張り出した煙道への立ち上がりである。掘方は、中央と壁周辺をのぞいたドーナツ状の方形部分が深く掘り込まれている。

出土遺物は土師器の坏・碗・ロクロ甕・鉢、須恵器の坏・甕、灰釉陶器、鉄製品が出土した。土師器坏・碗は内面黒色処理が破片も含め未処理の倍以上の比率である。形態はやや小型の底部から体部下は丸みを持って立ち上がり、器高は低めである。墨書が認められる。甕はロクロ甕が中心で薄手の武蔵甕は少ない。須恵器坏も土師器に比べ極僅かである。墨書1点が認められる。灰釉陶器は破片資料で高台部は低く短い。外の傾斜は垂直に近く、内側はハの字直線的で、接地面がやや広い。

時期は、土師器ロクロ甕が主体で、須恵器坏が極僅かであること。坏の形状が底部から丸みを持って立ち上がり、器高が低めの形状が主体であることから、H2にやや後出する平安時代、10世紀前半としたい。



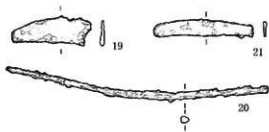
第11図 H3号住居址遺構・遺物実測図



17



18



第12図 H3号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	13.1	5.9	3.6	体部ロクロ横ナデ 底面回転糸切り 内面黒色処理	70	外面5YR6/6褐色 完全実測 胎遺物
2	土師器	坏	13.2	6.2	4	体部ロクロ横ナデ 底面回転糸切り 内面淡い褐色・中央から十字放射状焼文	60	外面7.5YR6/6褐色胎 完全実測 Ⅱ区出土
3	土師器	坏	[13]	[6.2]	4	体部ロクロナデ 底面回転糸切り 内面黒色処理	40	外面5YR6/6褐色胎 完全実測 Ⅱ区出土
4	土師器	坏	[12.6]	6.1	3.4	体部横ナデ 底面回転糸切り 内面黒色処理・中央から2本位の十字放射状焼文	40	外面5YR4/2灰褐色胎 一部回転実測 Ⅱ区出土
5	土師器	坏 or 甕	-	-	-	ロクロナデ 外面黒色あり	口縁破片	外面5YR4/4褐色胎 断面実測 Ⅱ区出土
6	土師器	坏	-	-	(1.1)	底面回転糸切り 底面から体部にかけて墨書あり	口縁から体部破片	外面7.5YR6/4Cふい褐色胎 断面実測 Ⅱ区出土
7	土師器	坏 or 甕	-	-	-	ロクロナデ 外面黒色あり	体部破片	外面7.5YR6/4Cふい褐色胎 断面実測 Ⅱ区出土
8	土師器	坏 or 甕	-	-	-	内面黒色処理 外面墨書あり	体部破片	外面7.5YR7/4Cふい褐色胎 断面実測 Ⅱ区出土
9	土師器	小型甕	[10.6]	-	(5.9)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴縁破片	外面5YR5/2灰褐色胎 回転実測 Ⅱ・Ⅳ区出土
10	土師器	ロクロ甕	[20.4]	-	(8.8)	内外面ロクロナデ	口縁から胴縁破片	外面5YR6/6褐色胎 回転実測 Ⅱ・Ⅳ区出土
11	土師器	坏	-	[7.9]	(4.3)	外面ロクロナデ 底面回転糸切り 内面ナデ・淡い放射状焼文	口縁から体部破片	外面2.5Y5/6明赤褐色胎 一部回転実測
12	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	外面10YR6/1暗褐色胎 断面実測 Ⅳ区出土
13	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ 外面墨書あり	体部破片	外面10YR6/3Cふい黄褐色胎 断面実測 Ⅳ区出土
14	須恵器	坏	-	[5.6]	(2.5)	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り	底面から体部破片	外面10YR6/1暗褐色胎 回転実測 Ⅳ区出土
15	灰釉陶器	皿 or 甕	-	-	-	ロクロナデ 内面灰釉施釉	口縁破片	外面2.5Y8/1R白色胎 断面実測 Ⅰ区出土
16	灰釉陶器	皿 or 甕	-	6.3	(1.3)	底面ヘラケズリ後高台貼り付け	高台から底面破片	外面10YR7/2暗褐色胎 完全実測 Ⅳ区出土
17	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面同心円状に具痕	胴部破片	外面5YR4/3Cふい赤褐色胎 断面実測 Ⅰ区出土
18	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き	胴部破片	外面5Y4/1灰色胎 断面実測 Ⅰ区出土
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大径(cm)	最大径(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
19	鉄製品	小型鎌?	(10.34)	1.66	0.31	片斬欠渡 片刃	14.72	Ⅳ区出土
20	鉄製品	紡錘車軸	(27.55)	0.74	0.81	両端欠渡 角棒状	34.44	Ⅳ区出土
21	鉄製品	鎌	(8.41)	2.73	0.43	両端欠渡	17.25	Ⅲ区出土

第4表 H3号住居址遺物観察表

H4号住居址

遺構は調査区西のWーか-10グリッドに位置し、Ta1に切られ、北壁周辺を攪乱に破壊されている。主軸はN8°Eである。

平面形態は方形である。

規模は南北3.7m、東西4.1m、検出面から床面までの深さは最大25cmを測る。

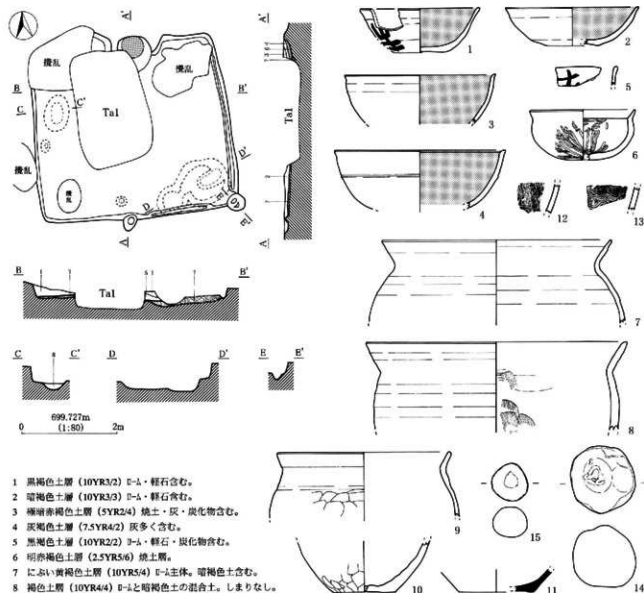
覆土の基本は堆積に不規則な状況が認められない黒褐色土の2層であることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、残存した床面は土間状に硬質である。東壁と南壁東部分に幅15cm、深さ5cm内外の壁溝が存在した。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築されているが大がやが破壊されている。カマド火床から煙道への立ち上がり部分に焼け込みが確認されるのみである。掘方は東側の一部が20cmとやや深い他は5cm内外と浅い。

出土遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕、すり石、弥生土器が出土した。土師器坏は内黒が未処理に比べ圧倒的に多く、高台の付いた甕は認められない。墨書が存在する。甕は口縁口の字状の武蔵甕及びロクロ甕が存在し、ロクロ甕が主体である。須恵器は坏・甕共に破片で数も少ない。また、混入と考えられる古墳時代の土師器及び弥生土器が出土した。

時期は、土師器ロクロ甕が主体であること、坏の形状がやや深さを持ち、甕が認められないこと、

備かだが数個体分の須恵器環が認められ、形状もしっかりしていることから、平安時代、9世紀後半としたい。



- 1 黒褐色土層 (10YR3/2) E-I・軽石含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) E-I・軽石含む。
- 3 極暗赤褐色土層 (5YR2/4) 焼土・灰・炭化物含む。
- 4 灰褐色土層 (7.5YR4/2) 灰多く含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/2) 3-I・軽石・炭化物含む。
- 6 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土層。
- 7 におい黄褐色土層 (10YR5/4) E-I主体。暗褐色土含む。
- 8 褐色土層 (10YR4/4) E-Iと暗褐色土の混合土。しまりなし。

第13図 H4号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	12.7	5.5	4.7	体部口クロナデ 底部回転糸切り 内面淡い褐色 体部表面に黒線	85	外面7.5YR3/4に赤い褐色一部は焼成層 3・黄褐色土
2	土師器	杯	[14.1]	[5.5]	4.1	外面口クロナデ 内面淡い褐色 放射状のナデ		底部から口縁破片 外面7.5YR6/4に赤い褐色 回転糸巻 焼出土
3	土師器	杯	[16]	-	-	外面口クロナデ 内面黒色感埋・放射状ミガキ		口縁破片 外面7.5YR7/6褐色 焼出土
4	土師器	杯	[18.2]	-	-	外面口クロナデ 内面黒色感埋		外面7.5YR7/4に赤い褐色 回転糸巻 焼出土
5	土師器	杯	-	-	-	外面口クロナデ 内面黒色感埋 表面黒色あり		外面7.5YR6/6褐色 断面土巻 3区出土 回転糸巻 焼出土
6	土師器	杯	[11.2]	丸底	5.3	口縁ナデ 外面ヘラケズリ・ミガキ 内面ヘラナデ・放射状線文 古墳時代の器土師の可能性あり		口縁から底部破片 外面7.5YR6/6褐色 3区出土
7	土師器	口ク口	[24.8]	-	(8.1)	内外面口クロナデ		口縁から口縁破片 外面7.5YR6/6褐色 回転糸巻 1区出土
8	土師器	口ク口	[27.7]	-	(9.4)	内外面口クロナデ		口縁から口縁破片 外面7.5YR7/4に赤い褐色 回転糸巻 3区出土
9	土師器	甕	[18.5]	-	(7.4)	口縁口の字状底巻 口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面クシ状工具によるナデ		口縁から口縁破片 外面7.5YR3/4に赤い褐色 回転糸巻 3区出土
10	土師器	甕	-	6.6	(5.3)	底部・外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ		底部から口縁破片 外面7.5YR6/4に赤い褐色 回転糸巻 2区出土
11	須恵器	杯	-	[7.6]	(2.4)	体部口クロナデ 底部回転糸切り		外面2.5YR6/1黄褐色 回転糸巻 焼出土
12	土師器	甕	-	-	-	外面クシ状工具によるナデ 内面ナデ 古墳時代の器土師の可能性あり		外面7.5YR7/2暗褐色 断面土巻 焼出土

第5表 H4号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査・文様	残存率・部位	備考
13	弥生土器	甕	—	—	—	外周縁遺存状況 器入遺物	胴部破片	外面5YR4/2灰褐色物 断面灰褐色物出土
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
14	石器	すり石	7.15	6.74	6.49	表面にすり・磨きによる窪み	422.23	Ⅱ区出土
15	石器	すり石	4	3.71	3.24	表面にすり痕	56.34	Ⅲ区出土

第6表 H4号住居址遺物観察表(2)

H5号住居址

遺構は調査区西の道路東際A-F-C-7グリッドに位置し、西側は攪乱に破壊され、その先は調査区外となる。主軸はN1°Eである。

平面形態は、調査状況からやや隅丸の方形又は長方形と思われる。

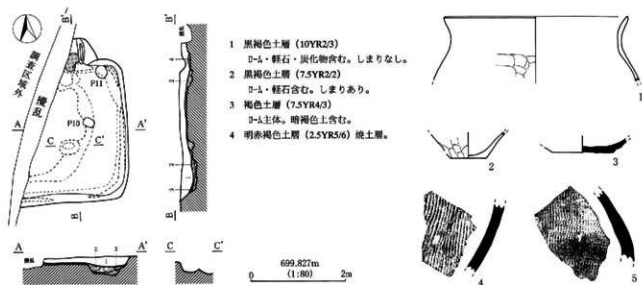
規模は南北2.8m、東西は調査規模の最大で2m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。

覆土は不規則な堆積が認められない黒褐色土の単層であることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は周辺部の一部を除き土間状に硬質である。壁溝及び床面上でピットは確認できない。掘方時にピット1個を確認したが主柱穴であるかは判断できない。カマドは北壁に構築されていたが西側の半分は攪乱に破壊されている。火床と思われる円形の焼土とカマドの構築部分と思われる北壁外への張り出し部分のみ確認できる。掘方は中央部分及び、壁周辺部は僅かにテラスが残る程度に浅く、残りの部分をドーナツ状に深く掘り下げた状態である。

出土遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土したが全体的に遺物量は少ない。土師器坏は破片が僅かに認められる。甕は口縁コの字気味の武蔵甕である。須恵器坏は底部回転系切り後周辺部にヘラケズリを施し、焼成が不良な個体と良好な個体が存在するが出土数は少ない。

時期は、ややコの字気味の武蔵甕及び底部系切り後周辺部ヘラケズリを施す須恵器坏の存在から奈良時代8世紀後半としたいが、資料不足のため奈良・平安時代、8世紀後半から9世紀前半と幅を持たせたい。

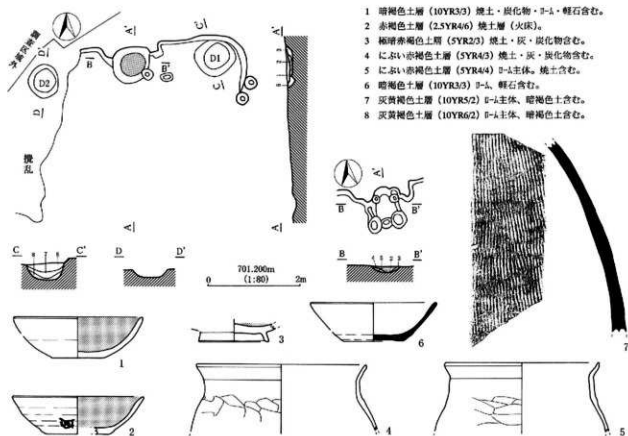


第14図 H5号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	[19.4]	—	(6.7)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR5/6明赤褐色 回転系調 Ⅰ区出土
2	土師器	甕	—	3.8	(2.7)	底部・外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底部から胴部破片	外面10YR4/3にぶい黄褐色 一部は灰褐色 カマド出土
3	須恵器	坏	—	[6.4]	(2.6)	底部回転系切り 表面粗い	底部から体部破片	外面10YR5/3にぶい黄褐色 回転系調 Ⅳ区出土
4	須恵器	甕	—	—	—	外面平行印巻 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR4/2灰褐色 断面灰褐色 Ⅰ区出土
5	須恵器	甕	—	—	—	外面平行印巻 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR4/4にぶい黄褐色 断面灰褐色 カマド出土

第7表 H5号住居址遺物観察表

H 6 号住居址



第15図 H 6 号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	13.9	5.3	4.4	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底部回転糸切り	50	外面7.5YR7/4におい褐色一部実測図 D2出土 外面7.5YR6/6褐色一部実測図 D1出土
2	土師器	坏	[14.2]	[6.6]	4.1	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底部回転糸切り 表面墨書あり	口縁から底部破片	外面10YR5/4におい黄褐色一部実測図 D2出土 外面5YR5/6暗褐色一部実測図 D1出土
3	土師器	碗	—	7.6	(1.9)	底部回転糸切り後高台貼り付け 内面黒色処理	高台から割上破片	外面7.5YR5/6暗褐色一部実測図 D2出土 外面5YR5/6暗褐色一部実測図 D1出土
4	土師器	甕	18.5	—	(7.1)	口縁ナデ・コの字状武蔵甕 胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	口縁から割上破片	外面5Y7/1灰白色一部実測図 D2出土 外面5Y5/1灰白色一部実測図 D1出土
5	土師器	甕	[16.7]	—	(7.4)	口縁ナデ・コの字状武蔵甕 胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	胴部破片	外面5Y7/1灰白色一部実測図 D2出土 外面5Y5/1灰白色一部実測図 D1出土
6	須恵器	坏	[13.8]	6.3	4.25	外面平行叩き 内面ヘラケズリ	胴部破片	外面5Y7/1灰白色一部実測図 D2出土 外面5Y5/1灰白色一部実測図 D1出土
7	須恵器	甕	—	—	—	—	—	—

第 8 表 H 6 号住居址遺物観察表

遺構は調査区西の道路東縁Gーあー9グリッドに位置する。遺構の上部は大半がすでに掘削されており、確認できたのは住居址北壁周辺部の僅かな範囲である。主軸はN4°Wである。

平面形態は残存状況からやや隅丸の方形と考えられる。

規模は調査規模で南北1.2m、東西3.8m、壁の立ち上がりは北壁際で5cm内外を測る。

覆土は検出段階で床面が露出しており、住居址の基本となる覆土は確認できない。

構造の特徴として、確認できた床面は土間状に硬さをもつ。壁溝、主柱穴と思われるピットは確認されないが、住居址の北東及び北西コーナーと思われる位置に土坑が2個認められた。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築されている。大半が破壊され、火床の窪みと円形に堆積した焼土が残存していた。

出土遺物は、床面直上から土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・小型甕が出土した。土師器坏の数は少ないが内黒が主体である。墨書も認められる。形態は糸切りされた底部から緩やかな湾曲で口縁に至る。碗は糸切り後高台貼り付けで、高台の接地面が幅広い。甕は口縁コの字状を示す武蔵甕が主体である。須恵器坏は底部糸切り後緩やかな湾曲で口縁に至る。土師器坏に形状が酷似するがつくり、

焼成はやや不良である。須恵器甕は大型と小型の破片が僅かに出土した。

時期は、口縁コの字状武蔵甕の存在、土師器の形状及びつくりが雑になりつつある須恵器の存在から9世紀代としたい。

H7号住居址

遺構は調査区北東の道路西際AQ-き-3グリッドに位置し、東壁の一部が調査区域外となる。主軸はN10°Wである。

平面形態はやや隅丸の方形である。

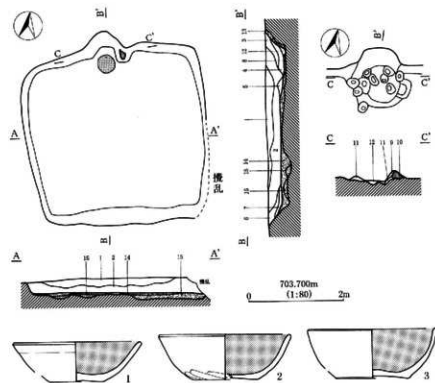
規模は南北3.3m、東西3.6m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。

覆土は周辺部から徐々に堆積した状況を示していることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は全体的に土間状で硬質である。壁際は中央に比べやや低くなるが壁溝は確認できない。住居内にピットは認められない。カマドは北壁中央に構築されている。大半が破壊され、一部の袖と火床に堆積した焼土、火床から北壁外に張りだした燃焼部と煙道への立ち上がりのみ認められる。掘方は東及び南側の一部を深めに掘った以外は3cm以内の硬質層のみである。

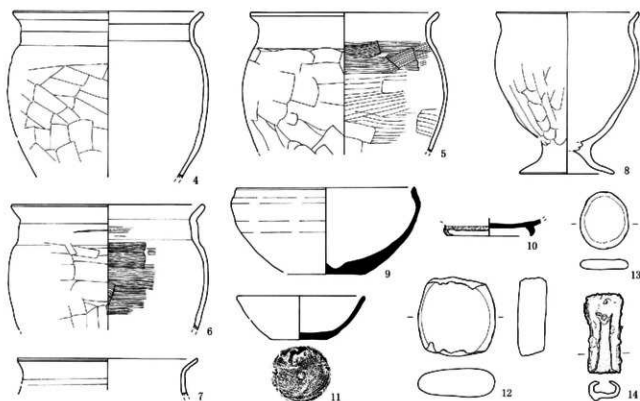
出土遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・蓋・甕・鉢、灰釉陶器、すり石、鉄製品が出土した。土師器坏は糸切りされた底部からやや丸みを持って口縁部に立ち上がる。やや厚みがある。碗は破片のみで全体の形状が判別できる個体は出土しない。坏・碗の内面黒色処理と通常の処理を施す比率は破片も含め、通常の処理が黒色処理をやや上回る。甕は口縁コの字状の武蔵甕が主体である。一部口縁「く」の字状の武蔵甕、台付甕が含まれる。器形の大きいこともあるが本住居址で破片も含め最も出土量が多い。須恵器坏は回転糸切りされた底部から開きながらやや丸みを持って口縁に至る。鉢は回転糸切りされた底部から開きながら丸みを持って立ち上がり、口辺付近で大きく内湾する。須恵器鉢は出土数の少ない形状である。灰釉陶器は口縁部の破片と高台部が出土している。碗または皿と思われる。高台は三日月状である。大原2号窯跡に類似する。

時期は、口縁コの字の武蔵甕が主体で、灰釉陶器の高台が三日月状であること、須恵器坏がある程度の比率で出土していることから平安時代、9世紀後半としたい。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3)
D-I・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3)
D-Iやや多く、軽石・炭化物含む。
- 3 暗赤褐色土層 (5YR3/2)
焼土・灰・炭化物含む。
- 4 暗赤褐色土層 (5YR3/4)
焼土・灰・炭化物やや多く含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/2)
焼土・灰・炭化物含む。
- 6 暗褐色土層 (7.5YR3/3)
D-I・軽石・炭化物含む。
- 7 暗褐色土層 (7.5YR3/4)
D-I・軽石・炭化物含む。
- 8 灰褐色土層 (5YR5/2) 焼土・灰含む。
- 9 暗赤褐色土層 (5YR3/3)
焼土・炭化物・粘土含む。
- 10 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 粘土層。
- 11 にぶい褐色土層 (7.5YR5/4)
D-I主体。炭化物含む。
- 12 にぶい赤褐色土層 (5YR4/3)
焼土・灰含む。
- 13 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 焼土・粘土含む。
- 14 暗褐色土層 (7.5YR3/3) D-Iと暗褐色土層の混合土。軽石・炭化物含む。上面硬質。
- 15 にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) D-I主体。

第16図 H7号住居址遺構・遺物実測図



第17図 H7号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	[13.5]	5.6	4.3	外面ロクロナデ 内面ナデ 底部回転糸切り 内面濃い黒色	50	外面5YR6/4に赤い褐色釉一部回転実測 I区出土
2	土師器	坏	[14]	[6.5]	4.8	外面ロクロナデ 内面ナデ 底部回転糸切り・周辺部ナデリ内面濃い黒色	35	外面7.5YR7/4に赤い褐色釉一部実測 I区出土
3	土師器	坏	[13.7]	7.6	5.3	外面ロクロナデ 内面ナデ 底部回転糸切り 内面濃い黒色	50	外面5YR6/6褐色釉一部実測 III区出土
4	土師器	甕	20.2	—	(17.8)	口縁横ナデ・コの字状武蔵篋 胴部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴下部破片	外面2.5Y6/6褐色釉一部実測 I区・カマド出土
5	土師器	甕	[20.2]	—	14.8	口縁横ナデ・コの字状武蔵篋 胴部外面ヘラケズリ内面クシ状工具によるナデ	口縁から胴下部破片	外面2.5YR5/4に赤い褐色釉一部実測 I区・カマド出土
6	土師器	甕	[20.4]	—	13.4	口縁横ナデ・コの字状武蔵篋 胴部外面ヘラケズリ内面クシ状工具によるナデ	口縁から胴部破片	外面10YR7/4に赤い褐色釉一部実測 I区出土
7	土師器	甕	19	—	(3.9)	口縁横ナデ・コの字状武蔵篋	口縁破片	外面5YR5/6赤褐色釉一部実測 I区・カマド出土
8	土師器	台付甕	[15.2]	10.1	17.2	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 台部内外面横ナデ	25	外面7.5YR5/4に赤い褐色釉一部実測 III区・カマド出土
9	須恵器	鉢	[19.4]	8.2	9.2	体部上部内外面ロクロ横ナデ 外面下部ヘラケズリ底部回転糸切り	45	外面5Y7/1R白色釉一部実測 I区出土
10	灰釉陶器	皿or碗	—	9.1	(1.8)	底部回転糸切り	高台から底縁破片	外面10YR8/1R白色完全実測 I区出土
11	須恵器	坏	[13.7]	6	4.6	体部内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	50	外面2.5Y6/2灰褐色釉一部実測 III区・カマド出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
12	石器	すり石	(8.31)	8.18	3.11	2方角欠損 表面滑らかなすり面	364.81	I区出土
13	石器	すり石	6.03	5.11	1.25	表面滑らかなすり面	45.42	I区出土
14	鉄製品	斧	8.44	3.32	1.92	保欠	105.38	III区出土

第9表 H7号住居址遺物観察表

H8号住居址

遺構は調査区西のNー9グリッドに位置する。主軸はN1°Wである。

平面形態はやや隅丸の方形である。

規模は南北4.7m、東西5.0m、検出面から床面までの深さは65cmを測る。

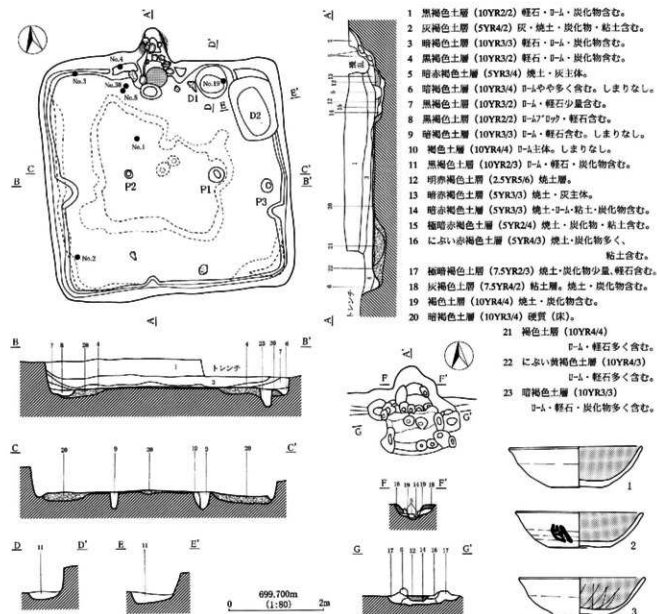
覆土は壁際から徐々に堆積した状況であることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は土間状に硬質で、壁際に幅10~20cm、深さ12cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で3個、掘方で2個確認できる。主柱穴はP1、P2と考えられる。また、北東コーナーに径70cm、深さ20cmの円形及び長軸136cm、短軸92cm、深さ25cmの長方形を呈する土坑が存在する。力

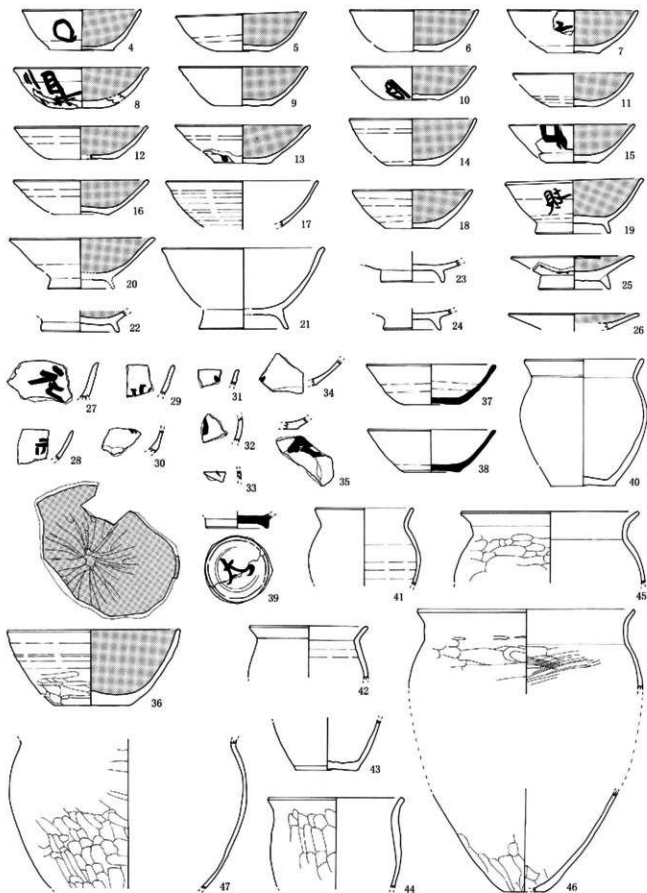
マドは北壁のほぼ中央に石材及び粘土を使用して構築されている。燃焼部が住居内に収まる形状で、北壁から住居内に張り出した袖の一部及び袖に挟まれた焼土の堆積した火床が残存している。火床から煙道部への立ち上がりは、途中一段のテラスを持ち55°程度の傾斜で北壁外70cmに至る。掘方は、壁周辺部を深めに掘ったドーナツ状で、中央付近は土間状に貼り床を行った程度である。

出土遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・皿・甕、灰釉陶器、砥石・原石が出土した。土師器坏・碗は糸切りされた底部から開きながらやや丸みを持って口縁部に至る形態と口縁端部が僅かに外反する形態が認められ、内面黒色処理の比率が高い。墨書土器も認められ「西・財・庄・目・井・川・〇」等が判読できた。また、破片資料のため文字の判読ができない墨書も多く出土している。碗の高台は糸切り後貼り付けで標準的な高さ1.2cm内外を測る。甕は口縁コの字状の武蔵甕と口縁が僅かに外反する小型品が認められる。須恵器坏は土師器の坏に形状がほぼ等しい。灰釉陶器は碗又は皿の口縁破片と壺の破片が認められる。

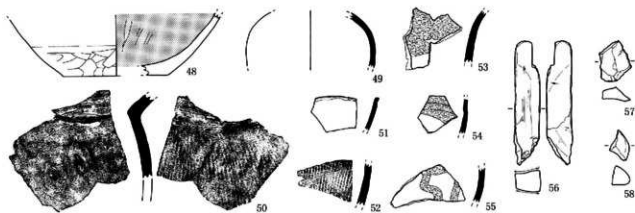
時期は口縁コの字状の武蔵甕が主体でロクロ甕が伴わないため9世紀前半の特徴も有するが、灰釉陶器の存在、須恵器坏の出土が減少傾向にあることから、平安時代、9世紀後半としたい。



第18図 H8号住居址遺構・遺物実測図



第19图 H8号住居址遺物実測図(2)



第20図 H 8号住居址遺物実測図(3)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	14	5.9	4.5	外面ロクロナデ 内面黒色地用 底部回転糸切り	100	外面7.5YR5/6褐色色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
2	土師器	坏	13.5	6.4	3.8	外面ロクロナデ 表面黒色地用 底部回転糸切り 表面磨き「西」あり	98	外面10YR6/4に赤い黄褐色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
3	土師器	坏	13.3	5.6	4.2	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状に山形斑紋文 底部回転糸切り	100	外面7.5YR7/4に赤い黄褐色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
4	土師器	坏	12.5	6.6	4.5	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状に山形斑紋文 底部回転糸切り 表面磨き「西」あり	100	外面10YR6/4に赤い黄褐色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
5	土師器	坏	13.8	5.3	4.1	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り	95	外面7.5YR7/6褐色色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
6	土師器	坏	[13.6]	5.8	4.4	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り	45	外面7.5YR7/6褐色色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
7	土師器	坏	[13.7]	5.5	4.5	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り 表面磨きあり	45	外面5YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 D2・カマド出土 無遺物
8	土師器	坏	[14.2]	5.9	4.3	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り 表面磨きあり	60	外面7.5YR6/6褐色色 一部実測実測 D2・カマド出土 無遺物
9	土師器	坏	[13.7]	5.9	4.2	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り 表面磨きあり	55	外面5YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 D2・カマド出土 無遺物
10	土師器	坏	[13.1]	5.7	3.6	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り 表面磨き「西」あり	60	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区出土 無遺物
11	土師器	坏	[12.7]	4.8	3.6	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り	45	外面7.5YR7/4に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区出土 無遺物
12	土師器	坏	[14]	[6.2]	3.5	外面ロクロナデ 内面黒色地用・ナデ 底部回転糸切り	20	外面7.5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区出土 無遺物
13	土師器	坏	[14.3]	6	4	外面ロクロナデ 内面淡い黒色・ナデ 底部回転糸切り 表面磨きに磨き	35	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区出土 無遺物
14	土師器	坏	[13.4]	5.4	4.9	外面ロクロナデ 内面黒色地用・ナデ 底部回転糸切り	35	外面10YR7/3に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
15	土師器	坏	[13.3]	5.5	4.1	外面ロクロナデ 内面淡い黒色・ナデ 底部回転糸切り 表面磨きに磨き	30	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
16	土師器	坏	[14.2]	5.8	3.6	外面ロクロナデ 内面ナデ 底部回転糸切り	40	外面7.5YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 カマド出土 無遺物
17	土師器	坏	[16.2]	-	-	外面ロクロナデ 内面ナデ・放射状ナデ	25	外面7.5YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
18	土師器	坏	12.7	5.6	4.1	外面ロクロナデ 内面黒色地用・ナデ 底部回転糸切り	85	外面5YR6/2黄褐色色 完全実測 D1出土 無遺物
19	土師器	碗	14.7	7.9	4.8	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部回転糸切り後高台貼り付 表面磨き「西」あり	90	外面7.5YR6/6褐色色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物
20	土師器	碗	[15.2]	6.9	5.4	外面ロクロナデ 内面黒色地用・中央から放射状ナデ 底部高台貼り付	30	外面5YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
21	土師器	碗	[17.2]	9.4	8.6	外面ロクロナデ 内面黒色地用・ミナナ 内面淡い黒色表面磨き 底部回転糸切り後高台貼り付	25	外面7.5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
22	土師器	碗	-	8.2	(2.3)	底部回転糸切り後高台貼り付 内面黒色地用	高台から破片破片	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
23	土師器	碗	-	6.8	(2.3)	底部回転糸切り後高台貼り付	高台から破片破片	外面10YR7/4に赤い黄褐色 完全実測 Ⅰ区・カマド出土 無遺物
24	土師器	碗	-	6.1	(2.1)	底部回転糸切り後高台貼り付 内面放射状ナデ	高台から破片破片	外面10YR8/3黄褐色色 完全実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
25	土師器	皿	[12.9]	7.6	3.5	底部回転糸切り後高台貼り付 内面黒色地用 表面磨き あり	50	外面7.5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
26	土師器	皿	[13.8]	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色地用	口縁破片	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
27	土師器	皿	-	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色地用 表面磨き「西」あり	口縁破片	外面7.5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
28	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ 内面ナデ 表面磨きあり	口縁破片	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
29	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色地用 表面磨きあり	口縁破片	外面7.5YR6/3に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
30	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色地用 表面磨きあり	口縁破片	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
31	土師器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ 表面磨きあり	口縁破片	外面7.5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
32	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色地用 表面磨きあり	口縁破片	外面10YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
33	土師器	坏	-	-	-	表面磨きあり	口縁破片	外面5YR6/6褐色色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
34	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色地用 表面磨きあり	口縁破片	外面10YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
35	土師器	坏	-	-	-	底部回転糸切り 内面黒色地用 表面磨きあり	口縁破片	外面10YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 Ⅰ区・D2出土 無遺物
36	土師器	鉢	[18.2]	7.8	8	外面上蓋ロクロナデ・下部ハラスリ 底部回転糸切り後ハラスリ あり	45	外面5YR6/4に赤い黄褐色 一部実測実測 D1・カマド出土 無遺物
37	須恵器	坏	13.7	5.6	4.3	内面黒色地用・中央から放射状ナデ 内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	97	外面7.5YR6/6褐色色 完全実測 Ⅰ区出土 無遺物

第10表 H 8号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調査・文様	残存率・部位	備考
38	須恵器	坏	13.5	5.8	4.6	内外面ロクロナデ 底部内転糸切り	90	外周10YR6/4Cに赤い黄褐色完全塗装 Ⅱ区出土
39	須恵器	高台付坏	—	6.7	(1.6)	底部内転糸切り後高台貼付付 底部塗装あり	高台からの底部破片	外周10YR7/2Cに赤い黄褐色完全塗装 Ⅱ区出土
40	土師器	小器 ロクロ壺	[12.6]	6.7	13.4	内外面横ナデ 底部内転糸切り	50	外周7.5YR6/3Cに赤い褐色一部塗装あり カマド出土
41	土師器	小器 ロクロ壺	[10.4]	—	(8.2)	内外面横ナデ 外面刷毛目状横ナデ	口縁から胴部破片	外周5YR6/6褐色 断面塗装 Ⅱ区・カマド出土
42	土師器	小器 ロクロ壺	[12.6]	—	(5.5)	内外面横ナデ 外面刷毛目状横ナデ 内面下部ヘラナデ	口縁から胴部破片	外周5YR6/6褐色 断面塗装 Ⅱ区・カマド出土
43	土師器	小器 ロクロ壺	—	6.5	(5.3)	内外面横ナデ 底部内転糸切り	底部からの胴部破片	外周7.5YR6/3Cに赤い褐色完全塗装 Ⅱ区・カマド出土
44	土師器	甕	[14.5]	—	(9.7)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面横ナデ	口縁から胴部破片	外周5YR6/6褐色 断面塗装 Ⅱ・Ⅲ区出土
45	土師器	甕	[18.8]	—	(7.7)	口縁横ナデ・口縁コの字状武蔵甕 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外周7.5YR7/3Cに赤い褐色断面塗装 Ⅱ区・カマド出土
46	土師器	甕	[22.9]	(4.4)	—	口縁横ナデ・口縁コの字状武蔵甕 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ口縁コの字状武蔵甕 内面クシ状工具によるナデ	口縁から底部破片	外周7.5YR6/4Cに赤い褐色断面塗装 Ⅱ・Ⅲ区出土
47	土師器	甕	—	—	(15.8)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外周7.5YR6/6褐色 断面塗装 Ⅱ区・カマド出土
48	土師器	鉢?	—	[11.4]	(6.6)	外面ロクロナデ・底部両辺ヘラケズリ 内面黒色処理	底部からの底部破片	外周5YR6/6褐色 断面塗装 Ⅱ・Ⅲ区出土
49	須恵器	甕	—	—	(5.9)	内外面ロクロナデ	胴部破片	外周5Y7/2R黄褐色 断面塗装 Ⅱ区出土
50	須恵器	甕	—	—	(8.8)	外面自然釉付着・印痕 内面同心円状付着痕	胴部破片	外周5YR5/3Cに赤い黄褐色断面塗装 Ⅱ区出土
51	灰軸陶器	甕	—	—	—	ロクロ横ナデ 灰軸胎	口縁破片	外周5YR6/7灰白色 断面塗装 カマド出土
52	灰軸陶器	甕	—	—	—	外面平行印着 自然釉付着 内面ヘラナデ	胴部破片	外周7.5YR6/1灰白色 断面塗装 Ⅱ区出土
53	灰軸陶器	甕	—	—	—	内外面ロクロナデ 内面灰軸	胴部破片	外周7.5YR6/7灰白色 断面塗装 Ⅱ区出土
54	灰軸陶器	甕	—	—	—	内外面ロクロナデ 内外面灰軸胎 掛け掛け	底部破片	外周10YR7/1灰白色 断面塗装 Ⅱ区出土
55	灰軸陶器	甕	—	—	—	内外面ロクロナデ 内外面部分的に灰軸胎	胴部破片	外周7.5YR6/1灰白色 断面塗装 Ⅱ区出土
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大径(cm)	最大径(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
56	石器	砥石	(13.3)	(2.9)	(2.6)	左から下側欠損 裏面2 すり痕あり	124.34	Ⅱ区出土
57	石器	原石	4.3	3.3	1.5		22.07	Ⅱ区出土
58	石器	ミガキ石	(3.3)	(2.1)	(2.1)	左側・下部欠損	12.33	Ⅰ区出土

第11表 H8号住居址遺物観察表(2)

H9号住居址

遺構は調査区西のVーおー4グリッドに位置する。主軸はN11°Wである。

平面形態はやや南北方向に長い方形である。

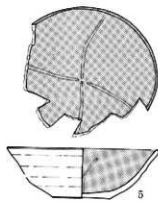
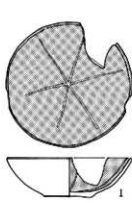
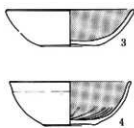
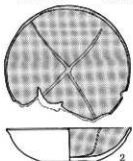
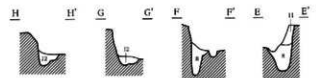
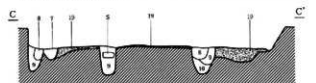
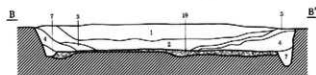
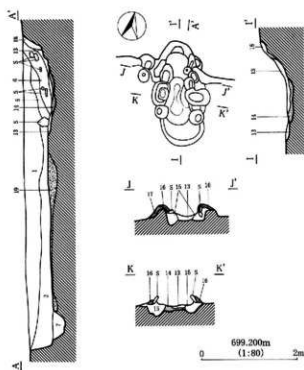
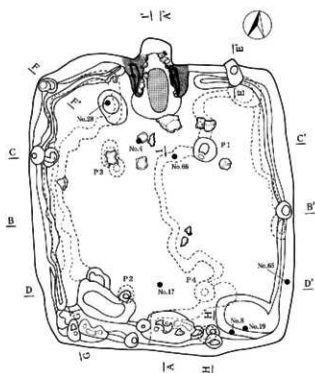
規模は南北5.9m、東西5.2m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。

覆土は壁際から徐々に堆積した状況を示すことから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は土間状を呈し硬質であり、中央付近はほぼ平坦だが周辺部には壁に向かって、緩やかに傾斜し、一部軟弱な面も認められる。壁際には壁溝が掘り込まれ、壁柱穴と思われるビットが存在する。南壁際はビット及び窪み等の掘り込みによって溝は不明確である。支柱穴は床面上で不鮮明であったためP1、P2の確認にとどまり、残りのP3、P4は掘方での発見である。カマドは北壁の中央に石材及び粘土を使用して構築されている。燃焼部が住居址内に収まる形状である。本体の大半は破壊され、両袖の一部と焼土の堆積した火床及び煙道部に至る壁外の張り出した立ち上がりが残存している。火床から煙道部への立ち上がりは60°程度の傾斜で北壁外60cmに至る。掘方は東側半分と西壁側の一部が中央に比べ深く掘り下げた形状で、他の地域は硬質の貼り床のみ認められる。

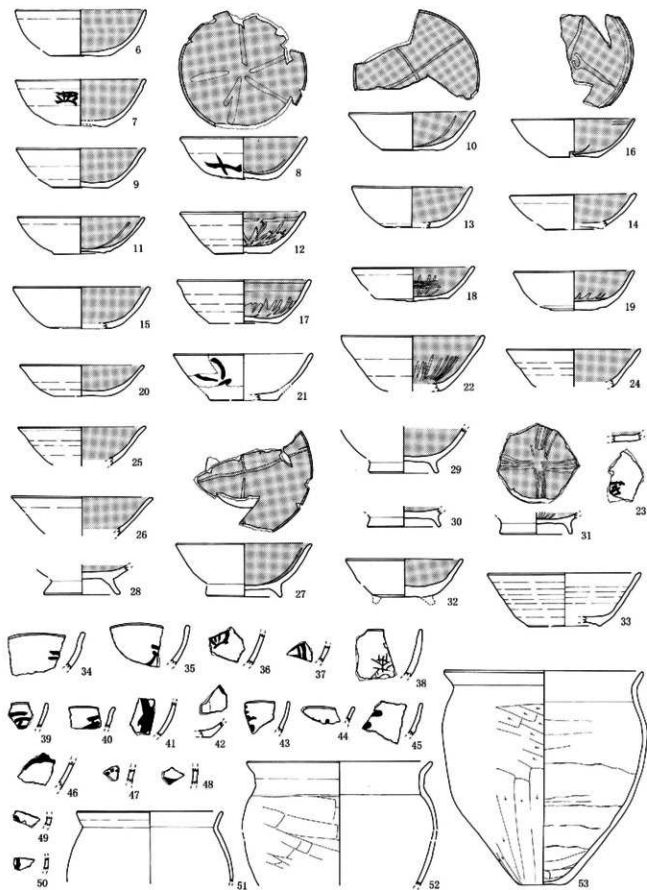
遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕、灰軸陶器、すり石・編物石、鉄製品が出土した。土師器碗は糸切りされた底部から開きながらやや丸みを持って口縁部に素直に立ち上がる形状に加え、体部下部に丸みを持って立ち上がり、やや器高が低い形状が存在し、内黒が主体である。口縁部にターレット状の煤が付着する個体も認められる。灯明として使用された可能性が考えられる。また、墨書も多く存在し、判読できるものに「西・十」が存在した。土師器甕は口縁コの字状の武蔵甕とロクロ甕が認められる。須恵器は坏・高台付坏が出土し、形状の残る個体は少ない。灰軸陶器は皿・碗が存在し、高台は接地面がやや広く、断面隅丸方形形状である。他に混入品として古墳時代の土師器、弥生土器が僅かに出土している。

時期は口縁コの字状の武蔵甕とロクロ甕が共存すること、須恵器坏が減少傾向ではあるが一定量出土していることから9世紀後半としたところだが、坏に体部下部に丸みを持ち器高の低い形状が含まれ、灰軸陶器の高台がやや低く方形形状であることから、9世紀後半から10世紀前半と幅を持たせたい。

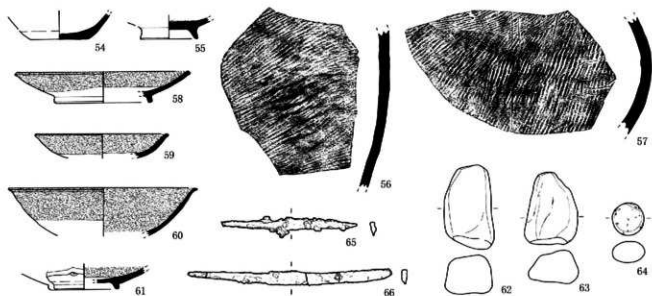


- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) 0-1・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-1・軽石・炭化物含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/2) 0-1・軽石・炭化物含む。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-1・軽石・炭化物含む。
- 5 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土・灰・炭化物含む。
- 6 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土・炭化物・灰多く含む。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/4) 0-1・軽石多く含む。しまりなし。
- 8 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-1・軽石含む。しまりなし。
- 9 褐色土層 (7.5YR4/3) 0-1やや多く含む。しまりなし。
- 10 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 0-1・軽石含む。しまりなし。
- 11 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-1やや多く、軽石含む。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/3) 軽石・0-1・炭化物含む。
- 13 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土・灰含む。
- 14 褐色土層 (5YR6/8) 焼土層。
- 15 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 焼土・炭化物やや多く含む。
- 16 灰褐色土層 (5YR4/2) 粘土層。一部焼土化。
- 17 褐灰色土層 (5YR4/1) 粘土層。
- 18 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土層。
- 19 におい黄褐色土層 (10YR4/3) 0-1と暗褐色土の混合土。やや硬質。

第21図 H9号住居址遺構・遺物実測図



第22图 H9号住居址遺物実測图(2)



第23図 H9号住居址遺物実測図(3)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	13.2	5	4.2	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から6本の放射状線文 底面黒色処理 口縁に黒線 打割としての使用の可能性あり 外周口クロナデ 内面黒色ナデ・中央から十字状線文 底面黒色 糸切り	80	外周7.5YR6/4に赤い褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
2	土師器	杯	13.2	5.7	3.7	外周口クロナデ 内面黒色処理 中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り	80	外周7.5YR6/6褐色色 完全実測 カマド出土
3	土師器	杯	13.6	5.8	4	外周口クロナデ 下部表面黒線 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り	55	外周10YR8/4黄褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
4	土師器	杯	12.8	4.9	4.7	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り 口縁部に黒線 打割としての使用の可能性あり	90	外周5YR6/4に赤い褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
5	土師器	杯	[15.8]	6	5.9	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から十字状線文 底面黒色 糸切り	60	外周7.5YR6/6に赤い褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
6	土師器	杯	[12.8]	6.5	4.9	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り 一部にクシ型工具によるナデ	40	外周7.5YR6/6褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
7	土師器	杯	13.8	5.4	5	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り 表面黒線「向」あり	80	外周7.5YR6/4に赤い褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
8	土師器	杯	13.5	5.8	4.6	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から5本の放射状線文 底面黒色糸切り 表面黒線「十」あり	90	外周7.5YR6/4に赤い褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
9	土師器	杯	[13.5]	6	4.2	外周口クロナデ 内面黒色処理 底面黒色糸切り	30	外周7.5YR6/4に赤い褐色色 一部黒色実測 カマド上方出土
10	土師器	杯	13.4	6.2	4	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から十字状線文 底面黒色 糸切り	40	外周7.5YR6/4に赤い褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
11	土師器	杯	13.3	5.4	4	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から新しい十字状線文 底面黒色糸切り	70	外周6YR6/6褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
12	土師器	杯	13.4	5.8	4.4	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り	80	外周7.5YR6/4に赤褐色色 完全実測 Ⅱ区出土
13	土師器	杯	[12.8]	[5.6]	4.3	外周口クロナデ・下ナデ 内面黒色処理 底面黒色糸切り	30	外周7.5YR6/4に赤い褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区(北) Ⅱ区方出土
14	土師器	杯	[14.4]	[6.8]	4.5	外周口クロナデ・下盤一線ナデ 内面黒色処理 底面黒色糸切り 盤一線ナデ	30	外周7.5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区方出土
15	土師器	杯	[13.3]	[6]	3.4	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り	30	外周6YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
16	土師器	杯	[13]	[5.1]	4	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状線文 底面黒色糸切り	30	外周7.5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
17	土師器	杯	[14.2]	7.3	4.7	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り	40	外周7.5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
18	土師器	杯	[13]	7.6	3.6	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から放射状ナデ 底面黒色糸切り	50	外周2.5YR6/4明黄褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
19	土師器	杯	[12.8]	5	4.1	外周口クロナデ 内面黒色処理・3コマ放射状ナデから放射状ナデ 底面黒色糸切り	40	外周2.5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
20	土師器	杯	[13]	[5.9]	3.3	外周口クロナデ 内面黒色処理・円線ナデ 底面黒色糸切り	30	外周10YR6/6に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
21	土師器	杯	[14.8]	[6.7]	5	外周口クロナデ 内面中央から放射状線文 底面黒色糸切り 表面に黒線あり	20	外周5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
22	土師器	杯	[15.2]	[5.6]	5.9	外周口クロナデ・下盤や中線 内面黒色処理・中央から放射状 ナデ	30	外周2.5YR4/6赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
23	土師器	杯	-	-	-	底面黒色糸切り 底面黒線「向」あり		底面破片 外周5YR7/7褐色色
24	土師器	杯	[14.2]	-	-	内周口クロナデ 内面黒色処理痕		外周10YR6/6に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
25	土師器	杯	[13.4]	-	-	外周口クロナデ 内面黒色処理		口縁破片 外周5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区方出土
26	土師器	杯	14.8	-	-	外周口クロナデ 内面黒色処理		口縁破片 外周5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
27	土師器	碗	[14.4]	8	5.6	外周口クロナデ 内面黒色処理・中央から十字状線文 底面黒色糸切り 後高台貼り付け	35	外周7.5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
28	土師器	碗	-	8	(3)	内面黒色処理 底面黒色糸切り 後や中央高の高出り付け		外周5YR4/2黄褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
29	土師器	碗	-	7.4	(4.7)	内面黒色処理 底面黒色糸切り 後高台貼り付け		外周10YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 カマド出土
30	土師器	碗	-	7.7	(1.9)	内面黒色処理 底面黒色糸切り 後高台貼り付け		外周5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
31	土師器	碗	-	7.5	(2.2)	内面黒色処理・中央から十字状線文 底面黒色糸切り 後高台貼り 付け		外周5YR6/3に赤褐色色 一部黒色実測 Ⅱ区出土
32	土師器	碗	[12.5]	-	(4)	外周口クロナデ 内面黒色処理 底面黒色糸切り 高出欠陥 口縁から底面破片		外周5YR6/4に赤褐色色 一部黒色実測 カマド出土

第12表 H9号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
33	土師器	碗	[16.2]	[7.8]	5.6	内外面クロコナデ 底部回転糸切り	口縁から底部破片	外面10YR3/4黄褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
34	土師器	杯	-	-	-	内外面クロコナデ 内面噴文 表面黒書あり	口縁破片	外面5YR6/4明赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
35	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理・噴文 表面黒書あり	口縁破片	外面5YR5/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
36	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書「西」?あり	体部破片	外面2.5YR6/6褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
37	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書「西」?あり	体部破片	外面5YR5/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
38	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	口縁破片	外面2.5YR6/6褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
39	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	口縁破片	外面5YR5/3に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
40	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	口縁破片	外面5YR6/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
41	土師器	杯	-	-	-	クロコナデ 表面黒書あり	体部破片	外面5YR6/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
42	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	底部から体部破片	外面2.5YR6/6褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
43	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	口縁破片	外面7.5YR5/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
44	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	口縁破片	外面5YR6/3に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
45	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面ナデ 表面黒書あり	体部破片	外面5YR6/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
46	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面ナデ 表面黒書あり	体部破片	外面5YR5/3に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
47	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	体部破片	外面2.5YR5/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
48	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	体部破片	外面5YR6/6褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
49	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	体部破片	外面7.5YR6/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
50	土師器	杯	-	-	-	外面クロコナデ 内面黒色処理 表面黒書あり	体部破片	外面5YR5/3に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
51	土師器	口クワ	[15.4]	-	(7.6)	内外面クロコナデ	口縁から体部破片	外面5YR6/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
52	土師器	甕	[19.7]	-	(13.4)	口縁ナデ・コの字状武蔵蓋 外面ヘラズリ 内面ヘラズリ	口縁から体部破片	外面5YR4/3に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
53	土師器	甕	21.1	4.8	22.9	口縁ナデ・コの字状武蔵蓋 外面ヘラズリ 内面ヘラズリ	80	外面5YR5/3に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
54	須臾器	杯	-	6.1	(2.6)	内外面クロコナデ 底部回転糸切り	底部から体部破片	外面2.5YR6/6褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
55	須臾器	高台付杯	-	6.1	(2.1)	底部回転糸切り後高台付け	高台から体部破片	外面5YR6/4に赤い赤褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
56	須臾器	甕	-	-	-	外面平行印き 内面無文当て具版・ナデ	胴部破片	外面N3/0暗灰色 底面黒色 Ⅰ区出土
57	須臾器	甕	-	-	-	外面平行印き 内面無文当て具版・ナデ	胴部破片	外面5Y7/2黄褐色 底面黒色 Ⅰ区出土
58	灰釉陶器	皿	[18.6]	[10]	3.3	内外面クロコナデ 高台貼り付け 漆け掛け	高台から体部破片	外面5Y7/1灰白色 底面黒色 Ⅰ区出土
59	灰釉陶器	碗	[14.2]	-	-	内外面クロコナデ・灰釉施	口縁破片	外面7.5Y7/1灰白色 底面黒色 Ⅰ区出土
60	灰釉陶器	碗	[20]	-	-	内外面クロコナデ・灰釉施	口縁から体部破片	外面7.5Y7/1灰白色 底面黒色 Ⅰ区出土
61	灰釉陶器	皿・碗	-	[7.2]	(2.1)	内外面クロコナデ・灰釉施 高台貼り付け	高台から体部破片	外面7.5Y7/1灰白色 底面黒色 Ⅰ区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
62	石器	扁石・すり石	8.9	5.3	4.5	1面にすり痕	306.1	Ⅰ区出土
63	石器	扁石・磨石	7.7	5.7	3.8	無面に磨打痕	199.06	Ⅰ区出土
64	石器	すり石	3.5	3.3	2.3	全体にすり痕	28.73	Ⅰ区出土
65	鉄製品	刀子	(1.4.22)	1.35	0.53	基部先端部欠損	15.72	知遺物
66	鉄製品	刀子	(2.1.5)	1.45	0.57	基部先端欠損	29.6	知遺物

第13表 H9号住居址遺物観察表(2)

H10号住居址

遺構はV-4グリッドに位置し、H12を切る。主軸はカマドを基準としてN8°Wである。

平面形態は平行四辺形的で隅の丸い方形である。規模は南北3.4m、東西3.5m、検出面から床面までの深さは最大で64cmを測る。

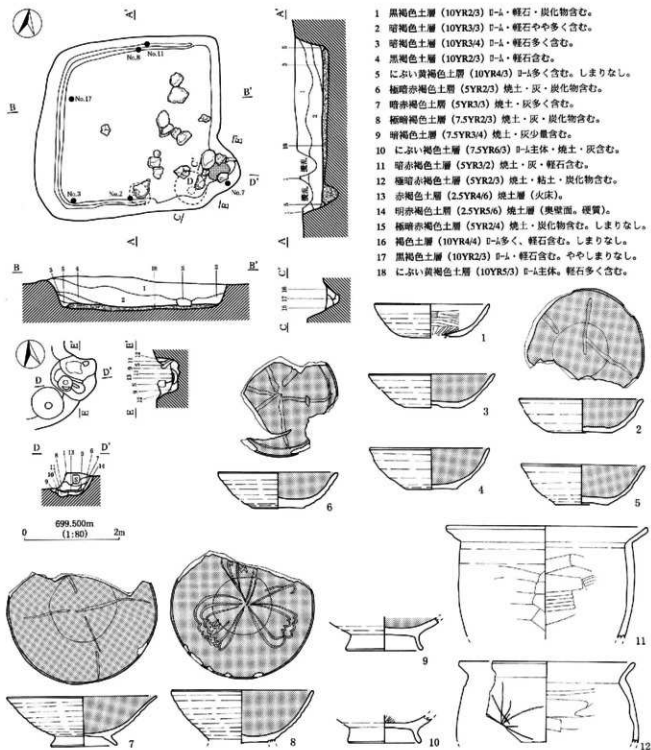
覆土は壁際から徐々に堆積した状況が見受けられることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は地山の軽石が多く凹凸はあるが、全体的には硬質である。壁溝は西壁からコの字状に認められる。ピットは確認できない。カマドは南東コーナー付近に構築されている。粘土と石材を利用して造られたと考えられるが、大半は破壊され使用された石材が散在している。カマドの燃焼部は火床の位置から壁内と壁外にまたがるように構築されていたと思われ、火床から煙道部への立ち上がりは60°程度の傾斜で東壁外40cmに至る。掘方は全体的に10cm内外の厚みで軽石の多い地山のロームを主体とした黄褐色土が埋め込まれ硬質化している。

遺物は土師器の杯・碗・甕、須臾器の杯、灰釉陶器、敲石が出土した。土師器杯は糸切りされた底部から開きながら内湾気味に、又は底部から丸みを持って立ち上がり、器高がやや低い形状で、つく

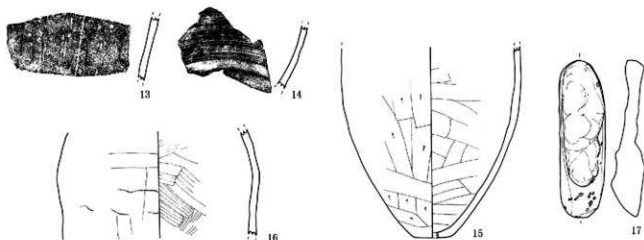
りは粗く、黒色処理された個体が多い。碗は器厚がやや厚手で、高台が足高気味の個体と薄く体部高台ともに大きく開く個体が認められる。また、内面に花びら状の暗文を施す個体も存在する。甕は厚手で体部にヘラケズリを施す。須恵器坏は破片で数も6片と僅かである。灰釉陶器は破片が4片出土した。

時期は、器高の低めの坏及び足高気味の碗が主体であることから平安時代、9世紀後葉から10世紀前葉としたい。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石やや多く含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/4) D-I・軽石多く含む。
- 4 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石含む。
- 5 におい黄褐色土層 (10YR4/3) D-I多く含む。しまりなし。
- 6 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・灰・炭化物含む。
- 7 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土・灰多く含む。
- 8 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼土・灰・炭化物含む。
- 9 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土・灰少量含む。
- 10 におい褐色土層 (7.5YR6/3) D-I主体・焼土・灰含む。
- 11 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 焼土・灰・軽石含む。
- 12 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・粘土・炭化物含む。
- 13 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土層 (火床)。
- 14 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土層 (奥壁面・硬質)。
- 15 極暗赤褐色土層 (5YR2/4) 焼土・炭化物含む。しまりなし。
- 16 褐色土層 (10YR4/4) D-I多く、軽石含む。しまりなし。
- 17 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石含む。ややしまりなし。
- 18 におい黄褐色土層 (10YR5/3) D-I主体。軽石多く含む。

第24図 H10号住居址遺構・遺物実測図



第25図 H10号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.2	6.4	3.7	外面ロクロナデ 内面ヘラミガキ 底面回転糸切り	60	外面7.5YR6/4に近い褐色完全変質 IV区出土
2	土師器	坏	(12.9)	6.2	3.7	外面ロクロナデ 内面ヘラミガキ・縞文・黒色処理 底面回転糸切り	70	外面7.5YR/4に近い赤褐色底面変質 Ⅰ区遺物
3	土師器	坏	(13.2)	5.8	3.6	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底面回転糸切り	80	外面5YR5/4に近い赤褐色底面変質 Ⅰ区出土
4	土師器	坏	12.6	5.2	4.5	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底面回転糸切り	60	外面5YR6/6褐色底面変質 Ⅰ区出土
5	土師器	坏	(12.9)	5.6	4.3	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底面回転糸切り 全体に僅かな付着	50	外面5YR5/4に近い赤褐色底面変質 I・IV・VII区出土
6	土師器	坏	(12.7)	5.6	3.9	外面ロクロナデ 内面中央から放射状本の縞文・黒色処理 底面回転糸切り	50	外面7.5YR6/4に近い褐色底面変質 Ⅰ区出土
7	土師器	碗	15.8	6.8	5.4	外面ロクロナデ 内面中央から十字状縞文・黒色処理 底面回転糸切り後高台貼り付け	70	外面5YR6/6褐色完全変質 Ⅰ区出土
8	土師器	碗	15	-	(5.7)	外面ロクロナデ後ナデ 内面中央から花びら状縞文・黒色処理 底面回転糸切り・高台付	80	外面5YR6/3Cに近い赤褐色完全変質 Ⅰ区遺物
9	土師器	碗	-	7.8	(3.5)	外面ロクロナデ後ナデ 内面中央から放射状本・黒色処理 底面回転糸切り後高台貼り付け	-	高台から体部下部破片 完全変質 IV区出土
10	土師器	碗	-	7.4	(3.2)	内面ミガキ・付着物多い 底面回転糸切り後高台貼り付け	-	高台から体部下部破片 完全変質 I区出土
11	土師器	ロクロ口	(21)	-	(11.8)	口縁・胴上部ロクロナデ 胴下部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面7.5YR5/2に近い赤褐色底面変質 Ⅰ区遺物
12	土師器	ロクロ口	(18.6)	-	(8.6)	内外面ロクロナデ後ヘラナデ 表面磨削あり	口縁から胴部破片	外面5YR6/3Cに近い褐色底面変質 VII区出土
13	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面7.5YR6/6褐色断面変質 Ⅰ区出土
14	土師器	鉢	-	-	-	外面ロクロナデ 内面ヘラミガキ・黒色処理	体部破片	外面7.5YR7/4に近い褐色断面変質 IV区・VII区出土
15	土師器	甕	-	(4)	(20.3)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底面から胴部破片	外面5YR5/6褐色完全変質 IV区・VII区出土
16	土師器	甕	-	-	(11.3)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR2/1黒褐色底面変質 I・II・IV区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
17	石器	礫石	16.7	4.9	3.3	正面に磨行痕	280.81	Ⅰ区遺物

第14表 H10号住居址遺物観察表

H11号住居址

遺構はW-あ-5グリッドに位置する。主軸はN46° Eである。

平面形態は長方形である。

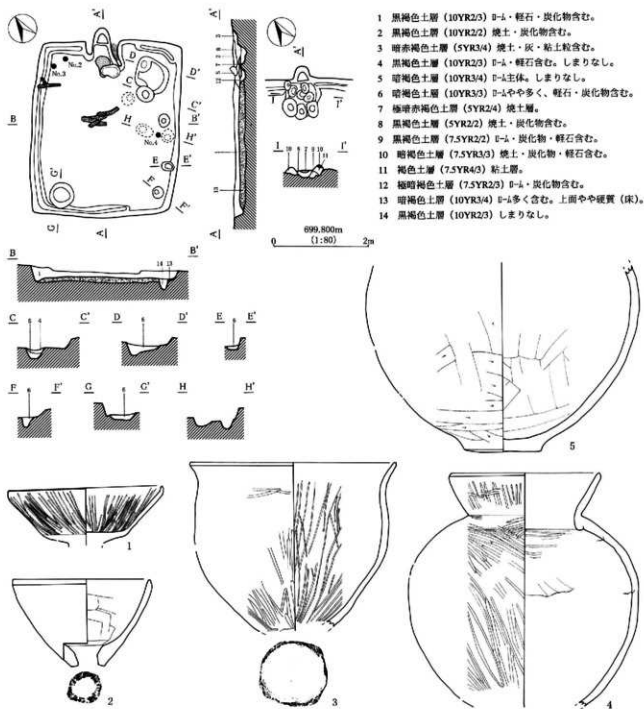
規模は南北3.6m、東西3.0m、検出面から床面までの深さは最大で18cmを測る。

覆土は黒褐色土の単層で炭化材が多く含まれていることから焼失住居の可能性が認められる。

構造の特徴として、床面は全体的に平坦である。東壁から南壁の一部以外に幅15cm、深さ8cm内外の壁溝が認められる。ピットは床上で4個、掘方で3個確認できたが、位置的に支柱穴とは断定できない。また、北東及び南西コーナーに土坑が存在する。カマドは北壁の中央に構築されている。火床の位置から燃焼部が住居内に収まる形状である。大半は破壊されているが、袖の一部、焚き口部の天井石と焼土の堆積した火床、壁外への立ち上がりが確認できる。火床から煙道部へは20cm程度水平の後10cm立ち上がり、テラスを持った後再び60°程度の傾斜で北壁外30cmに至る。掘方は20cmの厚みで地山のルームを含む暗褐色土が埋め込まれ、上面が硬質化している。

遺物は土師器の高坏・甕・甔・壺が出土した。高坏は脚部欠損した坏部である。甔は単孔で小型のやや開きながら口縁に至る個体と中型で口辺部が外反する2種が存在する。

時期は高坏の坏部の形状から古墳時代、5世紀後半としたい。



第26図 H11号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	高坏	16.4	-	(6)	坏部体部外面ミガキ・底面ヘラケズリ・ミガキ 内面中央から離れない放射状ミガキ	坏部90	外面25YR2/6明赤褐色 完全変換 カマド・I区出土
2	土師器	甔	14.6	3.6	9.5	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部径2cmの穿孔	98	外面10YR7/6明赤褐色 完全変換 甔遺物
3	土師器	甔	21.8	(7.8)	(18)	外面ヘラケズリ焼ナデ・ミガキ 内面ヘラナデ・ミガキ	90	外面25YR6/4に赤い褐色地 完全変換 甔遺物
4	土師器	甕	16	-	(24.8)	外面ヘラナデ・ヘラミガキ 内面ヘラナデ・一部ヘラミガキ	60	外面25YR4/4に赤い赤褐色地 完全変換 甕遺物
5	土師器	甕	-	8.2	(19.8)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	瓶蓋面・胴部 下部破片	外面25YR6/4に赤い褐色地 完全変換 I区・検出土

第15表 H11号住居址遺物観察表

H12号住居址

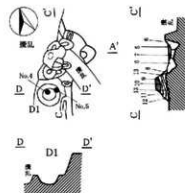
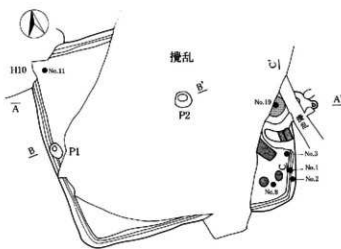
遺構はV-5グリッドに位置し、H10に切られる。主軸はN4°Wである。遺構の大部分は攪乱に破壊されている。

平面形は残存状況から方形と考えられる。

規模は南北4.7m、東西4.3m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。

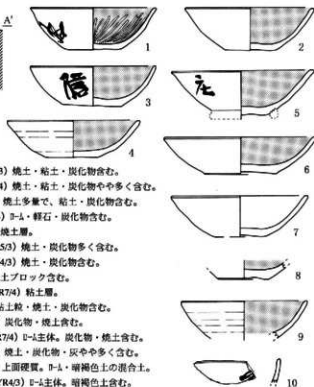
覆土は残存箇所で極暗褐色土の単層であった。

構造の特徴として、残存箇所の床面は硬質で壁際に幅15cm、深さ10cm内外の壁溝が存在する。ピットは西壁中央に床面からの深さ60cm、住居址中央付近に床面からの深さ80cmと考えられるピットが認められ、2本柱の主柱穴と考えられる。カマドは東壁のやや南寄りに構築されているが多くを攪乱に破壊され、火床の一部とカマドの立ち上がり先端部、南袖が残存している。カマドの構造は燃焼部が壁内に設置される形状である。袖の南側である南東コーナーには形状の残る良好な土師器坏が多数出土し、周辺には粘土が散在している。掘方は残存部が壁際であることから最も深いところでは40cmを測り、上部に6cm内外の厚みで貼り床層が認められる。



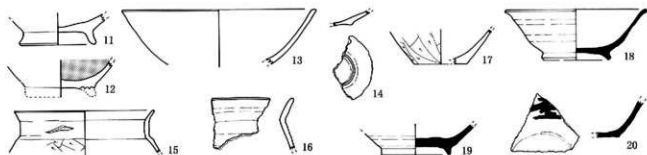
遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の高台付坏が出土した。土師器坏はいびつで体部下部から丸みを持って立ち上がり、やや器高が低い個体が主体で、黒色処理が多い。墨書土器が存在する。碗の器厚は厚く、高台は足高気味である。甕は口縁口の字状の武蔵甕の破片が認められる。須恵器は墨書された坏の破片と低い高台を持つ高台付坏が僅かに認められる。

時期は土師器坏の形状、足高気味の碗の存在及び須恵器の減少が認められることから平安時代、9世紀後半から10世紀前葉としたい。



- 1 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・粘土・炭化物含む。
- 2 極暗赤褐色土層 (5YR2/4) 焼土・粘土・炭化物やや多く含む。
- 3 暗赤褐色土層 (5YR3/6) 焼土多量で、粘土・炭化物含む。
- 4 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) B-1・軽石・炭化物含む。
- 5 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土層。
- 6 によい赤褐色土層 (5YR5/3) 焼土・炭化物多く含む。
- 7 によい赤褐色土層 (5YR4/3) 焼土・炭化物含む。
- 8 褐色土層 (2.5YR6/8) 焼土ブロック含む。
- 9 によい黄褐色土層 (10YR7/4) 粘土層。
- 10 褐色土層 (7.5YR4/5) 粘土・焼土・炭化物含む。
- 11 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 炭化物・焼土含む。
- 12 によい褐色土層 (7.5YR7/4) D-1主体。炭化物・焼土含む。
- 13 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土・炭化物・灰や多く含む。
- 14 暗褐色土層 (10YR3/3) 上面硬質。B-1・暗褐色土の混合土。
- 15 によい黄褐色土層 (10YR4/3) E-1主体。暗褐色土含む。

第27図 H12号住居址遺構・遺物実測図



第28図 H12号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調査・文様	残存率・部位	備考	
1	土師器	杯	13.3	5.9	4.5	外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面中央から放射状ミガキ・黒色地埋 完全実測 無遺物	90	外周7.5YR6/6にぶい黄色 完全実測 無遺物
2	土師器	杯	13.7	5.5	4.5	外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面中央から放射状ミガキ・黒色地埋 完全実測 無遺物	75	外周5YR6/4Cにぶい褐色 完全実測 灰区・カマド出土
3	土師器	杯	13.3	6.2	4.3	外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面中央から放射状ミガキ・黒色地埋 完全実測 無遺物	80	外周7.5YR7/6暗褐色 完全実測 カマド・高台出土
4	土師器	杯	14	5.7	3.9	外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面中央から放射状ミガキ・黒色地埋 完全実測 無遺物	100	外周5YR4/6赤黄色地 完全実測 カマド・高台出土
5	土師器	碗	15.1	(5.3)	(4.8)	外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面黒色地埋 底面回転糸切り・高台欠損 表面磨き「注」あり	90	外周10YR3/1黒褐色地 完全実測 カマド・高台出土
6	土師器	杯	(16)	(7.4)	4	外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面黒色地埋 底面回転糸切り	30	完全実測 無遺物
7	土師器	杯	[14.4]	(5)	4.4	内外周口クロナジ 底面回転糸切り	内面黒色地埋 底面回転糸切り	20	外周10YR7/2にぶい黄褐色地 完全実測 灰区出土
8	土師器	杯	—	5.3	(1.7)	内面黒色地埋 底面回転糸切り	底面	—	完全実測 無遺物
9	土師器	杯	[13.4]	—	—	外周口クロナジ 内面黒色地埋	口縁から体部	—	外周7.5YR7/6暗褐色 完全実測 灰区出土
10	土師器	杯	—	—	—	外周口クロナジ 内面黒色地埋 表面磨きあり	口縁破片	—	外周5YR6/4Cにぶい褐色地 完全実測 灰区出土
11	土師器	碗	—	8	(3.1)	内面ミガキ 底面回転糸切り後高台貼り付け	高台から体部下破片	—	外周2.5YR6/6暗褐色 完全実測 灰区出土
12	土師器	碗	—	(7.2)	(2.8)	内面中央から放射状のミガキ・黒色地埋 底面回転糸切り・高台欠損	底面から体部破片	—	外周2.5YR6/6暗褐色 完全実測 灰区出土
13	土師器	杯	[20.6]	—	—	外周口クロナジ 内面ミガキ	口縁から体部破片	—	外周5YR2.5/6赤黄色 完全実測 灰区・高台出土
14	土師器	皿?	—	—	—	内外周赤色地埋 内面ナジ	口縁破片	—	外周10R4/8赤色 完全実測 灰区・高台出土
15	土師器	甕	[14.8]	—	(4.5)	口縁緑ナジ・コの字状武藏裏 外面ヘラクスリ 内面ヘラナジ	口縁破片	—	外周5YR4/4Cにぶい赤褐色地 完全実測 灰区・高台出土
16	土師器	小器 口ワ口裏	—	—	—	内外周口クロナジ	口縁破片	—	外周2.5YR7/3淡黄色地 完全実測 灰区出土
17	土師器	甕	—	(5.5)	(3.6)	外面部ヘラクスリ 内面ヘラナジ	底面から体部破片	—	外周2.5YR6/6暗褐色 完全実測 灰区・高台出土
18	須恵器	高台付杯	[14.9]	6.8	5.4	内外周口クロナジ 底面回転糸切り後高台貼り付け	40	—	外周2.5YR6/6暗褐色 完全実測 灰区・高台出土
19	須恵器	高台付杯	—	7.2	(3.1)	内外周口クロナジ 底面回転糸切り後高台貼り付け	高台から体部下破片	—	外周5YR1/1白色 完全実測 無遺物
20	須恵器	杯	—	—	(3.7)	内外周口クロナジ 底面回転糸切り 表面磨きあり	底面から体部破片	—	外周2.5YR7/3淡黄色地 完全実測 灰区出土

第16表 H12号住居址遺物観察表

H13号住居址

遺構はW-ラ-8グリッドに位置し、F2と切り合い関係にあり、擾乱に破壊される部分も多い。主軸は南北軸に対してはほぼNである。

平面形態はやや平行四辺形に歪んだ方形で、規模は南北4.1m、東西4.6m、検出面から床面までの深さは最大で10cmと浅い。

覆土はカマドを除き黒褐色土の単層である。

構造の特徴として、北壁と東壁の一部をのぞいて幅15cm、深さ10cm程度の壁溝が存在する。床面は全体的に硬質であるが擾乱による影響も大きく凹凸感がある。ピットは確認できなかったが、床面上及び掘方で、コーナー付近に円形の土坑が存在する。カマドは北壁と東壁の2カ所に構築されている。いずれも破壊が著しく、焼土の堆積した火床と壁外への張り出し部が確認できたのみである。掘方は全体的に5~10cm程度の厚みで黒褐色土が埋め込まれ、上面に硬質面が確認できる。

遺物は土師器の杯・甕・甗、須恵器の杯・甕・壺、凹石が出土した。土師器杯は破片が僅かに出土し全体の形状は不明である。土師器甕は破片が大半で全体の形状が残る個体は存在しない。全体に薄手で口縁くの字状と思われる。やや時期が古い厚手の破片も出土している。須恵器杯も破片で全体の形状が残る個体は存在しない。底部は回転糸切りで高台が付く個体も認められる。この他、縄文土器片が1片出土した。

時期は口縁くの字状で薄手の武藏裏が存在すること、土師器杯の出土量を超える須恵器杯の存在及

び特徴から、8世紀後半としたい。厚手の甕等については古墳時代と考えられ、混入品と考えられる。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) 0-1・軽石・炭化物含む。
- 2 暗暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・灰・炭化物含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-1・軽石多く含む。ややしまりなし。
- 4 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 粘土・焼土・炭化物含む。
- 5 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 焼土・炭化物含む。
- 6 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼土・炭化物やや多く含む。
- 7 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土・炭化物やや多く含む。
- 8 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 灰・焼土やや多く含む。
- 9 におい黄褐色土層 (10YR6/4) 0-17°砂含む。
- 10 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 焼土・粘土・炭化物やや多く含む。
- 11 灰褐色土層 (5YR4/2) 粘土含む。一部焼土化。
- 12 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-1やや多く、炭化物・軽石含む。
- 13 黒褐色土層 (10YR2/2) 0-1と暗褐色土の混合土。硬質。

第29図 H13号住居址遺構・遺物実測図

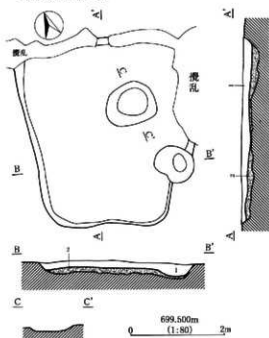
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	環	-	8.6	(2.7)	外面口クロナデ 内面中央から放射状ミガキ・黒色処理 底面ヘラケズリ	底面から胴部破片	外面7.5YR5.6暗褐色 底面実測 Ⅰ区出土
2	土師器	甕	-	-	-	口縁頸ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR4/8赤褐色 断面実測 北カマド出土
3	土師器	甕	-	[4.2]	(6.8)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面ヘラケズリ	底面から胴部破片	外面7.5YR4/8褐色 口縁実測 北カマド出土
4	土師器	甕	-	[4]	(4)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面ヘラケズリ	底面から胴部破片	外面10YR4/4褐色 口縁実測 Ⅱ区出土
5	土師器	甕	-	[7]	(2.2)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面木炭焼	底面から胴部破片	外面10YR5.6黄褐色 断面実測
6	須恵器	環	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁破片	外面2.5GY4/1緑オリーブ灰色 断面実測 Ⅱ区・北カマド出土
7	須恵器	環	-	[5]	(2.2)	内外面口クロナデ 底面研転糸切り	底面から胴部破片	外面7.5Y6/2灰オリーブ色 断面実測 北カマド出土
8	須恵器	高台付環	-	[6.8]	(1.1)	底面研転糸切り高台付付付	高台から胴部破片	外面7.5Y6/1灰色 断面実測 Ⅱ区出土
9	須恵器	甕	-	-	(1.2)	内外面口クロナデ 外面自然釉付替	胴部破片	外面7.5Y3/1オリーブ黒色 断面実測
10	須恵器	甕	-	-	-	外面ナデ 内面無文当て具底・ナデ	胴部破片	外面7.5Y3.1/1灰色 断面実測 Ⅱ区出土

第17表 H13号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
11	須恵器	甕	—	—	—	外面ナデ・自然釉付着 内面ナデ	頸部破片	外面2.5GY6/1オリーブ灰色 断面裏面 Ⅰ区出土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	外面羽状縄文 内面ナデ 縁線凹入 縄文前期	胴部破片	外面7.5YR5/6暗褐色 断面裏面 Ⅰ区出土
番号	器種	器形	最大長(ca)	最大幅(ca)	最大厚(ca)	調整・文様	重量(g)	備考
13	石器	凹石	19.2	16	5.8	正面に凹あり	2210	知識物

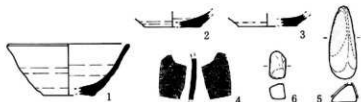
第18表 H13号住居址遺物観察表(2)

H14号住居址



第30図 H14号住居址遺構・遺物実測図

- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) 0-1、軽石多く含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/4) Ⅱ-Ⅲ主体。暗褐色土含む。ややしまりあり。



遺構はW-あ-9グリッドに位置し、北壁及び東壁は攪乱に破壊される箇所が多い。主軸は西壁を基準としてN5°Eである。

平面形態は隅の丸い台形で、規模は南北3.7m、東西は計測できる最大で3.1m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。

覆土は黒褐色土の単層である。

構造の特徴として、床面は全体的に土間状を呈し、硬質である。土坑状の窪みが2カ所確認できたが、性格は不明である。ピット、壁溝、カマドは確認できなかった。掘方は暗褐色土の単層である。竪穴状遺構的性格が強い

遺構であるが今回は住居址として取り扱った。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏、灰軸陶器、すり石が出土した。全体的に出土量が少なく形状が残る個体は少ない。土師器坏・甕は小破片である。須恵器坏は底部回転糸切り後無調整でつくりは粗い。灰軸陶器は壺の破片と思われる。

時期は須恵器坏の特徴から8世紀後半から9世紀としたい。

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	[12.6]	[5]	5.4	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	口縁から底部破片	外面10Y4/1灰色 断面裏面 Ⅰ区出土
2	須恵器	坏	—	[5.8]	(1.6)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底面から縁部破片	外面2.5Y3/3暗オリーブ褐色 断面裏面 Ⅰ区出土
3	須恵器	坏	—	(6.2)	(1.2)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底面から縁部破片	外面10Y3/1灰色 断面裏面 Ⅰ区出土
4	灰軸陶器	壺	—	—	—	内外面ロクロナデ・風輪捺刷	体部破片	外面7.5Y6/1灰色 断面裏面 Ⅰ区出土
番号	器種	器形	最大長(ca)	最大幅(ca)	最大厚(ca)	調整・文様	重量(g)	備考
5	石器	すり石	7.7	2.9	2.1	すり面2面	54	Ⅰ区出土
6	石器	ミガキ石	2.8	1.7	1.6	一部欠損	10.23	Ⅰ区出土

第19表 H14号住居址遺物観察表

H15号住居址

遺構はA F-あ-1グリッドに位置し、H16を切り、中央付近を方形の攪乱に破壊されている。主軸はN6°Wである。

平面形態はやや隅の丸い方形で、規模は南北4.3m、東西4.0m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。

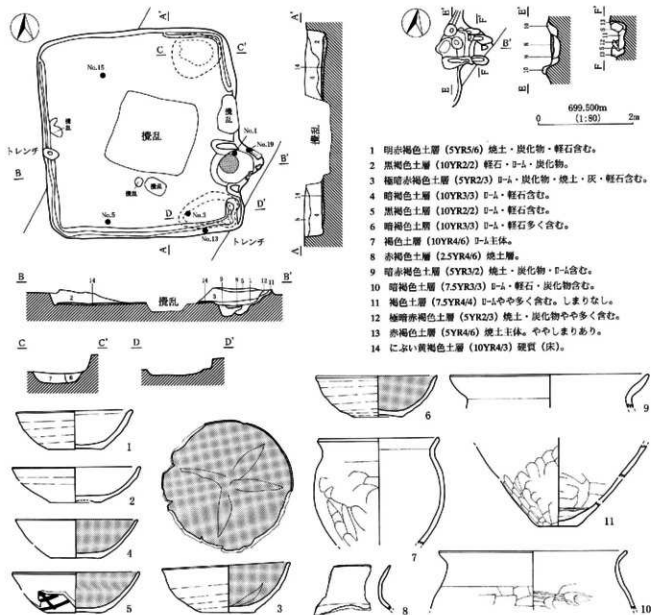
覆土は北方向からの堆積状況を示す黒褐色土と暗褐色土の3層で自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、北壁周辺部をのぞき幅15cm、深さ10cm内外の壁溝が存在した。残存した床面は

全体的に土間状を呈し、硬質である。床面上で支柱穴と考えられるピットは認められなかった。カマドは東壁の南寄りに構築されている。袖の一部及び円形に窪められた燃焼部と煙道への立ち上がりが残存しているのみであった。燃焼部に焼上の堆積した円形の火床が残存し、内壁部の一部に石材が埋め込まれていた。燃焼部の東端からはおよそ42°の傾斜で東壁外50cmに至る。また、カマド周辺には形状をとどめた坏が数個体出土した。掘方は北東及び南東コーナーが深く掘り込まれている他は、貼り床の硬質層が存在する程度である。

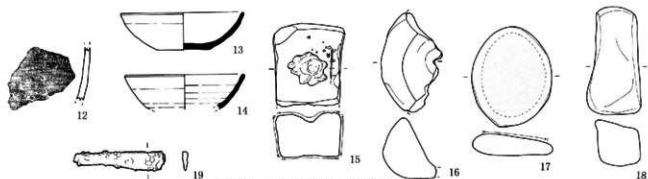
遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕、砥石・凹石・すり石・編物石、鉄製品が出土した。土師器坏は底部からやや丸みを持って口縁に至る形態が主体で、底部から丸みをもって立ち上がりやや器高が低い形態も認められる。破片も含め黒色処理がやや多い比率である。土師器甕は口縁コの字状の武蔵甕とロク口甕が存在する。須恵器坏は土師器坏の主体となる形態に近い様相を示す。破片も含め土師器坏の3分の1程度の出土量である。甕はやや大型甕の破片である。

時期は土師器坏の形状に僅かだが潰れたような器高の低い形態が含まれること、土師器甕に武蔵甕とロク口甕が認められること、須恵器坏の出土量が比較的多いこと等から9世紀後半としたい。



- 1 明白褐色土層 (5YR5/6) 焼土・炭化物・軽石含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/2) 軽石・D-I・炭化物。
- 3 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) D-I・炭化物・焼土・灰・軽石含む。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/2) D-I・軽石含む。
- 6 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石多く含む。
- 7 褐色土層 (10YR4/6) D-I主体。
- 8 赤褐色土層 (2.5YR4/6) 焼土層。
- 9 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 焼土・炭化物・D-I含む。
- 10 暗褐色土層 (7.5YR3/3) D-I・軽石・炭化物含む。
- 11 褐色土層 (7.5YR4/4) D-Iやや多く含む。しまりなし。
- 12 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・炭化物やや多く含む。
- 13 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土主体。ややしまりあり。
- 14 濃い黄褐色土層 (10YR4/3) 硬質(床)。

第31図 H15号住居址遺構・遺物実測図



第32図 H15号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	12.3	5.6	4.1	外面ロクロナデ 内面付着物あり 底面回転糸切り	100	外面7.5YR4/5褐色 完全実測 No遺物
2	土師器	杯	(13.5)	5.3	3.7	外面ロクロナデ 内面ミガキ 底面回転糸切り	50	外面7.5YR6/6褐色 内面黒色 I・E・IV区出土
3	土師器	杯	13.6	5.5	5.3	外面ロクロナデ・黒色 内面中央から十字状線文・黒色処理	90	外面7.5YR3/4暗褐色 完全実測 No遺物
4	土師器	杯	(12.9)	5.4	4.2	外面ロクロナデ 内面中央から放射状ミガキ・黒色処理	40	外面7.5YR6/4にぶい褐色 内面黒色 III・IV・V区出土
5	土師器	杯	(13.5)	5.9	4.3	外面ロクロナデ・黒褐色 内面中央から放射状ミガキ・黒色 処理一褐色仕上げ	50	外面7.5YR6/6褐色 内面黒色 No遺物
6	土師器	杯	12.9	5.2	4.5	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底面回転糸切り	100	外面5YR6/6褐色 完全実測 No遺物
7	土師器	小型甕	(12.9)	—	(11.4)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色 内面黒色 I・E区出土
8	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ・コの字状口縁	口縁破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色 断面黒色 II区出土
9	土師器	甕	(21)	—	(3.3)	口縁横ナデ	口縁破片	外面5YR7/4にぶい褐色 断面黒色 II区出土
10	土師器	甕	(20)	—	(6.1)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面7.5YR6/4にぶい褐色 断面黒色 II区出土
11	土師器	甕	—	(4.2)	(8.5)	外面・底面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底面から胴部破片	外面5YR4/2灰褐色 断面黒色 I・IV区出土
12	土師器	ロクロ甕	—	—	—	外面刷毛目状ロクロナデ	胴部破片	外面7.5YR6/6褐色 断面黒色 II区出土
13	須恵器	杯	13.1	5.6	3.9	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り	95	外面2.5Y/2灰白色焼 完全実測 IV区出土 No遺物
14	須恵器	杯	(12.8)	—	—	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り	口縁破片	外面7.5Y3/1灰白色 完全実測 IV区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
15	石器	砥石	(8.9)	7.6	5	一薄欠損 風面数4 磨打痕あり	511.33	No遺物
16	石器	凹石	(13.2)	—	(6.4)	約1/4残存 軋石製	173.03	
17	石器	すり石	10.6	8.5	2.3	表面にすり面	253.27	IV区出土
18	石器	網物・磨石	11.4	5.6	4.7	先端部に磨打痕	512.34	IV区出土
19	鉄製品	刀子	(9.7)	1.9	0.7	両端欠損	24.46	No遺物

第20表 H15号住居址遺物観察表

H16号住居址

遺構はW-11-10グリッドに位置し、H15に切られる。主軸はN2°Wである。

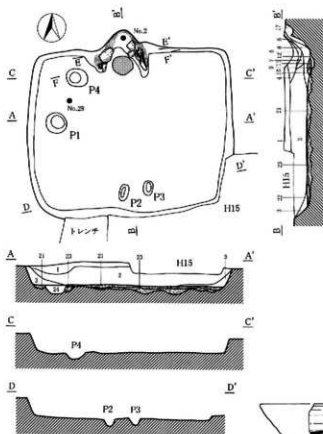
平面形態は東西に長い隅の丸い長方形で、規模は南北3.4m、東西4.1m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。

覆土は黒褐色土と暗褐色土主体で周辺から流れ込んだ堆積状況である事から自然堆積と考えられる。

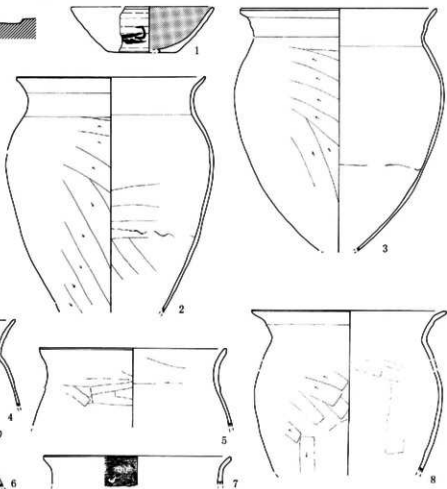
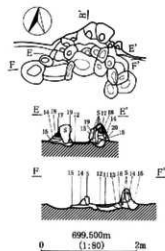
構造の特徴として、床面は全体的に土間状を呈し、硬質である。ピットは4個確認できた。P2、P3は入り口に関すると考えられるが、主柱穴と断定できるピットは認められなかった。カマドは北壁のやや西寄りに粘土と石材を利用し構築されているが、大半は崩れ落ちた状態である。袖内部と内壁部を石材によって補強した袖及び円形に焼土が堆積した火床が残存し、燃焼部からおよそ70°の傾斜で北壁外40cmに至る。掘方は5～15cmの厚みがあり、上層に硬質面が存在する。

遺物は土師器の杯・甕・甗、須恵器の杯・甕・蓋、軽石製品、凹石が出土した。土師器杯は内面黒色処理が大半である。墨書土器が1点含まれる。土師器甕は口縁コの字状で器厚の薄い武藏甕とやや厚手が存在する。武藏甕が主体で、厚手の甕は破片で形状は確認できない。須恵器杯は破片だが、量的には土師器杯と同程度出土している。甕は破片が出土している。

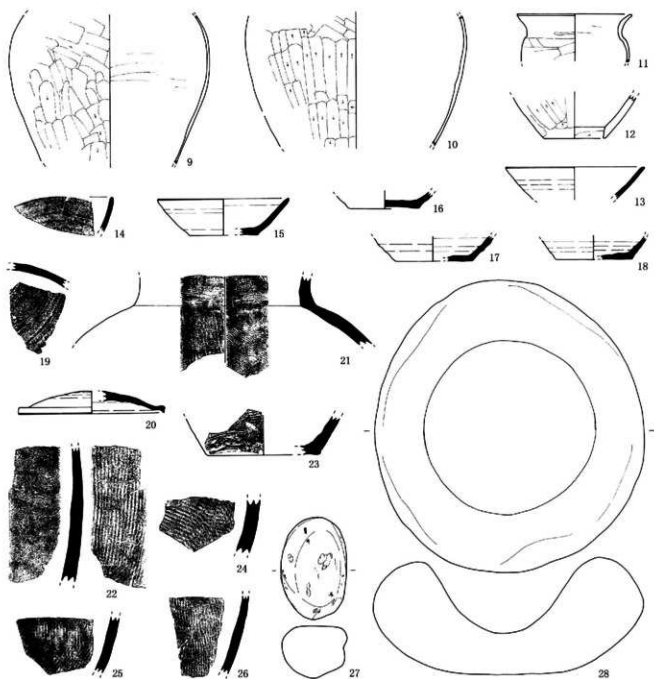
時期は、口縁コの字状の土師器武藏甕が主体であること、須恵器杯が土師器杯と同程度存在していることから9世紀前半としたい。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) 0-1、軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/5) 0-1、軽石・炭化物含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/4) 0-1、軽石・炭化物多く含む。
- 4 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 0-1、軽石・炭化物・焼土含む。
- 5 極暗赤褐色土層 (5YR2/4) 焼土・炭化物多く含む。
- 6 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・炭化物多く含む。
- 7 極暗褐色土層 (7.5YR2/5) 焼土・炭化物少量含む。
- 8 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土・炭化物多量に含む。しまりなし。
- 9 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土層。
- 10 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 焼土・炭化物少量含む。
- 11 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土層。
- 12 におい赤褐色土層 (5YR5/3) 焼土・炭化物含む。
- 13 におい赤褐色土層 (5YR5/3) 焼土・炭化物やや多く含む。
- 14 暗赤褐色土層 (5YR3/2) 焼土・炭化物・粘土含む。
- 15 におい赤褐色土層 (5YR4/4) 0-1多く、焼土・炭化物含む。
- 16 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 炭化物やや多く、焼土・粘土粒含む。
- 17 明赤灰色土層 (2.5YR3/1) 粘土層。
- 18 褐色土層 (7.5YR4/4) 0-1主体。炭化物・焼土含む。
- 19 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 粘土やや焼土化。炭化物含む。
- 20 におい赤褐色土層 (5YR4/4) 0-1多く含む。しまりなし。
- 21 褐色土層 (7.5YR3/3) 硬質 (床)。
- 22 におい赤褐色土層 (2.5YR5/4) 0-1主体。硬質 (床)。
- 23 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 0-17'弱。軽石やや多く含む。
- 24 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 0-1、軽石含む。しまりなし。



第33図 H16号住居址遺構・遺物実測図



第34図 H16号住居址遺物実測図(2)

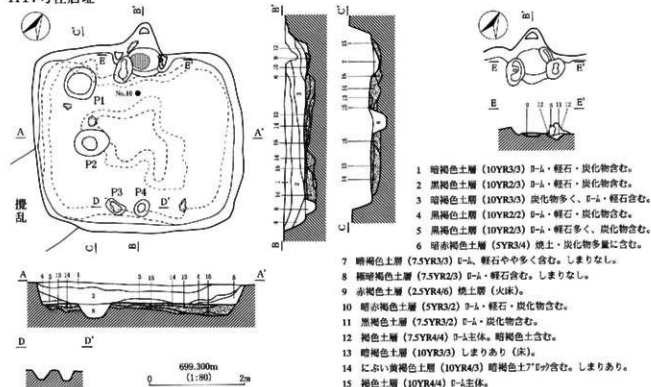
番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	(15.2)	(7.2)	4.9	外面口ケロナデ 内面ミガキ・黒色粘着 底面斜線	30	外面7.5YR7/4に赤い褐色 同底面裏 埋出土
2	土師器	甕	(20.2)	—	(25)	口縁横ナデ・コの字状武藏葉 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	60	外面10YR5/6赤色 一部底面裏 埋出土
3	土師器	甕	20.7	—	(25.7)	口縁横ナデ・コの字状武藏葉 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	外面2.5YR3/5暗赤褐色 一部底面裏 1区出土
4	土師器	甕	(21)	—	(9)	口縁横ナデ・コの字状武藏葉 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR4/4に赤い赤褐色 同底面裏 1区出土
5	土師器	甕	(20)	—	(8.2)	口縁横ナデ・コの字状武藏葉 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR4/8赤褐色 同底面裏 方マド出土
6	土師器	甕	(20)	—	(5.9)	口縁横ナデ・コの字状武藏葉 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR5/6明赤褐色 同底面裏 1区・方マド出土
7	土師器	甕	(20)	—	(3)	口縁横ナデ	口縁破片	外面5YR5/8明赤褐色 同底面裏 1区・方マド出土
8	土師器	甕	(20.5)	—	(17.1)	口縁横ナデ・コの字状武藏葉 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR4/8赤褐色 同底面裏 1区・方マド出土
9	土師器	甕	—	—	(15.7)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面7.5YR5/4に赤い褐色 同底面裏 1区・方マド出土
10	土師器	甕	—	—	(13.7)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR4/8赤褐色 同底面裏 1区・方マド出土

第21表 H16号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
11	土師器	小型甕	[12]	-	(5)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色 口縁支脚 方マド出土
12	土師器	甕	-	(6)	(4.5)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴下部破片	外面5YR5/4にぶい赤褐色 口縁支脚 Ⅱ区出土
13	須恵器	坏	[14.5]	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	外面7.5YR7/2暗褐色 口縁支脚 Ⅱ区出土
14	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	外面2.5Y5/1オリーブ灰色 断面支脚 Ⅰ区・カマド出土
15	須恵器	坏	[14]	[7.2]	3.8	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	口縁から底部破片	外面2.5Y5/1オリーブ灰色 口縁支脚 Ⅱ区出土
16	須恵器	坏	-	[7.4]	(1.3)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底部から体部破片	断面支脚 Ⅱ区出土
17	須恵器	坏	-	[8.2]	(2.3)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底部から体部破片	外面2.5Y5/3にぶい褐色 断面支脚 Ⅱ区出土
18	須恵器	坏	-	[8]	(2.2)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底部から体部破片	断面支脚 Ⅱ区出土
19	須恵器	蓋	-	-	-	内外面ロクロナデ 天井部回転ヘラケズリ	破片	外面7.5YR6/3にぶい褐色 断面支脚 Ⅱ区出土
20	須恵器	蓋	[15.4]	-	(2.4)	内外面ロクロナデ 天井部回転ヘラケズリ	蓋りから天井部破片	外面2.5Y5/1オリーブ灰色 口縁支脚 Ⅱ区出土
21	須恵器	甕	-	-	-	口縁横ナデ 外面平行叩き・自然輪付着 内面同心円当て具痕	頸部から肩部	外面7.5YR3/4暗褐色 口縁支脚 Ⅱ区・カマド出土
22	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き・自然輪付着 内面同心円当て具痕	胴部破片	外面7.5YR3/4暗褐色 断面支脚 Ⅱ区・カマド出土
23	須恵器	甕	-	[12]	(4)	外面平行叩き・自然輪付着 内面自然輪付着 底部ヘラケズリ	底部から胴部破片	外面2.4Y6/6 口縁支脚 Ⅱ区出土
24	須恵器	甕	-	-	-	外面圓目状叩き 内面ナデ	胴部破片	外面5YR4/2灰褐色 断面支脚 Ⅰ区出土
25	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当て具痕	胴部破片	外面2.4Y6/6 断面支脚 Ⅱ区出土
26	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面当て具痕	胴部破片	外面2.4Y6/6 断面支脚 Ⅰ区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
27	石器	すり石	10.8	6.9	5.6	全体にすり痕 1面平坦 砥石痕	207.6	カマド出土
28	石製品	燧石	31	28.4	12.3	径18.0cm、厚さ7.8cmの薄みあり	12430	知通物

第22表 H16号住居址遺物観察表(2)

H17号住居址



第35図 H17号住居址実測図

遺構はA E-1-1 グリッドに位置する。主軸はN29° Wである。

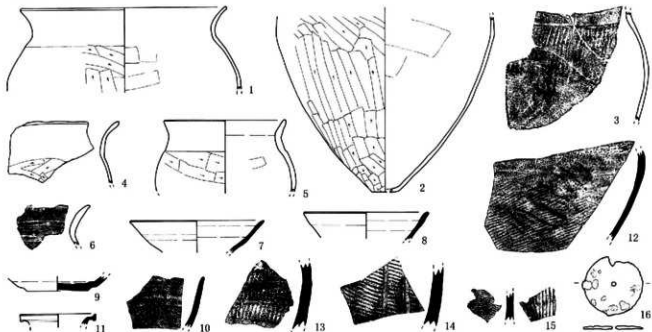
平面形態は東西にやや長い隅の丸い長方形で、規模は南北3.2m、東西4.1m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。

覆土は黒褐色土と暗褐色土主体で周辺部から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は平坦で上間状の硬質面を持つ。ピットは床面上で4個確認できた。P3・P4は入り口に関すると思われる。支柱穴と断定できるピットは確認できなかった。カマドは北壁の中央に構築されていて、大半は崩落している。袖の一部及び円形に焼土が堆積した火床と周辺燃焼部の窪み、燃焼部から煙道部に至る立ち上がりのみ確認できた。掘方は全体的に20~30cmと比較的深く掘り下げ、上層には5cm内外の厚みで硬質の貼り床層が確認できた。

遺物は土師器の坏または碗・甕、須恵器の坏・甕・壺、鉄製品が出土した。土師器坏または碗は破片が僅かに出土している。土師器甕は薄手の口縁コの字状で小型と大型があり、本住居址から出土した土器の大半を占める器種である。須恵器坏は破片が主体だが出土量は土師器坏を上回る。甕は表面に縄目を持つ平行叩きを施す。

時期は口縁コの字状武藏甕の存在、破片資料も含め土師器坏の出土量を越す須恵器坏の存在から9世紀前半としたい。

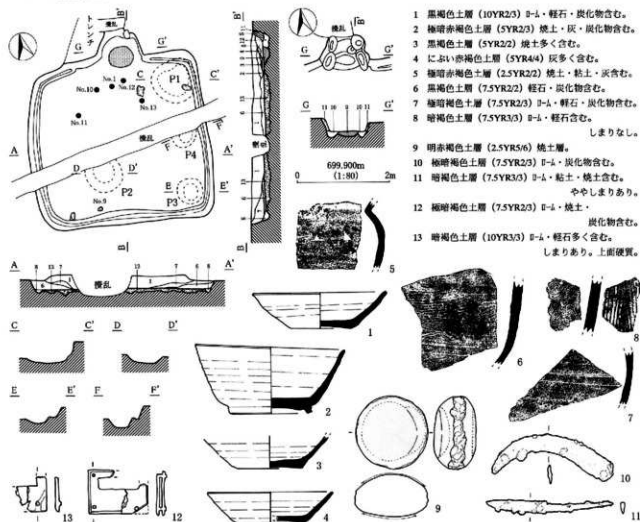


第36図 H17号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	[22]	—	(8.7)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面7.5YR5/6明褐色 口縁変色 Ⅰ区・カマド出土
2	土師器	甕	—	[3]	(18.6)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR5/6明褐色 胴部変色 カマド出土
3	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面10YR5/8明褐色 胴部変色 Ⅰ区出土
4	土師器	甕	—	—	—	口縁横ナデ・ヤヤコの字状口縁	口縁から胴部破片	外面7.5YR5/6明褐色 胴部変色 Ⅰ区出土
5	土師器	甕	[12.8]	—	(7.5)	口縁横ナデ・ヤヤコの字状口縁	口縁から胴部破片	外面7.5YR5/6明褐色 口縁変色 Ⅰ区出土
6	土師器	甕	—	—	—	内外面横ナデ	口縁破片	外面7.5YR4/2灰褐色 胴部変色 Ⅰ区出土
7	須恵器	坏	[14.3]	—	—	内外面口クロナデ	口縁破片	外面GGY4/1暗オリーブ灰色 胴部変色 Ⅱ区出土
8	須恵器	坏	[13]	—	—	内外面口クロナデ	口縁破片	外面5Y5/2灰オリーブ色 胴部変色 Ⅰ区出土
9	須恵器	坏	—	[6.4]	(1.4)	内外面口クロナデ 底部縦糸糸切り	底部の糸部破片	外面7.5YR5/4に2~1明褐色 胴部変色 Ⅱ区出土
10	須恵器	坏	—	—	—	内外面口クロナデ	口縁破片	外面5GY4/1暗オリーブ灰色 胴部変色 Ⅰ区出土
11	須恵器	甕	[4]	—	(1)	内外面自然粘付着	口縁破片	外面7.5Y2/1黒色 胴部変色 Ⅰ区出土
12	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き・自然粘付着 外面ナデ	胴部破片	外面10Y3/1オリーブ褐色 胴部変色 Ⅰ区出土
13	須恵器	甕	—	—	—	外面縄目平行叩き・ナデ 内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR3/1暗褐色 胴部変色 Ⅱ区出土
14	須恵器	甕	—	—	—	外面縄目平行叩き・ナデ 内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR3/2暗褐色 胴部変色 Ⅰ区出土
15	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き 内面同心円状文様	胴部破片	外面7.5YR3/2暗褐色 胴部変色 Ⅱ区出土
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
16	鉄製品	短冊状 はずみ形	6.2	6.2	0.47	孔径0.4 一部欠損	31.56	Ⅱ区遺物

第23表 H17号住居址遺物観察表

H18号住居址



第37図 H18号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	14.6	7	3.9	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	80	外面5Y7/2R白色 完全実測 No.遺物
2	須恵器	高台付坏	16.2	9	7.2	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り後高台取り付け	70	外面2.5GY4/1暗オリーブ灰色 完全実測 Ⅱ区出土
3	須恵器	坏	-	7	(3.3)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底縁から縁部の一部	外面7.5Y5/2Rオリーブ色 完全実測 Ⅱ区出土
4	須恵器	坏 [13.6]	[7.4]	3.3	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底部0-54縁部片	外面7.5Y5/2Rオリーブ色 完全実測 Ⅱ区出土	
5	須恵器	甕	-	-	-	内外面ロクロナデ 外面自然釉付着	口辺から腹部破片	外面10Y3/1オリーブ黒色 断面実測 Ⅱ区出土
6	須恵器	甕	-	-	-	外面ロクロナデ・自然釉付着	胴部破片	外面7.5Y3/1オリーブ黒色 断面実測 カマド出土
7	須恵器	甕	-	-	-	外面横ナデ 内外面自然釉付着	胴部破片	外面5GY2/1オリーブ黒色 断面実測 Ⅰ区出土
8	須恵器	甕	-	-	-	外面平行叩き 内面同心円帯で具置	胴部破片	外面7.5YR3/2暗褐色 断面実測 カマド出土
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
9	石器	すり・敲石	7.8	7.9	4.5	正・裏面にすり面 無面に磨行痕	41.432	No.遺物
10	鉄製品	鎌	13	2.3	0.43	完形品 錆付着	31.23	No.遺物
11	鉄製品	刀子	13.6	1.2	0.46	完形品 錆付着	13.23	No.遺物
12	銅製品	遠方	3.15	2.4	0.53	一部欠損	5.37	No.遺物
13	銅製品	遠方	(1.65)	(1.85)	(0.19)	多く欠損	1.27	No.遺物

第24表 H18号住居址遺物観察表

遺構はA-Fキー3グリッドに位置し、一部攪乱に破壊される。主軸は東壁を基準としてN10°Eである。

平面形態はやや隅の丸い方で、規模は南北3.5m、東西3.7m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。

覆土は黒褐色土と極暗褐色土が主体で周辺部から流れ込んだ堆積状況であることから、自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は土間状に硬質で、壁際に幅15cm、深さ12cm内外の壁溝が存在する。床面上でピットは確認できなかった。カマドは北壁中央に構築されている。燃烧部の多くが壁外に台形状に張り出す形態で、住居内に延びる袖は確認できなかった。火床には円形の焼土の堆積があり、燃烧部からおよそ70°の傾斜で検出面に至る。掘方は全体的に10cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれ、全体的に硬質である。

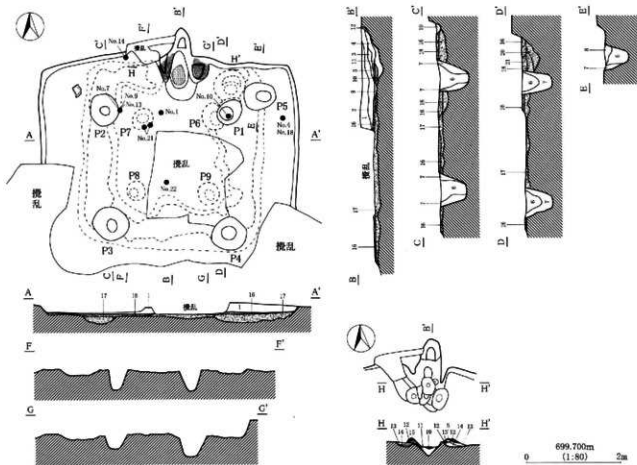
遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・高台付坏・甕・壺、すり・巖石、鉄製品、銅製品が出土した。土師器坏は破片のみで形状を窺える個体は認められない。土師器甕は薄手で胴部の破片が主体であるが、僅かに口縁コの字状と思われる破片が含まれる。須恵器坏は回転糸切りされた底部からやや開き気味に口縁部に至る。高台付坏は高台の付いた底部からやや急な角度で直線的に口縁部に至り深身である。甕・壺は表面自然釉、叩きを施す。

時期は土師器甕の口縁がコの字状の可能性があること、須恵器坏の形状及び土師器坏を上回る須恵器坏の存在から9世紀前半としたい。

H19号住居址

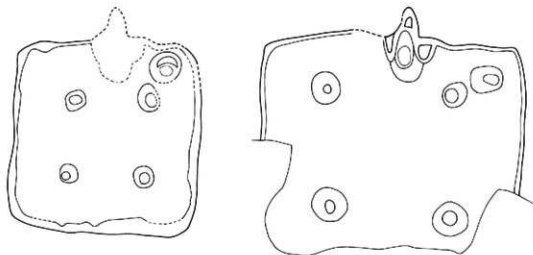
遺構はA F—か—6グリッドに位置し、南側は攪乱に破壊されている。主軸はN2°Eである。

平面形態は残存状況から方形と考えられる。規模は東西5.4m、南北は調査規模で4.5m、検出面から床面までの深さは最大で30cmを測る。



第38図 H19号住居址実測図(1)

- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (7.5YR3/3) D-I・軽石・炭化物・焼土含む。
- 3 暗赤褐色土層 (5YR3/3) 焼土・粘土壤・炭化物多く含む。
- 4 暗赤褐色土層 (5YR3/4) 焼土・粘土壤・炭化物多く含む。
- 5 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土層。
- 6 暗褐色土層 (7.5YR3/3) D-I・軽石や多く、炭化物含む。
- 7 暗褐色土層 (7.5YR3/4) D-I⁷・軽石や多く、軽石・炭化物含む。
- 8 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) D-I・軽石・炭化物含む。
- 9 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 焼土・粘土粒含む。
- 10 明赤褐色土層 (2.5YR5/6) 焼土層 (火床)。
- 11 極暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・炭化物や多く含む。
- 12 褐色土層 (7.5YR5/1) 粘土層。軽石含む。
- 13 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 焼土・軽石・D-I含む。
- 14 にぶい褐色土層 (7.5YR5/3) 粘土主体。軽石含む。
- 15 灰褐色土層 (7.5YR5/2) 粘土層。
- 16 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 硬質(床)。
- 17 にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) D-I主体。暗褐色土含む。やや硬質。
- 18 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I多く、軽石・炭化物含む。
- 19 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石含む。
- 20 黒褐色土層 (10YR2/2) D-I・軽石・炭化物含む。
- 21 灰黄褐色土層 (10YR6/2) D-I⁷・D-I含む。



第39図 H19号住居址実測図(2)

覆土は黒褐色土と暗褐色土主体で北側部において流れ込んだ堆積状況が確認できることから自然堆積と考えられる。

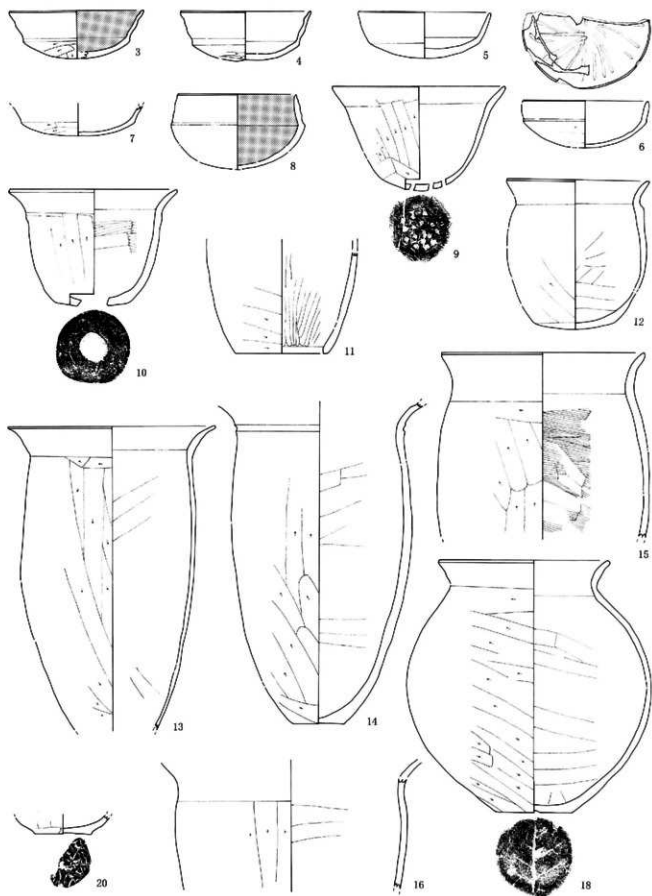
構造の特徴として、残存した床面は全体に硬質でピットは床面上で5個確認できた。P1～P4が主柱穴で、P5は位置的に土坑の性格を持つと考えられる。カマドは北壁中央に構築され、西側の一部は擾乱に破壊されている。火床部は住居内にほぼ収まる形態で、粘土で構築された袖の一部、燃焼部の窪みと火床に堆積した焼土が確認できた。検出面への立ち上がりは燃焼部北端から36°の傾斜で一度立ち上がり、テラス状の平坦面の後、やや急な傾斜で北壁外60cmに至る。掘方は5cm程度の厚みの床面を除去した結果、一回り小型な方形の住居址の痕跡が存在した。規模は、南北4.0m、東西3.8mを測り、平面形は、やや隅の丸い方形であった。床は存在しなかったが、主柱穴と貯蔵穴と考えられるピットの掘り込みが確認できた。本住居址は小型の住居址からの拡張又は建て替えが行われたと考えられる。

遺物は土師器の坏・甕・甔、白玉が出土した。坏は丸底の底部から立ち上がり体部途中に明瞭な稜を有し、口辺部にナデを施す形態が主体で、一部口辺部に緩やかな段が認められる個体も存在する。甕は胴部の最大径が上方に認められ、口縁部が外反する長胴甕と胴丸甕、小型甕が存在する。甔は小型のヘルメット状を呈する底部多孔と、ヘルメット状を縦にやや延ばし底部を平坦にした単孔と、中型の単孔が存在する。

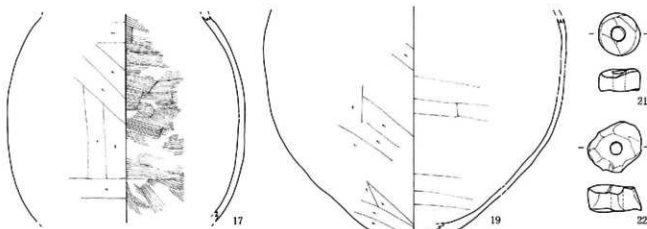
時期は、体部途中に明瞭な稜・段を持つ土師器坏が主体であり、一部口辺部に緩やかな段が認められる個体が存在すること、胴部上方に最大径が認められる甕の形状から古墳時代、6世紀中葉から7世紀初頭とした。



第40図 H19号住居址遺物実測図(1)



第41图 H19号住居址遺物実測図(2)



第42図 H19号住居址遺物実測図(3)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.8	丸底	4.4	口辺内外面斜毛目状の横ナデ 底部手持ちヘラケズリ 内面みこみ部ヘラナデ	100	外面2.5YR6/4に濃い褐色粘 完全欠損 無遺物
2	土師器	坏	[14]	丸底	4.2	口辺外面ナデ 底部手持ちヘラケズリ 口辺内面横ミガキ みこみ部ミガキ・やや厚紙		外面2.5YR7/4に濃い褐色粘 凹形欠損 1区出土
3	土師器	坏	[14.2]	丸底	5.1	口辺外面横ナデ・口辺部に横やかな段	45	外面2.5YR1/赤灰色 凹形欠損 1区出土
4	土師器	坏	[13.8]	丸底	5.3	内面斜毛目状ナデ・黒色処理 口辺内外面横ナデ・口辺部に横やかな段 底部手持ちヘラケズリ みこみ部ナデ・厚紙	40	外面2.5YR6/6褐色 凹形欠損 1区出土
5	土師器	坏	14	丸底	5	口辺横ナデ 底部手持ちヘラケズリ 内面やや厚紙	90	外面2.5YR8/3黄褐色色 完全欠損 1区カマド出土
6	土師器	坏	[13]	丸底	5	口辺内外面横ナデ 底部手持ちヘラケズリ 内面みこみ部中央から放射状彫文	50	外面2.5YR6/3に濃い褐色 凹形欠損 1区出土
7	土師器	坏	-	丸底	(3.1)	外面手持ちヘラケズリ 内面ナデ・やや厚紙		外面2.5YR6/4に濃い褐色粘 凹形欠損 無遺物
8	土師器	坏	12.6	丸底	8	口辺内外面横ナデ 底部手持ちヘラケズリ 内面黒色処理	60	外面5YR6/2赤褐色 完全欠損 1区カマド出土
9	土師器	甕	18.2	丸底	11.1	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 底面16個の穿孔	95	外面5YR6/4に濃い褐色 完全欠損 無遺物
10	土師器	甕	18.9	7.8	12.3	口辺横ナデ 外面・底面ヘラケズリ 底部径3.1cmの穿孔 内面下部に付着物・上部クシ状工具による横ナデ	95	外面10YR7/4に濃い褐色色 完全欠損 無遺物
11	土師器	甕	-	[9.6]	(12.3)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ		外面5YR6/6褐色 凹形欠損 1区出土
12	土師器	小型甕	15	8.4	15.9	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	80	外面2.5YR4/2赤褐色 完全欠損 1区出土
13	土師器	甕	22	-	(32.2)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	70	外面5YR3/2赤褐色 完全欠損 無遺物
14	土師器	甕	-	5.4	(34.1)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	外面5YR6/4に濃い褐色 部欠損 無遺物
15	土師器	甕	[21.2]	-	(19.6)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面斜毛目状工具によるナデ		外面5YR5/4赤褐色 凹形欠損 1区出土
16	土師器	甕	-	-	(14.9)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ		外面5YR7/6褐色 凹形欠損 1区出土
17	土師器	甕	-	-	(21.6)	外面ヘラケズリ 内面斜毛目状工具によるナデ		外面5YR5/3に濃い赤褐色 凹形欠損 1区カマド出土
18	土師器	甕	[18]	7.8	26.9	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部木葉痕	85	外面5YR7/2黄褐色 完全欠損 無遺物
19	土師器	甕	-	[9.6]	(23.4)	外面ヘラケズリ 内面斜毛目状工具によるナデ		外面5YR7/3に濃い褐色 凹形欠損 1区出土
20	土師器	甕	-	(6)	(2)	底部木葉痕		外面2.5YR5/1赤褐色 凹形欠損 1区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
21	石製品	白玉	1.1	1.1	0.6	磨石製 径3.5mmの穿孔	1.06	灰白色 無遺物
22	石製品	白玉	1.4	1.4	0.7	磨石製 径3mmの穿孔	1.85	灰白色 無遺物

第25表 H19号住居址遺物観察表

H20号住居址

遺構はAF-え-5グリッドに位置し、北壁部をM1に切られる。主軸はN4°Wである。

平面形態は残存状況からやや隅の丸い方形と考えられる。規模は東西4.0m、南北は残存規模の最大で3.0m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。

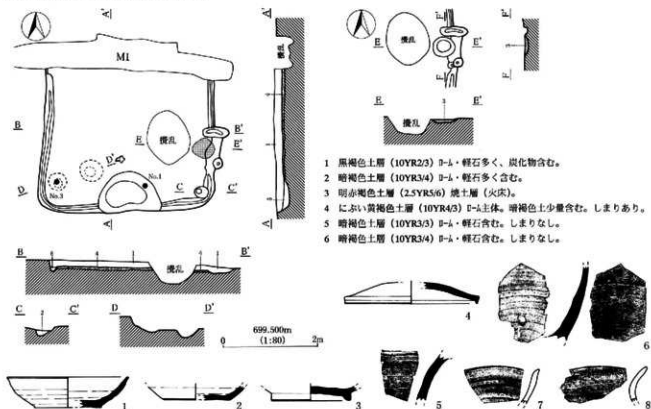
覆土は黒褐色土層の単層である。

構造の特徴として、床面は平坦で全体に硬質面を持つ。壁際には幅15cm、深さ10cm内外の溝が存在する。カマドは東壁の南寄りに構築されている。燃焼部と考えられる位置に焼土の堆積した火床が確認できる程度で大半が破壊されている。支柱穴と思われるピットは確認できなかった。南壁の中央付近に接して浅い窪み状の土坑が存在した。掘方は浅く5cm内外の貼り床と思われる硬質層のみ確認できた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋が出土した。土師器坏は古墳時代の破片が主体である

が出土量は少ない。甕は奈良・平安時代の武蔵甕と厚手の破片が存在する。須恵器坏は奈良・平安時代と思われる破片が数片出土した。

時期は古墳時代と奈良・平安時代の土器が混在するが、カマドから武蔵甕の破片が出土していることから奈良・平安時代としたい。



第43図 H20号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	須恵器	坏	[12.8]	[7]	3.2	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り	20	外面2.5GY6/1オリーブ灰色 内面赤黒 丸遺物
2	須恵器	坏	—	[7.1]	(1.5)	内外面ロクロナデ 底部回転糸切り		外面6GY3/1オリーブ灰色 内面赤黒
3	須恵器	高台付坏	—	8.4	(1.6)	底部回転糸切り高台貼り付け		外面2.5GY4/1暗オリーブ灰色 完全表面 丸遺物
4	須恵器	甕	[14.2]	—	(2.1)	内外面ロクロナデ 天井部回転ヘラケズリ		外面5P3/1暗紫灰色 内面赤黒
5	須恵器	甕	—	—	—	内外面ロクロナデ		外面N4/O灰色 断面実測 1区出土
6	須恵器	甕	—	—	—	内外面ロクロナデ 外面自然焼付着		断面実測 1区出土 外面YR5/4に少し赤褐色 断面実測 2区出土
7	土師器	坏	—	—	—	内外面ロクロナデ		口縁破片 2区出土
8	土師器	甕	—	—	—	内外面ロクロナデ		外面5YR6/4にぶい褐色 断面実測 カマド出土

第26表 H20号住居址遺物観察表

H21号住居址

遺構はA Fーあー4グリッドに位置し、部分的に擾乱に破壊される。主軸はN1°Wである。

平面形態はやや南北に長い隅の丸い長方形で、規模は南北4.2m、東西3.5m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。

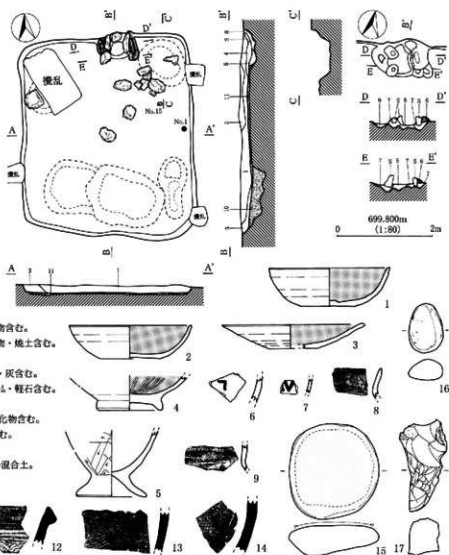
覆土は黒褐色土と暗褐色土が主体で周辺部から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は南側がやや低い他は平坦で、土間状の硬質面を持つ。壁際の溝及びピットは確認できなかった。カマドは北壁の中央からやや東に寄った位置に構築されている。燃焼部の主体が居屋内に収まる形状で袖は粘土と石材で構築されている。石材は焚き口入り口部及び内壁部分、袖の心材に使用されていた。燃焼部はやや窪んでおり焼土の堆積は認められなかった。カマド前方部にはカマドの構築材と考えられる石材が散在していた。掘方は南側の土坑状の窪みが存在する地域以

外は全体的に5cm程度の硬質な貼り床層のみである。また、北東コーナーに土坑が確認できた。床面上から掘り込まれていた可能性も考えられる。

遺物は土師器の坏・碗・皿・甕、須恵器の坏・蓋・甕、すり石・剥片が出土した。土師器坏は体部下の丸みが強く、やや器高が低い。内面は黒色処理が主体である。墨書土器の破片が2片出土している。碗は坏に比べやや器厚が厚い。甕は口縁コの字状の武蔵甕の破片と台付き甕の台部から胴下部の破損品が認められる。須恵器は坏・蓋・甕いずれも破片資料である。

時期は資料不足ではあるが、土師器坏の形状及び須恵器坏の出土量に減少が認められることから9世紀後半から10世紀前葉としたい。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) D-L・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/2) D-L・軽石・炭化物・焼土含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/4) D-L多量に含む。
- 4 暗赤褐色土層 (5YR2/3) 焼土・炭化物・灰含む。
- 5 暗褐色土層 (10YR3/3) 焼土・炭化物・D-L・軽石含む。
- 6 褐灰色土層 (5YR4/1) 粘土層。
- 7 細暗褐色土層 (7.5YR2/3) D-L・軽石・炭化物含む。
- 8 褐色土層 (7.5YR4/4) D-L多く、炭化物含む。
- 9 暗褐色土層 (10YR3/4) D-L多く含む。
- 10 暗褐色土層 (10YR3/3) D-Lと暗褐色土の混合土。
- 11 褐色土層 (10YR4/3) しまりあり。

第44図 H21号住居址遺構・遺物実測図

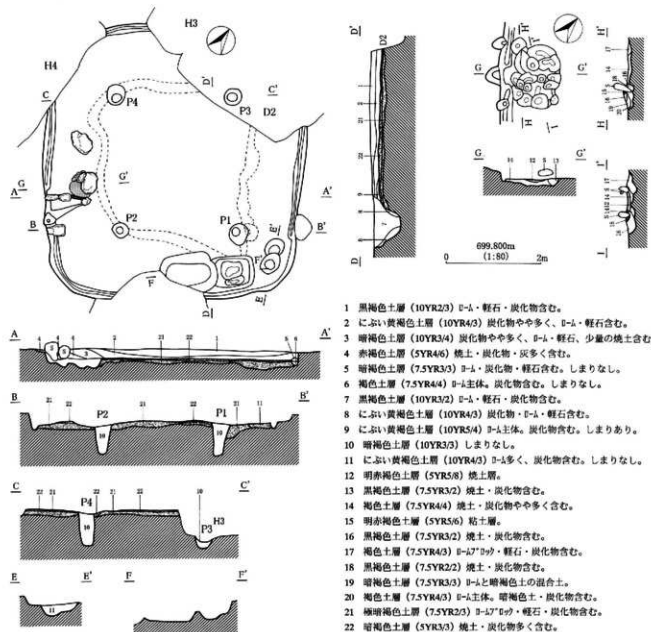
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	12.6	5.7	4	外面口クロナデ 内面ミガキ・黒色処理 底部回転糸切り	85	外面7.5YR5/2灰褐色 完全実態 Ⅰ区出土・無遺物
2	土師器	坏	[12.9]	6.5	3.5	外面口クロナデ 内面ミガキ・黒色処理 底部回転糸切り	口縁から破断破片	外面2.5YR5/6明赤褐色 回転実態 Ⅰ区出土
3	土師器	皿	[14.9]	[5.2]	(2.5)	外面口クロナデ 内面ミガキ・黒色処理 底部高台欠損	口縁から破断破片	外面7.5YR5/4に赤い赤褐色 回転実態 カマド出土
4	土師器	碗	-	7	(3.6)	外面口クロナデ 内面中央から放射状ミガキ・黒色処理 底部回転糸切り高台欠損付付	高台100から体面 破片	外面5YR5/6明赤褐色 一部回転実態 Ⅰ区出土
5	土師器	台付き甕	-	7.4	(6.9)	甕部外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 台部内外面横ナデ	台部から破断破片	外面2.5YR5/4に赤い赤褐色 一部回転実態 カマド出土
6	土師器	坏	-	-	-	外面口クロナデ 内面黒色処理 表面遺書あり	体部破片	外面7.5YR5/6褐色 一部実態 Ⅰ区出土
7	土師器	坏	-	-	-	外面口クロナデ 内面黒色処理 表面遺書あり	体部破片	外面7.5YR5/4に赤い赤褐色 断面実態 Ⅰ区出土
8	土師器	甕	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁破片	外面5YR5/6明赤褐色 断面実態 Ⅰ区出土
9	土師器	甕	-	-	-	内外面口クロナデ	口辺破片	外面7.5YR5/4に赤い赤褐色 断面実態 Ⅰ区出土
10	須恵器	坏	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁破片	外面5Y2/1灰色 断面実態 Ⅰ区出土
11	須恵器	蓋	-	-	-	天井部回転ヘラケズリ 空室つまみ取付付	天井部破片	外面5R2/4/1暗赤褐色 一部回転実態 Ⅰ区出土
12	須恵器	甕	-	-	-	内外面口クロナデ 二重口縁 外面縦線状文	口縁破片	外面N3/1緑灰色 断面実態 Ⅰ区出土

第27表 H21号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	備考
13	須臾器	甕	—	—	—	外面自然釉付着 内面ナデ	胸部破片	外面5R3/1暗赤灰色 裏面素面 Ⅰ区出土
14	須臾器	甕	—	—	—	外面平行引き・自然釉付着 内面ナデ	胸部破片	外面2.5Y/1黄褐色 断面黄褐色 Ⅱ区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
15	石器	すり石	10.1	9.4	3.2	正面にすり面	367.04	Ⅱ区出土
16	石器	すり石	5.2	3.7	2.2	全体にすり面	49.07	Ⅰ区出土
17	石器	剥片	2.4	1.3	1	同群割れによる剥離か? 黒曜石	2.44	Ⅱ区出土

第28表 H21号住居址遺物観察表(2)

H22号住居址



第45図 H22号住居址実測図

遺構はW-お-10グリッドに位置し、H3・4に切られ、南壁の一部を攪乱に破壊されている。主軸はN37°Wである。

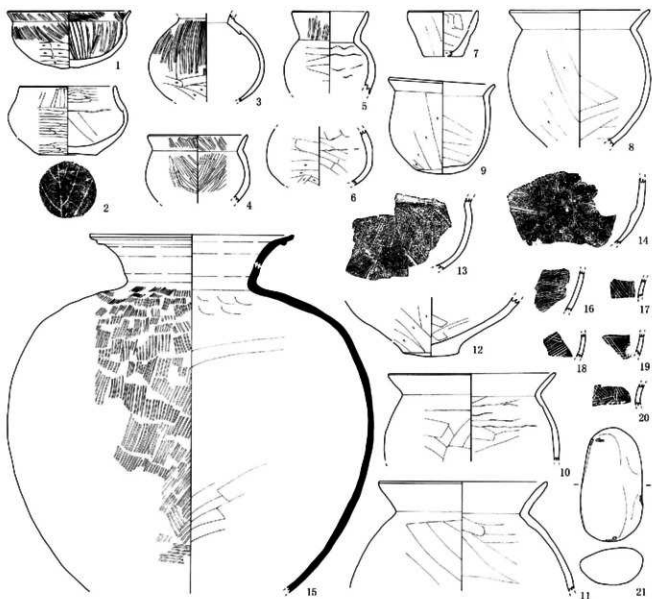
平面形態は残存状況から兩丸の方形と考えられ、規模は5.6m、東西5.4m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。

覆土はすり鉢状の2層でカマド付近は壁方向から流れ込んだ状況が認められ、自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は南東部の一部分を除き土間状に硬質である。南東コーナー付近以外に幅15cm、深さ10cm内外の壁溝が存在する。ピットは床面上から6個確認できた。主柱穴はP1～P4である。南壁の東寄りには方形の土坑が2基切り合う状態で存在した。カマドは西壁の南寄りに構築されていた。カマドの位置としては類例の少ない位置である。南袖と火床が確認できた。火床の位置から住居内に燃焼部が設置される形状である。南袖は粘土で構築され、内壁部に石材が埋め込まれている。火床は円形の焼土の堆積が認められ、上部にカマド材と考えられる石が散在していた。掘方は中央部が浅く、周辺部がやや深く掘り込まれた状況である。

遺物は土師器の坏・甕・壺・高坏、須恵器の甕、敵石及び混入と思われる弥生土器片が出土した。坏は丸底の底部から丸みを持って立ち上がり、口縁端部で僅かに外反する形態と体部途中から内傾し口縁に至る形態が存在する。壺は小型丸底甕である。甕は口縁くの字状の小型・中型品が存在する。高坏は破片である。須恵器甕の器厚は薄く内面当て具痕、外面叩き痕が認められる。

時期は口縁端部が僅かに外反する土師器坏及び小型丸底甕の存在から5世紀中葉としたい。

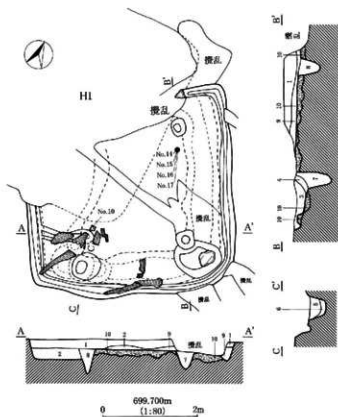


第46図 H122号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	[13]	丸底	6	外面口縁・体部ミガキ・底部ヘラケズリ 内面中央から放射状のミガキ	40	外面5YR6/6褐色 口縁変異 Ⅰ区出土
2	土師器	坏	[10.2]	5.8	7.3	外面口辺一部斜毛目・ヘラナデ・ミガキ 内面口辺ミガキ 内面ヘラナデ 底部本巻	口縁から底部部内	外面7.5YR7/3にぶい褐色 変異変異 Ⅳ区出土
3	土師器	壺	—	—	(9.3)	外面胴上部ミガキ・下部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面2.5YR5/6赤褐色 口縁変異 Ⅰ・Ⅱ区出土
4	土師器	壺	[10.4]	—	(7.2)	内外面ミガキ	口縁から胴部破片	口縁変異 Ⅰ区出土
5	土師器	壺	[8.2]	—	(8.7)	外面・内面口辺ナデ・ミガキ 内面輪横・ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR6/6褐色 口縁変異 Ⅰ・Ⅳ区出土
6	土師器	壺	—	—	(5.8)	外面上部ナデ・下部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部破片	外面5YR5/4Cにぶい赤褐色 口縁変異 Ⅰ区出土
7	土師器	手型土器	[7.6]	[4]	4.8	内外面ヘラナデ	口縁から底部部内	外面7.5Y5/5C変異褐色 口縁変異 Ⅳ区出土
8	土師器	小型壺	[14.8]	—	(14.4)	口縁横ナデ 外面ヘラナデ・一部斜毛目ナデ 内面ヘラナデ	口縁から底部部内	外面5YR5/3Cにぶい赤褐色 口縁変異 Ⅱ区出土
9	土師器	小型壺	11.3	5.4	10.2	口縁横ナデ 外面・底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	80	外面2.5YR6/6褐色 口縁変異 Ⅰ・Ⅳ区出土
10	土師器	壺	[17.6]	—	(9.2)	口縁横ナデ 内外面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面5YR6/4Cにぶい赤褐色 口縁変異 Ⅰ・Ⅳ区出土
11	土師器	壺	[17.8]	—	(11.7)	口縁横ナデ 内外面ヘラナデ	口縁から胴部破片	外面2.5YR6/6褐色 口縁変異 Ⅰ・Ⅳ区出土
12	土師器	壺	—	5.8	(6.3)	外面・底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底部から胴部破片	外面5YR5/6褐色 一部口縁変異 Ⅰ・Ⅳ区・Ⅶ・Ⅷ区出土
13	土師器	壺	—	—	—	外面斜毛目 内面ナデ	胴部破片	外面10Y R 4/2C黄褐色 断面変異 Ⅰ・Ⅳ区出土
14	土師器	壺	—	—	—	外面斜毛目・ナデ 内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR6/4Cにぶい褐色 断面変異 Ⅰ区出土
15	須恵器	壺	[21.6]	—	(38)	口縁横ナデ 外面平行印キ 内面当具キ・ナデ	口縁から胴部破片	外面10YR1/1黄灰色 口縁変異 Ⅰ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅷ区出土
16	弥生土器	壺	—	—	—	外面縦線波状文 内面ナデ 乱入遺物	胴部破片	断面変異 Ⅰ・Ⅳ区出土
17	弥生土器	壺	—	—	—	外面縦線文 内面ナデ 乱入遺物	胴部破片	外面7.5YR7/4Cにぶい褐色 断面変異 Ⅳ区出土
18	弥生土器	壺	—	—	—	外面縦線文 内面ナデ 乱入遺物	胴部破片	外面7.5YR7/4Cにぶい褐色 断面変異 Ⅳ区出土
19	弥生土器	壺	—	—	—	外面縦線文 内面ナデ 乱入遺物	胴部破片	外面7.5YR7/6褐色 断面変異 Ⅳ区出土
20	弥生土器	壺	—	—	—	外面縦線文 内面ナデ 乱入遺物	胴部破片	外面7.5YR7/6褐色 断面変異 Ⅳ区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
21	石器	敲石	12.1	6.7	4.1	先端・側面に磨打痕	487.15	Ⅰ区出土

第29表 H22号住居址遺物観察表

H23号住居址



第47図 H23号住居址実測図

- 1 黒褐色土層 (10YR23) 0-A・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (7.5YR33) 焼土・灰・炭化物多く含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR33) 焼土・炭化物・軽石・0-A含む。
- 4 黒褐色土層 (7.5YR32) 焼土・炭化物・軽石・0-A含む。
- 5 黒褐色土層 (7.5YR22) 炭化物や多く、焼土・軽石含む。
- 6 稀暗赤褐色土層 (5YR23) 炭化物・焼土多く、軽石含む。
- 7 暗褐色土層 (10YR33) 0-A・軽石・炭化物含む。しまりなし。
- 8 暗褐色土層 (10YR34) 0-A・軽石・炭化物含む。しまりなし。
- 9 暗褐色土層 (7.5YR33) 炭化物多く、焼土・粘土含む。
- 10 暗褐色土層 (7.5YR34) 0-A・7・0?・軽石含む。上面やや硬質。

遺構はW-え-7グリッドに位置し、H1に切れ、部分的に掘削に破壊されている。主軸はN27° Wである。

平面形態は残存状況から方形と考えられ、規模は南北4.2m、東西4.2m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。

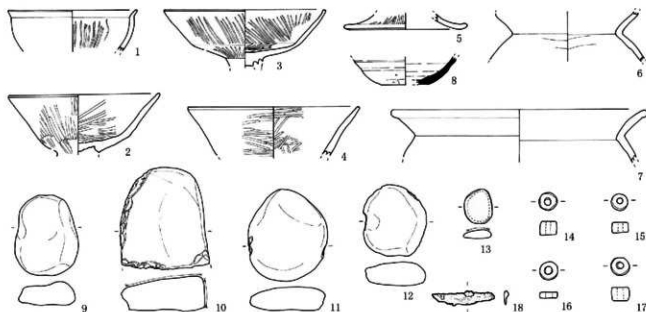
覆土は上層に黒褐色土、下層に暗褐色土の2層である。

構造の特徴として、床面は周辺部が一部低く軟弱な部分も認められるが、全体的には土間状の硬質面が存在する。壁際には幅15cm、深さ10cm内外の溝が巡り西壁には主柱穴に向かって間仕切り状の溝が延びる。主柱穴は3個確認でき、南壁の角に土坑が存在する。カマドは確認でき

なかった。H1に破壊された可能性が考えられる。掘方は中央部は浅く周辺部を若干深く掘り下げた状態であった。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・壺、須恵器の坏、編物石・砥石・すり石・白玉、鉄製品が出土した。土師器坏は口縁端部が僅かに外反する。高坏は坏部底部と体部の境に明瞭な稜を持ち、体部はやや開きながら直線的に口縁部に至る。壺は口縁部の破片である。須恵器坏は底部から体部の破片が1片認められた。

時期は口縁端部が僅かに外反する坏及び高坏の坏部形状から古墳時代中期終わり、5世紀後半としたい。



第48図 H23号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	高さca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	[13.6]	—	(4.2)	口縁横ナデ 外面ナデ 内面ミガキ	口縁から体部破片	外面2.5YR5/8明赤褐色 口縁尖頭 Ⅱ区・輸出出土
2	土師器	高坏	15.8	—	(6.3)	内外面ミガキ	坏部80	外面2.5YR5/6明赤褐色 完全焼附 Ⅰ・Ⅱ区出土
3	土師器	高坏	[17.1]	—	(6.1)	内外面ミガキ	坏部30	外面2.5YR4/6赤褐色 一部口縁尖頭 Ⅰ区出土
4	土師器	甕	[18.2]	—	(5.2)	内外面ミガキ	口縁破片	口縁尖頭 Ⅱ区出土
5	土師器	高坏	—	[13]	(1.6)	外面ミガキ 内面ナデ	脚部破片	外面2.5YR4/6赤褐色 口縁尖頭 Ⅰ・Ⅱ区出土
6	土師器	甕	—	—	(5.1)	口辺横ナデ 内外面ヘラナデ	口辺から胴部破片	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色 口縁尖頭 Ⅱ区出土
7	土師器	甕	[27]	—	(5.6)	口縁横ナデ	口辺から胴部破片	外面2.5YR7/6褐色 口縁尖頭 Ⅱ区出土
8	須恵器	坏	—	[5]	(2.7)	内外面口クロナデ 外面ヘラケズリ	底部から体部破片	外面N5/0灰白色 口縁尖頭 Ⅱ区・輸出出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
9	石器	編物・すり石	8.5	6.8	2.6	全体に表面粗らか 表面に凹あり	199.8	Ⅱ区出土
10	石器	砥石	10.9	9.4	3.8	縦面2	531.02	知遺物
11	石器	すり・砥石	9.8	8.5	2.7	全体に粗らか 縦面に磨打痕	268.06	Ⅱ区出土
12	石器	すり・砥石	7.5	6.8	2.8	全体に粗らか 縦面に磨打痕	185.63	Ⅱ区出土
13	石器	すり石	3.7	3	0.9	表面すり痕	12.55	Ⅰ区出土
14	石製品	白玉	0.45	—	0.4	孔径0.15	0.15	知遺物
15	石製品	白玉	0.4	—	0.3	孔径0.15	0.09	知遺物
16	石製品	白玉	0.45	—	0.2	孔径0.2	0.08	知遺物
17	石製品	白玉	0.5	—	0.35	孔径0.2	0.15	知遺物
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
18	鉄製品	刀子	6.57	1.5	0.47	縁付着	4.45	Ⅰ区出土

第30表 H23号住居址遺物観察表

H24号住居址

遺構はA-F-お-2グリッドに位置し、北側及び中央付近を大きく攪乱に破壊されている。主軸はN3°Wである。

平面形態は残存状況からやや隅の丸い方形又は長方形と考えられる。

規模は東西3.6m、南北は調査規模の最大で3.8m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。

覆土はほぼ水平に堆積した2層で、カマド周辺は壁方向から流れ込んだ状況が認められた。自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、残存した床面はやや凹凸感が認められるが、やや硬質な面が存在した。壁溝は西壁にのみ存在した。カマドは東壁に構築されていた。多くは破壊され、燃焼部から壁外への立ち上がりと円形に焼土が堆積した火床のみ確認できた。掘方は全体的に10cm内外の深さで暗褐色土が埋め込まれやや硬質である。

遺物は土師器の坏・碗・甕、須恵器の坏・甕、すり石・編物石が出土した。土師器坏は内面黒色処理が主体であり、碗は高台が低い。甕はやや厚手のロクロ甕と薄手の武蔵甕が存在する。須恵器坏は

小破片で出土数は少ない。灰釉陶器は皿または碗の破片である。

時期は、ロクロ甕と武蔵甕の存在、土師器碗の高台が認められることから9世紀後半としたい。



第49図 H24号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	碗	[14.6]	6.8	4.7	外面ロクロナデ 中央から放射状線文・内面黒色処理 底部回転糸切り後高台貼り付け・ナデ	30	外面10YR6/6黄褐色地 一部回転糸織 Ⅳ区出土
2	土師器	坏	[13.6]	4.8	4.2	外面ロクロナデ 内面黒色処理 底部回転糸切り	30	外面10YR6/6黄褐色地 一部回転糸織 Ⅰ・Ⅳ区出土
3	土師器	碗	—	(5.5)	(0.8)	底部回転糸切り 内面2本単位放射状線文・黒色処理 外面黒色処理	底部破片	外面2.5YR6/6黄褐色地 一部回転糸織 Ⅰ区出土
4	土師器	碗	—	7.8	(1.6)	底部回転糸切り後高台貼り付け 内面ミガキ	高台から底部破片	外面5YR6/6褐色 回転糸織 Ⅳ区出土
5	土師器	ロクロ甕	[16.3]	—	(8.3)	内外面ロクロナデ 外面胴下部ヘラケズリ	口縁から底部破片	外面7.5YR7/7赤い黄褐色 回転糸織 Ⅳ区出土

第31表 H24号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
6	須恵器	坏	[14.2]	[7.2]	3.5	内外両口クロナジ 底部回転糸切り	口縁から底部破片	外面2.5Y7/2灰黄色地 口縁光澤 Ⅰ・Ⅳ区出土
7	須恵器	甕	—	—	—	底部ヘラケズリ	底部破片	外面5Y7/1灰白色 粘土質 Ⅳ区出土
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
8	石器	すり石	9	8.7	3.8	正・裏面にすり痕	388.82	Ⅱ区出土
9	石器	すり石	3.2	2.5	1.5	正・裏面にすり痕	15.44	Ⅳ区出土
10	石器	磨物石	8.4	3.5	1.9	表面に1方溝あり	75.33	Ⅲ区東方出土

第32表 H24号住居址遺物観察表(2)

H25号住居址

遺構は調査区東のAA-き-8グリッドに位置し、一部攪乱に破壊される。主軸はN10°Eである。平面形態は東西に長い隅丸の長方形である。

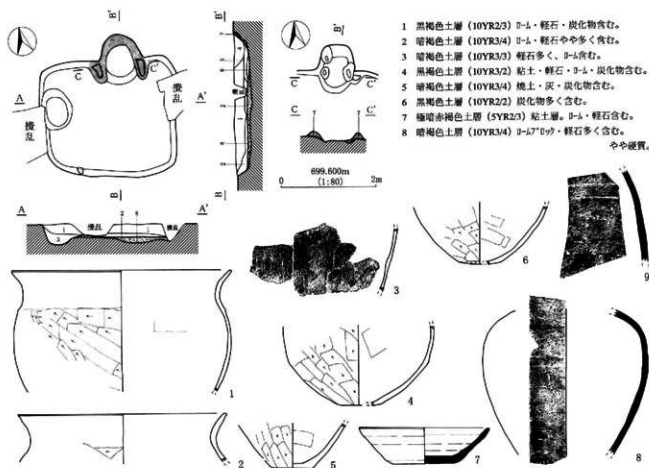
規模は南北2.2m、東西2.6m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。

覆土は上下2層で下層は壁際から堆積した状況が認められる事から自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は中央からカマドに向かって緩やかに傾斜する他は平坦で、土間状の硬質面を持つ。ピット、壁溝は確認できなかった。西壁の中央付近に接して長径88cm、深さ20cmを測る土坑が存在した。カマドは北壁の東寄りに構築されている。燃焼部の半分が北壁外に張りだす形状である。大半が破壊されている。袖の一部及び燃焼部の窪みと検出面への立ち上がりが確認できた。掘方は5~10cmの厚みで硬質化した暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・壺が出土した。土師器甕は口縁口の字状の武蔵甕である。須恵器坏は回転糸切り後無調整で形状が判別できる1個体、壺は胴部の破片が出土した。

時期は、土師器武蔵甕の形状及び底部回転糸切り後無調整の須恵器坏から9世紀前半としたい。

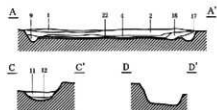
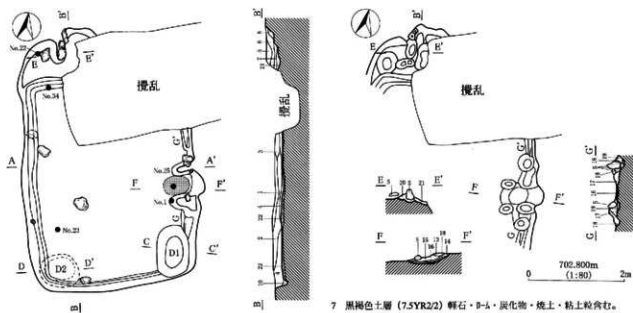


第50図 H25号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	[23.1]	—	(12.8)	口縁横ナデ・ヤヤコの字状波線装 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁から胴縁破片	外面5YR5/6赤褐色 内面赤褐色 Ⅱ区出土
2	土師器	甕	[22]	—	(5.2)	口縁横ナデ・ヤヤコの字状波線装 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁破片	外面7.5YR5/4に近い褐色 胴縁装束 カマド出土
3	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ 内面輪線装・ヘラナデ	胴縁破片	外面2.5YR5/3に近い赤褐色 断面実面 カマド出土
4	土師器	甕	—	[4.6]	(8.4)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	表面から胴縁破片	外面7.5YR4/4褐色 胴縁装束 Ⅱ区・カマド出土
5	土師器	甕	—	[4.2]	(4.8)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	底部から胴縁破片	外面7.5YR4/4褐色 断面実面 カマド出土
6	土師器	甕	—	[4.2]	(6)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部ヘラケズリ	底部から胴縁破片	外面10YR5/8明褐色 断面実面 カマド出土
7	須恵器	坏	13.9	6.3	3.9	内外面ロクロナデ 底部波線装束切り	80	外面7.5Y5/2灰ナリ・緑色 完全実面 カマド出土
8	須恵器	壺	—	—	(15.4)	内外面ロクロナデ・ヘラナデ 外面一部自然軸付着 9と同一個体の可能性あり	胴部破片	外面7.5Y4/2灰ナリ・緑色 断面実面 カマド出土
9	須恵器	壺	—	—	—	内外面ロクロナデ・ヘラナデ 外面一部自然軸付着 8と同一個体の可能性あり	胴部破片	外面2.5Y4/2明灰黄色 断面実面 Ⅱ区・カマド出土

第33表 H25号住居址遺物観察表

H26号住居址



- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) 0-4・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/3) 0-4・軽石・炭化物含む。
- 3 褐色土層 (10YR4/6) 0-4主体。軽石多く含む。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/4) 0-4・軽石・炭化物含む。
- 5 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 軽石・0-4・炭化物・焼土・粘土粒含む。
- 6 暗褐色土層 (7.5YR3/3) 軽石・0-4・炭化物・焼土・粘土粒含む。

- 7 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 軽石・0-4・炭化物・焼土・粘土粒含む。
- 8 褐色土層 (10YR4/4) 0-4多く。軽石・炭化物含む。
- 9 褐色土層 (7.5YR4/4) 0-4・赤色0-4・炭化物・軽石含む。しまりなし。
- 10 褐色土層 (7.5YR4/3) 0-4多く。軽石・炭化物含む。しまりなし。
- 11 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物多く。0-4・軽石含む。
- 12 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 灰層。
- 13 明赤褐色土層 (5YR5/6) 0-4層。
- 14 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土・炭化物・0-4・軽石含む。
- 15 黒褐色土層 (10YR2/2) 焼土・粘土粒・炭化物含む。
- 16 近い赤褐色土層 (2.5YR5/4) 焼土層。
- 17 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 炭化物・焼土含む。
- 18 褐色土層 (7.5YR4/3) 炭化物・焼土含む。
- 19 褐色土層 (7.5YR4/4) 0-4主体。炭化物含む。
- 20 近い暗褐色土層 (10YR4/3) 0-4主体。粘土粒含む。しまりあり。
- 21 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土・炭化物含む。
- 22 近い褐色土層 (7.5YR5/4) 0-4多く含む。やが硬質。

第51図 H26号住居址実測図

遺構は調査区北東のAR-ラー7グリッドに位置し、北壁付近を大きく攪乱に破壊されている。主軸はN15°Wである。

平面形態は残存状況から南北に長い長方形と考えられる。

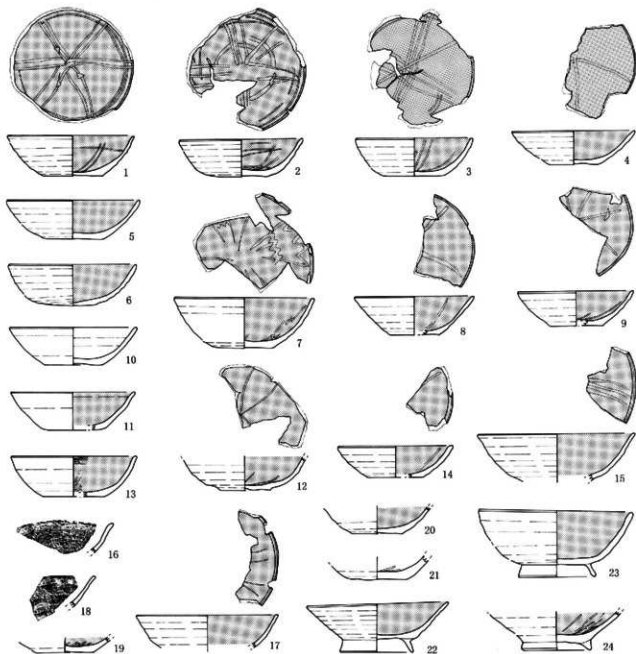
規模は東西3.4m、南北5.1m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。

覆土は壁際からの流れ込みによる堆積状況であることから自然堆積と考えられる。

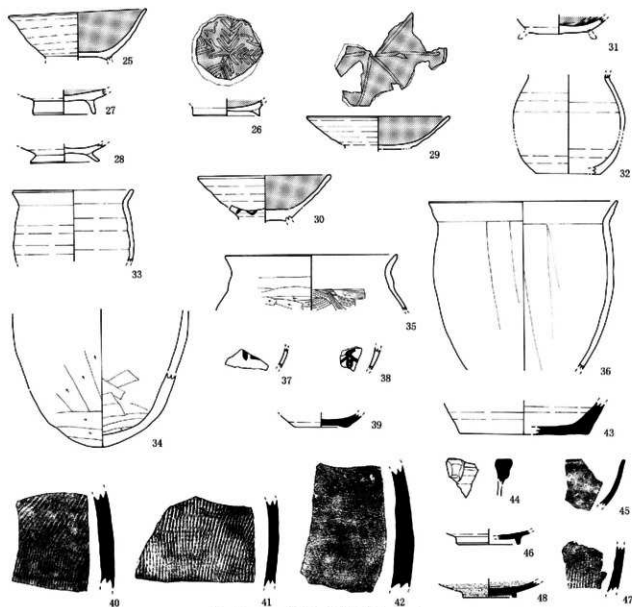
構造の特徴として、床面は硬質面を持つ。壁際には幅15cm、深さ10cm内外の溝が巡る。ピットは確認できなかった。床面上では南東隅に長径110cm、深さ20cmの貯蔵穴と考えられる土坑が存在した。カマドは東壁と北壁西側の2カ所に存在する。壁溝が北壁カマド手前で周り、北カマド付近は南側の床面より若干高いことから、別の住居が存在していた可能性が考えられる。

遺物は土師器の坏・碗・甕・皿、須恵器の坏・甕、灰軸陶器、緑釉陶器が出土した。土師器坏は回転系切りされた底部から開き気味に素直に口縁に至る。黒色処理と未処理が存在し、出土量は黒色処理が上回る。甕は小型のロクロ甕と口縁コの字状の武蔵甕が存在する。灰軸陶器は碗・皿の破損品で高台は内側がやや湾曲する三日月状である。緑釉陶器は高台の内側と底部以外は釉薬が施されている。須恵器甕は大型の破片と思われ、表面に平行引き及び叩き後にナデ消しを行った痕跡を有する破片が存在する。

時期は口縁コの字状の武蔵甕及びロクロ甕の存在、灰軸陶器の高台が三日月状であることから9世紀後半としたい。



第52図 H26号住居址遺物実測図(1)



第53図 H26号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	[13.3]	6	4.3	外周口クロナデ 内面中央から放射状に2本単位短文・口辺部2本の短文・黒色処理 底部同転糸切り	90	外周5YR6/6褐色 一部同転支脚 無遺存
2	土師器	杯	[13]	5.8	4	外周口クロナデ 底面周辺部へツナデ 内面放射状に1・3本単位短文・黒色処理 底部同転糸切り	70	外周5YR6/4Cに少量褐色 一部同転支脚 1区出土
3	土師器	杯	[12.4]	6.2	4.1	外周口クロナデ 底面周辺部へツナデ 内面放射状に1・3本単位短文・黒色処理 底部同転糸切り	70	外周5YR6/6褐色色 一部同転支脚 カマド出土
4	土師器	杯	[13]	[5]	3.6	外周口クロナデ 内面中央から放射状に1本単位短文・黒色処理 底部同転糸切り	口縁から底面破片	同転支脚 IV区出土
5	土師器	杯	[14]	6.1	4.1	外周口クロナデ 内面黒色処理 底部同転糸切り	50	外周5YR6/6褐色 一部同転支脚 Ⅲ・IV区出土
6	土師器	杯	[13.4]	5	4.4	外周口クロナデ 内面ミガキ・中央摩耗・黒色処理 底部同転糸切り	50	外周5YR6/6褐色 一部同転支脚 1区出土
7	土師器	杯	[14.8]	6.2	5.4	外周口クロナデ 内面中央から放射状に花びら状短文・黒色処理 底部同転糸切り	30	外周5YR6/6褐色 一部同転支脚 IV区出土
8	土師器	杯	[12.8]	[5.2]	4.1	外周口クロナデ・ナデ 内面中央から放射状に1本単位の短文・黒色処理 底部同転糸切り	口縁から底面破片	外周5YR7/6褐色 一部同転支脚 Ⅲ・IV区出土
9	土師器	杯	[12.2]	[5.6]	3.7	外周口クロナデ 内面中央から放射状に1本単位の短文・黒色処理 底部同転糸切り	口縁から底面破片	同転支脚 北方マド-D7出土
10	土師器	杯	[13.2]	[6]	4	内外周口クロナデ 底面同転糸切り	口縁から底面破片	同転支脚 Ⅲ区出土
11	土師器	杯	[13]	[6]	4	外周口クロナデ 内面黒色処理 底部同転糸切り	口縁から底面破片	外周5YR6/6褐色 一部同転支脚 IV区・東1丁出土
12	土師器	杯	-	[5.4]	[5.5]	外周口クロナデ 内面中央から放射状に口本単位の短文・黒色処理 底部同転糸切り	片断から底面破片	外周5YR6/6褐色 一部同転支脚 Ⅲ・IV区出土
13	土師器	杯	[12.6]	[6.4]	4.3	外周口クロナデ 内面黒色処理 底部同転糸切り	口縁から底面破片	同転支脚 IV区出土
14	土師器	杯	[12.2]	[5.8]	3.3	外周口クロナデ 内面黒色処理 底部同転糸切り	口縁から底面破片	同転支脚 Ⅲ区出土 同転支脚 Ⅲ区出土
15	土師器	杯	[16.5]	-	[5]	外周口クロナデ 内面ミガキ・黒色処理	口縁から片断破片	外周5YR5/4Cに近い赤褐色 同転支脚 Ⅲ・Ⅳ区出土

第34表 H26号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考
16	土師器	坏	-	-	-	外面口コナナゲ 内面黒色処理?	口縁破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 東方マド出土
17	土師器	坏	[16]	(3.5)		外面口コナナゲ 内面黒色処理	口縁破片	外面5YR6/4にぶい褐色 断面灰黒 西区出土
18	土師器	坏	-	-	-	外面口コナナゲ 内面黒色処理?	口縁破片	外面5Y7/6明褐色 断面灰黒 北方マド出土
19	土師器	坏	-	6	(1.3)	内面放射状ミガキ、黒色処理 底部回転糸切り	底部破片	外面5YR6/6褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
20	土師器	坏	-	5.4	(2.8)	外面口コナナゲ 内面ミガキ、黒色処理 底部回転糸切り	底縁100%の体部破片	外面5YR6/4にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
21	土師器	坏	-	6	(2.1)	内面放射状線文 底部回転糸切り	底縁100%の体部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
22	土師器	罎	15	7.8	5.4	外面口コナナゲ 内面中央から放射状ミガキ、黒色処理 底部回転糸切り豊島高台取り付け	100	外面5YR6/4にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
23	土師器	罎	[16.2]	8	7.3	外面口コナナゲ 内面黒色処理 やや斜縁、付着物 底部高台取り付け後ナゲ	80	外面5YR6/4にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
24	土師器	罎	-	7	(3.9)	外面口コナナゲ 内面黒色処理 底縁回転糸切り高台取り付け	高台100%の体部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 北方マド出土
25	土師器	罎	14.9	-	(5.5)	外面口コナナゲ 内面黒色処理 底縁高台欠損	90	外面10YR5/4にぶい黄褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
26	土師器	罎	-	7.4	(1.7)	内面暗文、淡い黒色処理 底縁回転糸切り高台取り付け	底部100	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
27	土師器	罎	-	[6.6]	(2.1)	外面口コナナゲ 内面黒色処理 底部回転糸切り後やや足高の高台取り付け	高台から体部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
28	土師器	罎	-	[7.2]	(1.8)	内面ミガキ 底部回転糸切り豊島高台取り付け	高台から体部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
29	土師器	皿	[15.7]	-	(3.6)	外面口コナナゲ、やや褐色 内面中央から放射状線文、黒色処理 断面灰黒高台取り付け	口縁から体部破片	外面5YR3/1暗褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
30	土師器	罎	[14.4]	-	(5)	外面口コナナゲ 黒色 内面黒色処理 底縁回転糸切り・高台欠損	口縁から体部破片	外面5YR4/3褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
31	土師器	罎	-	-	(1.7)	内面ミガキ 底部回転糸切り 高台欠損	底部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
32	土師器	小型壺	-	[6.8]	(10.8)	外面横ナゲ、やや斜縁 内面ナゲ 底部回転糸切り	底部から胴部破片	外面5YR5/3にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
33	土師器	小型壺	[1.3]	-	(7.8)	内外面口コナナゲ	口縁から胴部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
34	土師器	甕	-	やや丸底	(14.8)	外面ヘラケズリ 内面ヘナゲ	底部から胴部破片	外面5YR5/4にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
35	土師器	甕	[18.8]	-	[6]	口縁横ナゲ、コの字状武線文 外面ヘラケズリ 内面横七口ナゲ	口縁から胴部破片	外面5YR5/6明褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
36	土師器	甕	[20.4]	-	(18.5)	口縁横ナゲ 内外面ヘラケズリ	口縁から胴部破片	外面5YR5/4にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
37	土師器	坏	-	-	-	内面黒色処理 表面黒色あり	体部破片	外面5YR6/7褐色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
38	土師器	坏	-	-	-	内面黒色処理 表面黒色あり	体部破片	外面5YR6/4にぶい褐色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
39	須恵器	坏	-	5.6	(1.2)	内外面口コナナゲ 底部回転糸切り	口縁から体部破片	外面N4/0灰色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
40	須恵器	甕	-	-	-	外面平行印キ 内面ナゲ	胴部破片	外面N4/0灰色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
41	須恵器	甕	-	-	-	外面平行印キ 内面ナゲ	胴部破片	外面N4/0灰色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
42	須恵器	甕	-	-	-	外面斜り平行印キ 内面ナゲ	胴部破片	外面5Y4/2灰オリーブ色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
43	須恵器	甕	-	[14.2]	(3.3)	内外面ナゲ	底部から胴部破片	外面N3/0暗灰色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
44	須恵器	甕	-	-	-	内外面口コナナゲ 外面耳・縁帯取り付け	肩部貼付	外面5Y2/2灰白色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
45	灰輪陶器	甕	-	-	-	内外面口コナナゲ、灰輪胎輪	口縁から体部破片	外面5YR6/2灰白色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
46	灰輪陶器	甕or碗	-	[6.4]	(1.5)	高台取り付け 表面灰輪胎輪	高台から体部破片	外面5YR6/2灰白色 断面灰黒 豊島出土 完全実態 豊島出土
47	須恵器	甕	-	-	-	外面平行印キ・自然付着物 内面斜縁	胴部破片	外面5Y6/2灰オリーブ色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り
48	緑釉陶器	甕or碗	-	12	(1.6)	内外面緑釉胎輪 高台取り付け 高台重ね痕	底縁100%の体部破片	外面7.5Y4/3緑オリーブ色 断面灰黒 豊島出土 一部回転糸切り

第35表 H26号住居址遺物観察表(2)

H27号住居址

遺構はAG-1-7グリッドに位置する。主軸はN39°Wである。

平面形態はやや隅の丸い方形である。

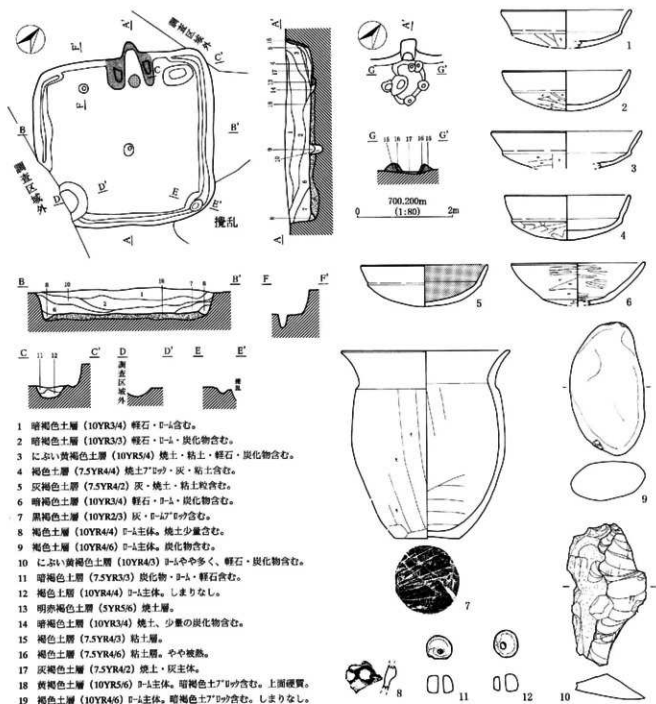
規模は南北3.3m、東西3.6m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。

覆土は周囲からの流れ込みを示す堆積状況であることから自然堆積と考えられる。

構造の特徴として、床面は平坦で周辺の一部を除き土間状の硬質面を持つ。壁際には幅20cm内外、深さ10~15cmの壁溝が存在する。ピットは3個確認できたが主柱穴といった状態ではなかった。土坑はカマドの東脇と南西コーナーに存在し、深さは25cmを測る。カマドは北壁の中央からやや東に位置し、燃焼部が住居内に収まる形態である。大半は破壊されているが、粘土で構築された袖と円形に焼土が堆積した火床が確認できた。燃焼部からは、70°とつきい傾斜で北壁外25cmに至る。掘方は全体的に12cm内外の厚みで黄褐色土が埋め込まれ、上面は硬質である。

遺物は土師器の坏・甕、敲石・剥片、土玉、混入と考えられる縄文土器片が出土した。土師器坏は口縁下部の体部途中に明瞭な稜・段を有し、開き気味に口縁に至る形態が主体である。甕は中型で胴部と口縁部の境に明瞭な稜を有し、外反気味に立ち上がる。

時期は、土師器坏の形状から6世紀中葉から7世紀初頭としたい。



第54図 H27号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考	
1	土師器	杯	(13.7)	丸底	4.3	口辺横ナジ 底平手持ちヘラケズリ	内面ナジ、やや摩耗	50	外面5YR7/4にぶい褐色 同系黄褐色 Ⅳ区、Ⅳ区出土
2	土師器	杯	(13.6)	丸底	4.3	口辺横ナジ 底平手持ちヘラケズリ	内面横ナジ、ミガキ	35	外面7.5YR4/3黄褐色 同系黄褐色 Ⅳ区、カマド出土
3	土師器	杯	(15.8)	丸底	(3.9)	口辺横ナジ 底平手持ちヘラケズリ	内面横ナジ、ミガキ	口縁から底面破片	外面10YR4/2灰黄褐色 同系黄褐色 Ⅳ区出土
4	土師器	杯	13.3	丸底	4.7	口辺横ナジ 底平手持ちヘラケズリ	内面ナジ、やや摩耗	70	外面7.5YR6/4にぶい褐色 完全黄褐色 Ⅳ区、カマド出土
5	土師器	杯	(13.5)	丸底	4.6	口辺横ナジ 底平手持ちヘラケズリ	内面黒色粘厚	口縁から底面破片	外面5YR6/4にぶい褐色 同系黄褐色 Ⅳ区出土
6	土師器	杯	(14)	(7.2)	(4.4)	外面ヘラナジ 内面ミガキ、やや摩耗	底面ヘラケズリ	口縁から底面破片	外面7.5YR4/2灰黄褐色 同系黄褐色 Ⅳ区、カマド出土
7	土師器	甕	(17.8)	6.4	19.9	口縁横ナジ 外面ヘラケズリ	内面ヘラナジ 底面ヘラケズリ	口縁から底面破片	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色 一部同系黄褐色 Ⅳ区、カマド出土
8	陶文土器	深鉢	-	-	-	底面貼り付け痕推定	胴部破片		外面5YR6/3にぶい褐色 同系黄褐色 Ⅳ区出土

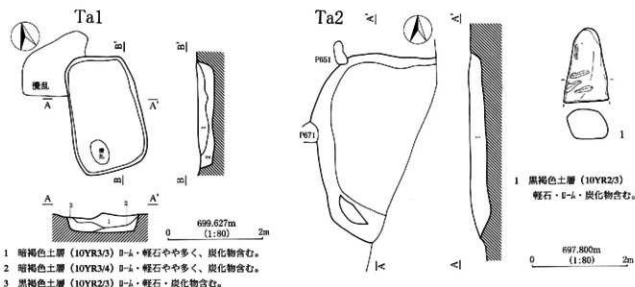
第36表 H27号住居址遺物観察表(1)

番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
9	石器	磨石	1.4	7.8	4.1	上下両面に磨行痕	511.38	1区出土
10	石器	剥片	3.8	2.1	0.7	裏面ソール面 自然面あり	4.05	第3区出土
11	土製品	土玉	0.6	0.67	0.49	孔径0.13	0.22	土ふるい時出土
12	土製品	土玉	0.7	0.66	0.45	孔径0.18	0.23	土ふるい時出土

第37表 H27号住居址遺物観察表(2)

第2節 竪穴状遺構

竪穴状遺構は竪穴建物・竪穴遺構とも呼ばれ、中世以降の遺跡から発見される代表的な遺構である。形態は方形、長方形が中心で規模は2m前後から10mを越える大型も確認されている。遺構の内部に柱穴を持ち建物と考えられるものや使途不明のものが存在する。本遺跡では、土坑と区別するため長辺が3mを越える遺構を竪穴状遺構とした。



第55図 Ta1・2・3号竪穴状遺構・Ta2号遺物実測図

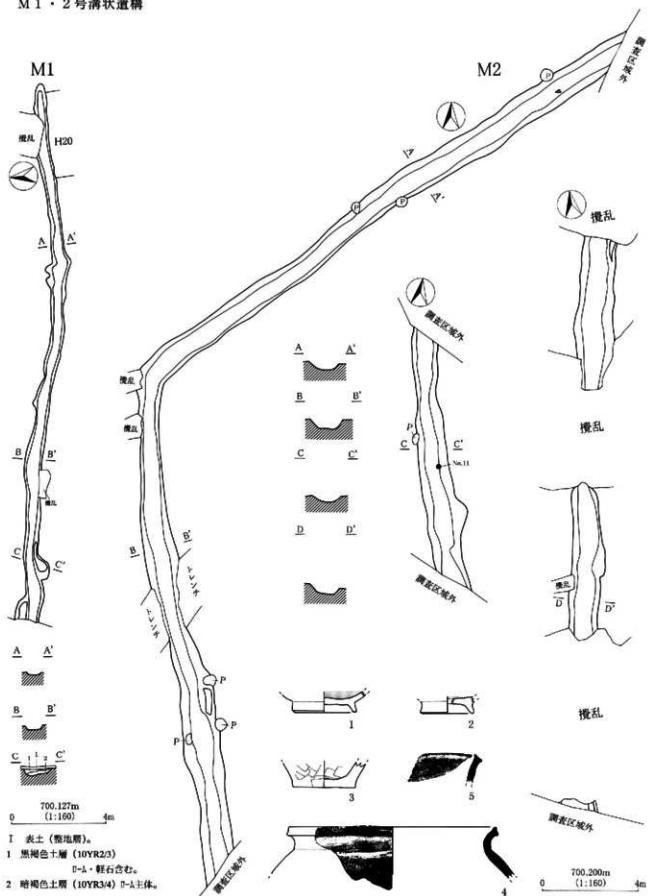
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
1	石器	砥石?	7.8	4.7	3.2	下部欠損 糸織?	128.51	

第38表 Ta2号竪穴状遺構遺物観察表

遺構名	形 態	南北(m)	東西(m)	深さ(m)	位置	備 考	遺構名	形 態	南北(m)	東西(m)	深さ(m)	位置	備 考
Ta1	隅丸長方形	2.8	1.5	0.32	W-カ-10	東西両上部縁部に一部埋積される	Ta2	隅丸方形?	3.9	(2.5)	0.3	Z-カ-10	砥石出土 東部縁部に埋積される
Ta3	隅丸長方形	1.6	(4)	0.25	AL-カ-9	北東一部埋積に破壊される							

第39表 竪穴状遺構観察表

第3節 溝状遺構
M1・2号溝状遺構

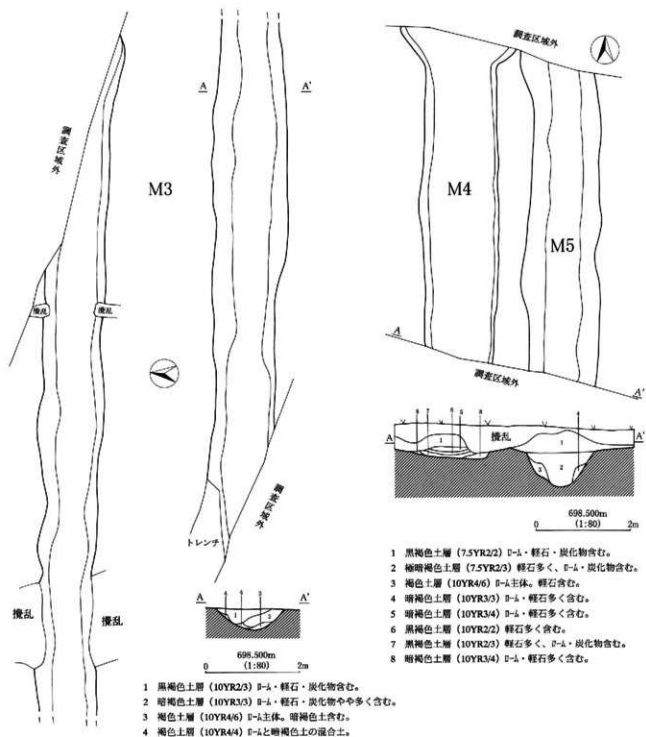


第56図 M1・2号溝状遺構・M2号遺物実測図

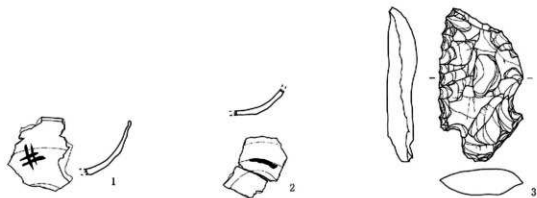


第57図 M2号溝状遺構遺物実測図

M3・4・5号溝状遺構

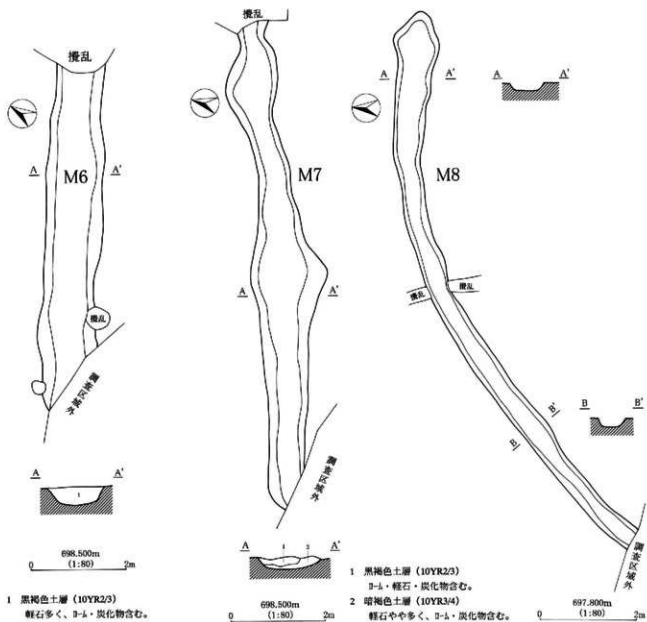


第58図 M3・4・5号溝状遺構実測図



第59图 M4号溝状遺構遺物実測図

M6・7・8号溝状遺構



第60图 M6・7・8号溝状遺構実測図

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	碗	-	6.8	(2.1)	内面黒色処理 底部回転糸切り後高台貼り付け	高台から底部	外面7.5YR6/6褐色 底部回転糸切り後高台貼り付け
2	土師器	碗	-	(5.5)	(1.6)	内面黒色処理 底部回転糸切り後高台貼り付け	高台から底部破片	外面7.5YR7/6褐色 底部回転糸切り後高台貼り付け
3	土師器	甕	-	(6.7)	(2.7)	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底部から胴部破片	外面7.5YR6/6褐色 口縁から胴部破片
4	須恵器	甕	[21.6]	-	(5.5)	口縁横ナデ 外面叩き版 内面ナデ	口縁から胴部破片	外面5YR8/4/1灰色 口縁支張
5	須恵器	甕	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁破片	外面10YR2/3黒褐色 外面支張
6	須恵器	甕	-	-	-	外面叩き版・自然輪付着・横型突帯・耳あり 内面ナデ	肩部破片	外面5YR2/1黒褐色 外面支張
7	須恵器	甕	-	-	-	外面叩き版 内面ナデ	胴部破片	外面5YR6/4/1黒褐色 外面支張
8	須恵器	甕	-	-	-	外面叩き版 内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR4/2黒褐色 外面支張
9	須恵器	甕	-	-	-	外面叩き・刷毛目状ナデ 内面同心円当て具痕	胴部破片	外面10Y7/1灰白色 外面支張
10	灰釉陶器	壺?	-	-	-	内外面口クロナデ 外面灰釉施装	胴部破片	外面5YR6/2灰オリープ色 外面支張
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
11	石器	鏃	1.7	1.3	0.25	チャート製	0.3	知遺物

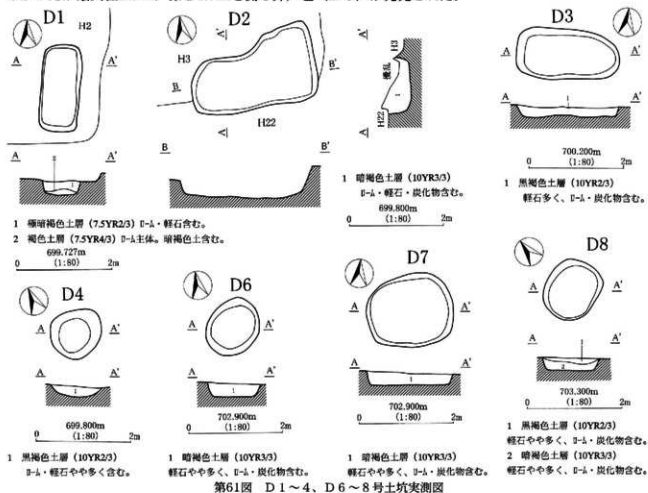
第40表 M2号溝状遺構遺物観察表

番号	器種	器形	口径ca	底径ca	器高ca	調整・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	杯	-	-	-	外面横ナデ 内面黒色処理 表面滑磨「丹」あり	口縁から底縁破片	外面5YR6/4にぶい褐色釉
2	土師器	杯	-	-	-	外面口クロナデ 内面黒色処理	体部から底縁破片	外面7.5YR7/6褐色
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考
3	石器	石匙	4.1	2.2	0.7	チャート製	6.22	

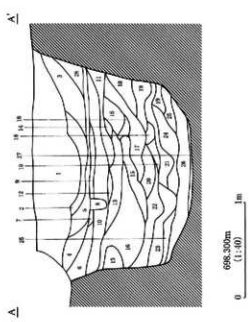
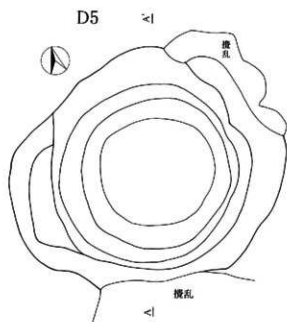
第41表 M4号溝状遺構遺物観察表

第4節 土坑・井戸

窪穴状遺構・ピットと区別するため、直径または長辺が50cm以上3mに満たない掘り込みを土坑として取り扱った。形態は円形・楕円形・隅丸の方形・長方形など様々である。また、湧水は認められなかったが最大径2m、深さ1.7mを測る井戸址(D5)が発見された。

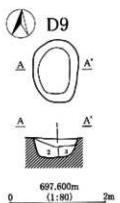


第61図 D1～4、D6～8号土坑実測図

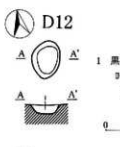


- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) 軽石・D-4・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) D-4・軽石・炭化物含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/4) D-4?D? 軽石や多く含む。
- 4 におい黄褐色土層 (10YR4/3) 軽石・D-4含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/3) 軽石・D-4・炭化物・砂含む。
- 6 褐色土層 (10YR4/6) D-4多量、軽石含む。
- 7 黒褐色土層 (10YR2/2) 軽石や多く、D-4含む。
- 8 黒褐色土層 (10YR2/3) D-4・軽石含む。
- 9 褐色土層 (10YR4/4) 砂層。
- 10 褐色土層 (10YR4/6) 暗褐色土と黄褐色土の混合土。
- 11 黄褐色土層 (10YR5/6) D-4主体、軽石・暗褐色土含む。
- 12 におい褐色土層 (7.5YR6/3) D-4層。
- 13 褐色土層 (10YR4/6) 暗褐色土と褐色土の混合土。軽石含む。
- 14 黄褐色土層 (10YR5/8) D-4主体、軽石・暗褐色土含む。

- 15 暗褐色土層 (7.5YR3/3) D-4・軽石含む。
- 16 黄褐色土層 (10YR5/8) D-4主体。
- 17 褐色土層 (10YR4/4) D-4多量、暗褐色土と褐色土の混合土。
- 18 明褐色土層 (7.5YR5/6) E-4層。
- 19 灰褐色土層 (5YR5/2) D-4含む。
- 20 におい赤褐色土層 (5YR4/4) D-4や多く、軽石含む。
- 21 極暗褐色土層 (7.5YR2/3) 黒褐色土とD-4の混合土。
- 22 におい黄褐色土層 (10YR5/4) D-4主体、軽石含む。
- 23 におい黄褐色土層 (10YR4/3) D-4と黒褐色土の混合土。D-4多く、軽石含む。
- 24 黄褐色土層 (10YR5/6) D-4主体、E-4含む。
- 25 褐色土層 (10YR4/6) D-4・白色D-4・暗褐色土含む。
- 26 黒褐色土層 (10YR2/3) 軽石・D-4・砂含む。
- 27 におい橙褐色土層 (7.5YR6/4) シルト層。
- 28 暗褐色土層 (10YR3/3) D-4や多く、軽石含む。

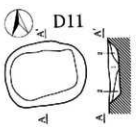


- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) D-4・軽石・D-4?D? (1cm大) 含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) D-4・E-4?D? (1~5cm大) 含む。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) D-4・軽石・E-4?D? (3~5cm大) 含む。

- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) D-4・軽石含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/3) D-4・軽石含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/3) D-4や多く、軽石含む。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) D-4・E-4?D? (1~2cm大)・軽石含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/4) D-4多く、D-4?D? (1~3cm大)・軽石含む。



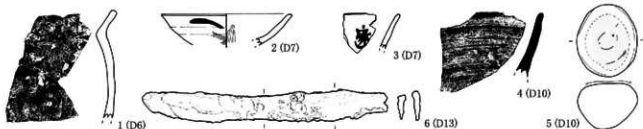
- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) E-4・軽石・D-4?D? (1~3cm大) や多く含む。

第62図 D5・9~13号土坑実測図

遺構名	形 態	南北 (cm)	東西 (cm)	深さ (cm)	位置	備 考
D1	楕円形	186	82	49	W-お8	H2に切られる
D2	不整形	170	271	53	W-お10	H3・H22を切る
D3	楕円形	110	194	27	N-い4	
D4	円形	101	109	22	V-<1	
D5	円形	248	296	170	AC-お6	基坪
D6	円形	113	116	32	AR-あ7	
D7	楕円形	159	185	30	AR-う5	

遺構名	形 態	南北 (cm)	東西 (cm)	深さ (cm)	位置	備 考
D8	円形	116	130	27	AQ-こ6	
D9	楕円形	134	94	38	AM-あ7	
D10	不整形	80	97	20	AL-こ6	
D11	楕円形	134	172	19	AL-け6	
D12	楕円形	78	60	19	AL-こ5	
D13	楕円形	151	85	42	AL-か4	小刀出土

第42表 土坑観察表



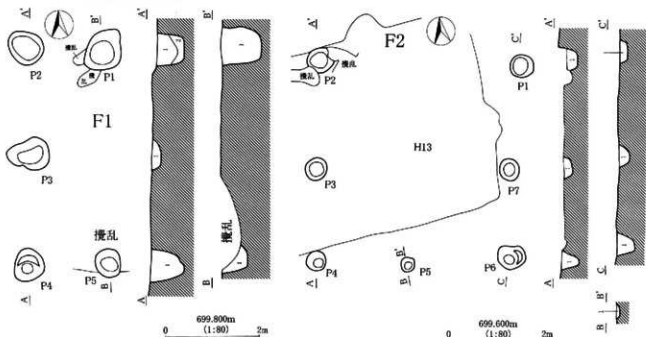
第63図 土坑遺物実測図

遺構	器 種	器 形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文 様	残存率・部位	備 考
1	土師器	口ク口裏	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁から胴部破片	5YR5/6明赤褐色 断面実測 D6出土
2	土師器	坏	[13.7]	-	-	内外面口クロナデ 表面深い線書	口縁から体部破片	5YR5/3にふい褐色 断面実測 D7出土
3	土師器	坏	-	-	-	内外面口クロナデ 表面線書「家」?あり	口縁破片	7.5YR7/3にふい褐色 断面実測 D7出土
4	須恵器	鉢	-	-	-	内外面口クロナデ 外面下部ヘラケズリ	口縁から体部破片	7.5YR6/1灰色 断面実測 D10出土
遺構	器 種	器 形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文 様	重量(g)	備 考
5	石器	すり石	7.6	6.4	4.8	すり面あり	315.16	D10出土
6	鉄製品	小刀	25.85	3.1	0.76	基部欠損	162.39	D13出土

第43表 土坑遺物観察表

第5節 掘立柱建物跡

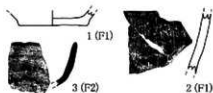
F1・2号掘立柱建物跡



- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) B-I・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/2) B-I・軽石・炭化物含む。

- 1 黒褐色土層 (10YR2/3) E-I・軽石・炭化物含む。

第64図 F1・2号掘立柱建物跡実測図



第65図 F1・2号掘立柱建物跡遺物実測図

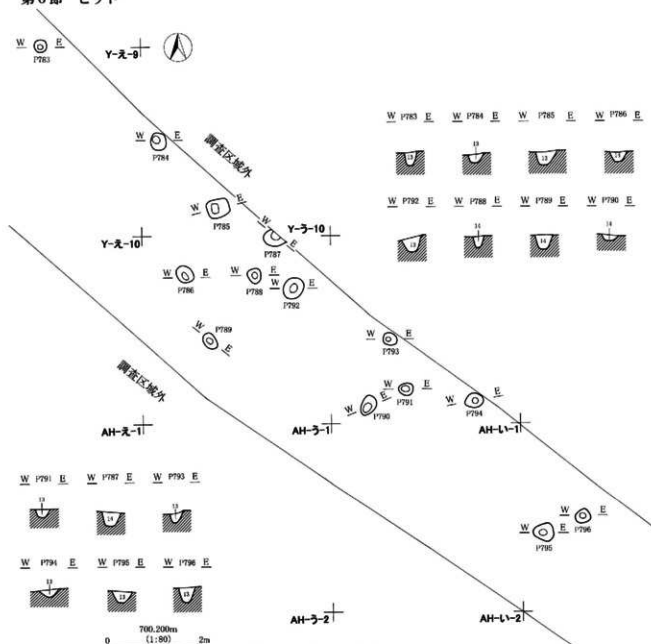
第44表 F1・2号掘立柱建物跡観察表

遺構名	ピット番号	形状	高さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	位置	備考
F1	P1	不整形	84	72	85	A-F-ホ-1	一部壊れに破壊される
	P2	円形	80	64	56	A-F-ホ-1	
	P3	不整形	92	72	20	A-F-ホ-2	
	P4	円形	72	84	68	A-F-ホ-2	
	P5	円形	60	52	52	A-F-ホ-2	
F2	P1	円形	50	48	16	W-イ-8	
	P2	円形?	60	52	40	W-ウ-8	H1.3を切る
	P3	円形	47	45	18	W-ウ-9	H1.3を切る
	P4	円形	44	42	36	W-ウ-9	
	P5	円形	28	32	8	W-ウ-9	
	P6	不整形	40	50	38	W-イ-9	
	P7	円形	46	44	23	W-イ-9	

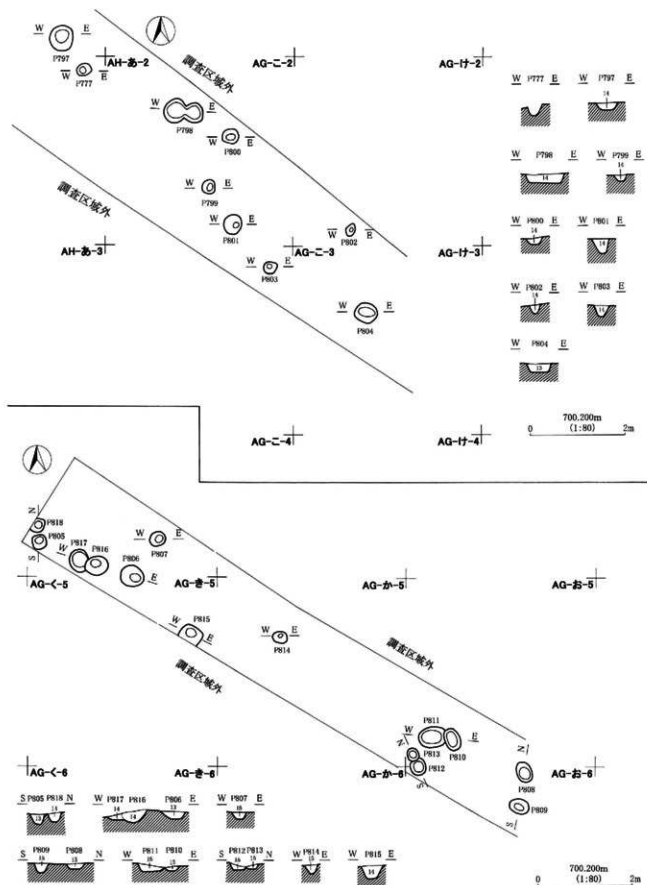
遺構	種類	形状	口径cm	底径cm	跡高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	壺	-	(7.3)	(1.6)	内外面ナデ	底部破片	5YR5/6明赤褐色 胎土黄褐色 F1-P6出土
2	土師器	壺	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ナデ	胴部破片	5YR5/4紅赤褐色 胎土黄褐色 F1-P9出土
3	須恵器	坏	-	-	-	内外面口クロナデ	口縁から底部破片	10YR5/1黄灰色 胎土黄褐色 F2-P6出土

第45表 F1・2号掘立柱建物跡遺物観察表

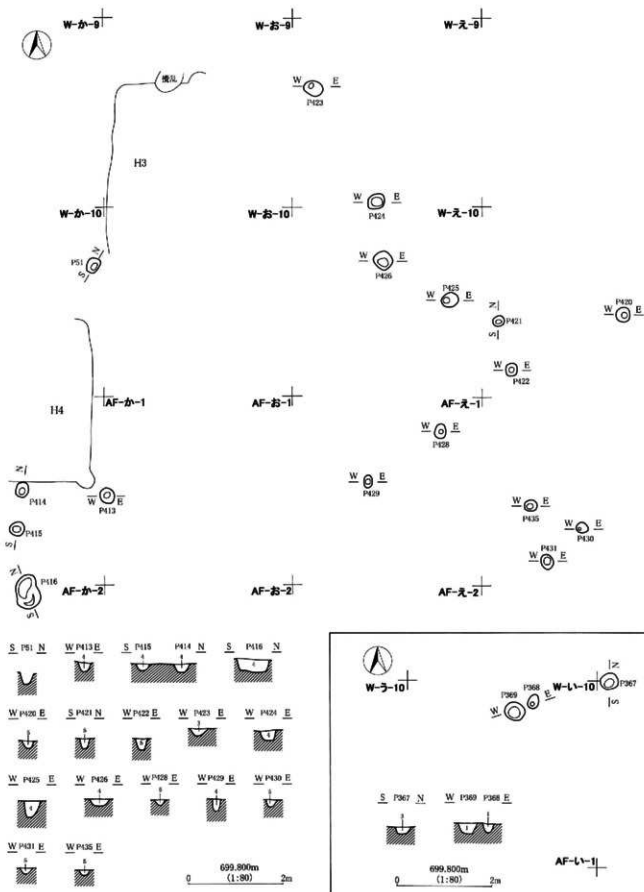
第6節 ビット



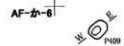
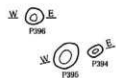
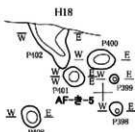
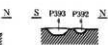
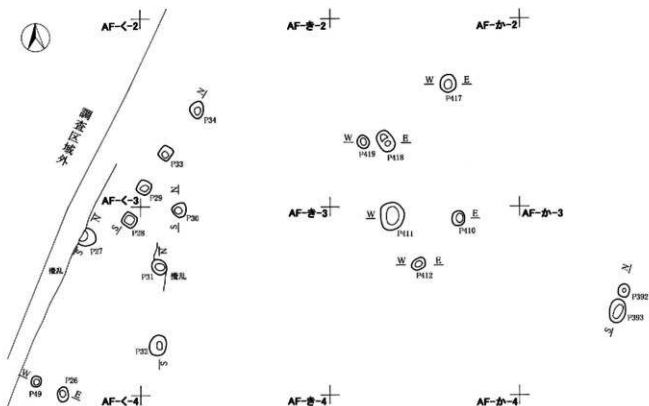
第66図 ビット実測図 (1)



第67図 ビット実測図(2)

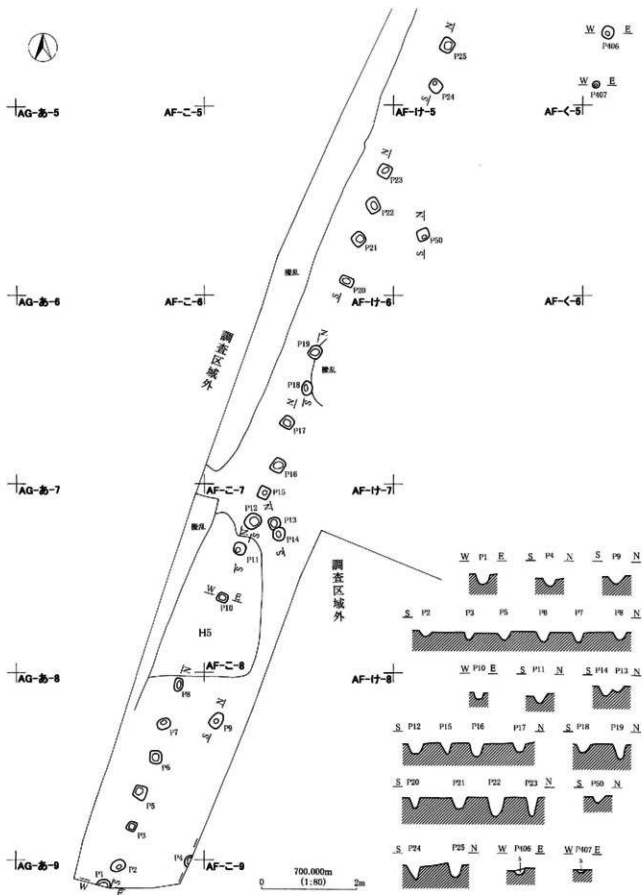


第68図 ビット実測図 (3)

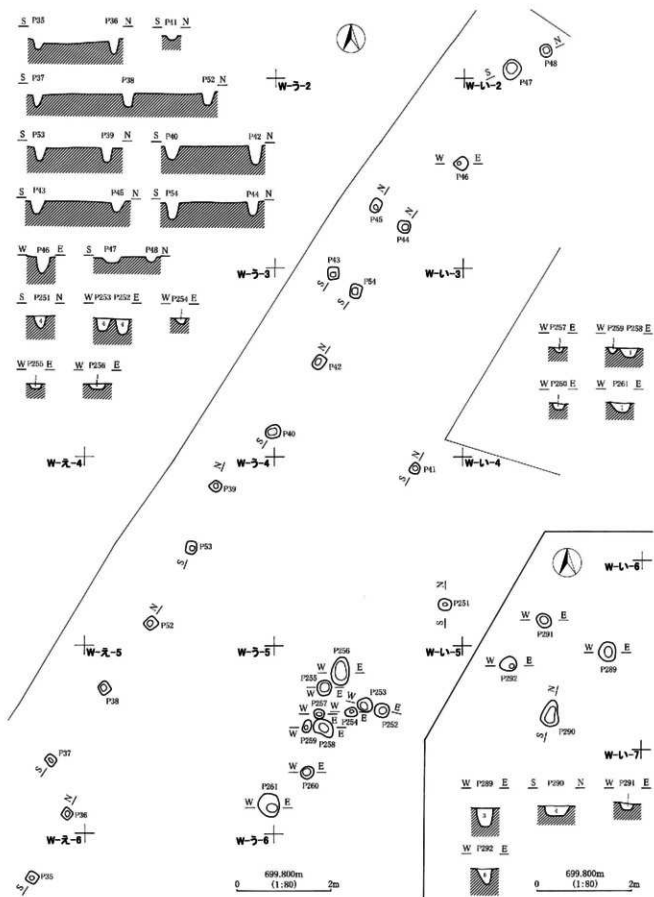


0 699.500m (1:80) 2m

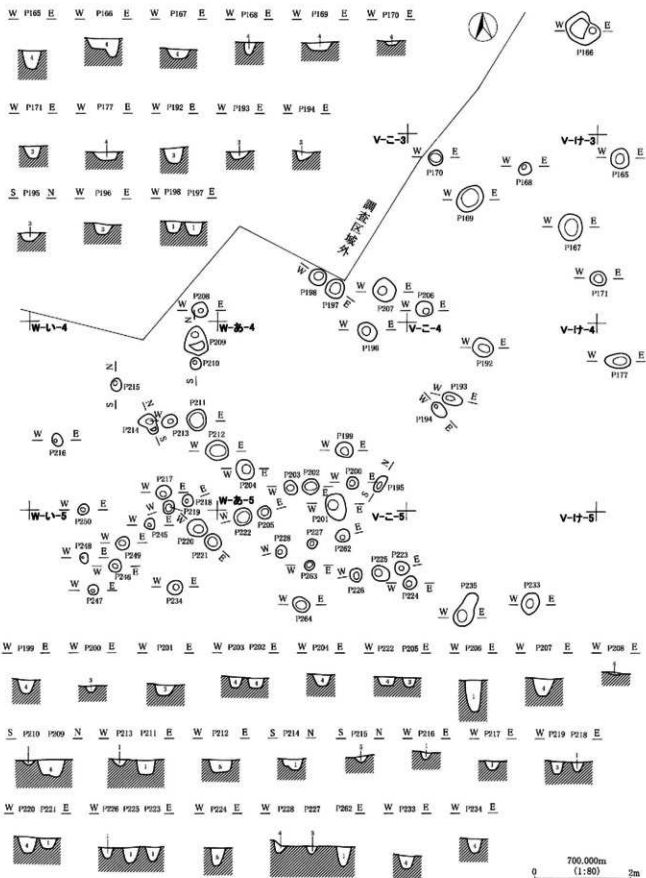
第69図 ビット実測図(4)



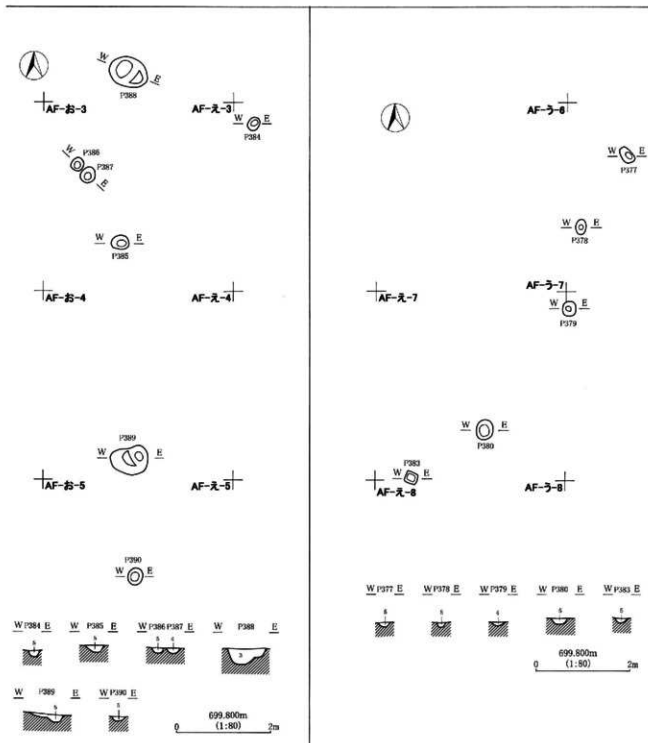
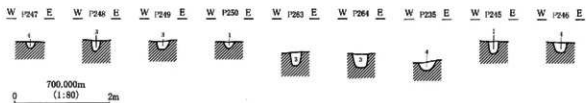
第70図 ビット実測図 (5)



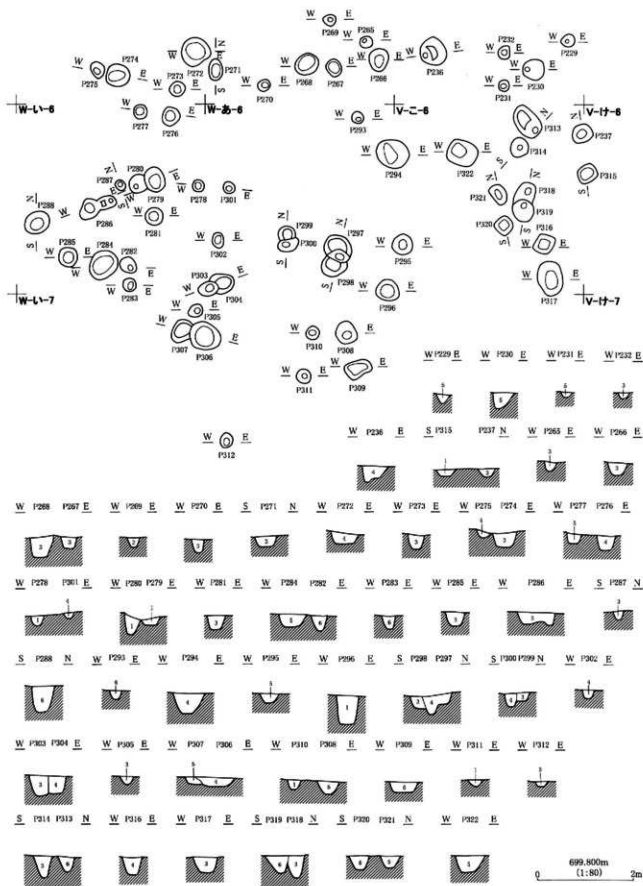
第71図 ビット実測図 (6)



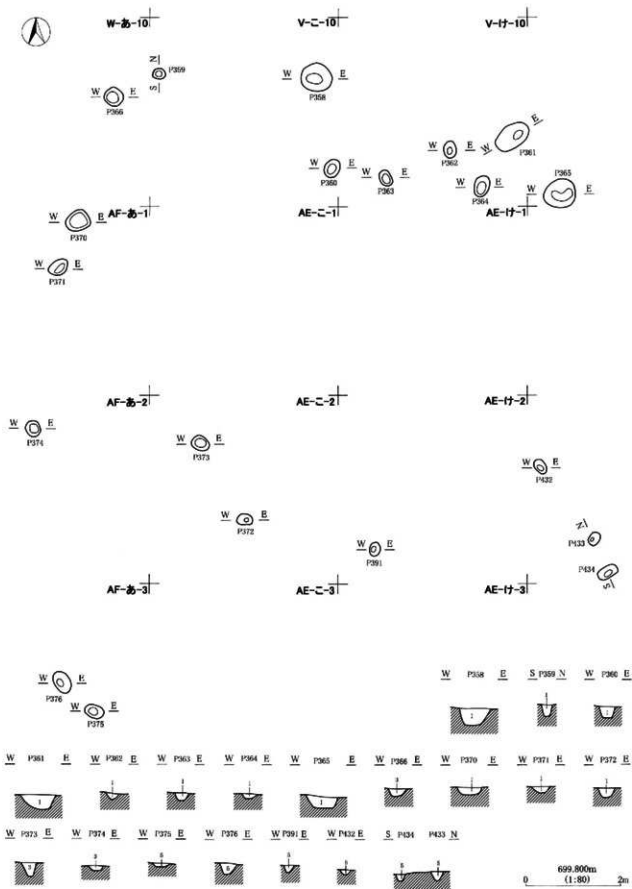
第72図 ビット実測図 (7)



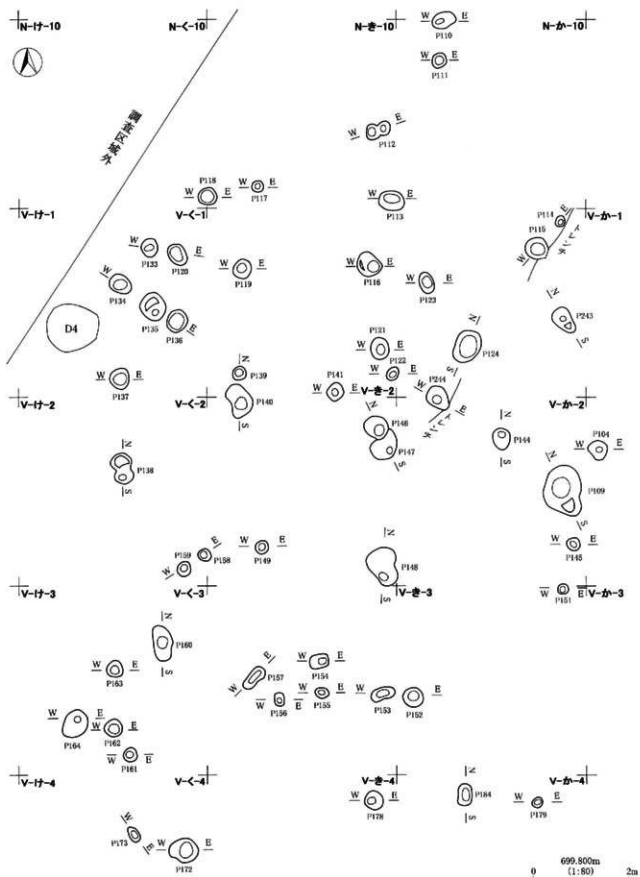
第73図 ビット実測図(8)



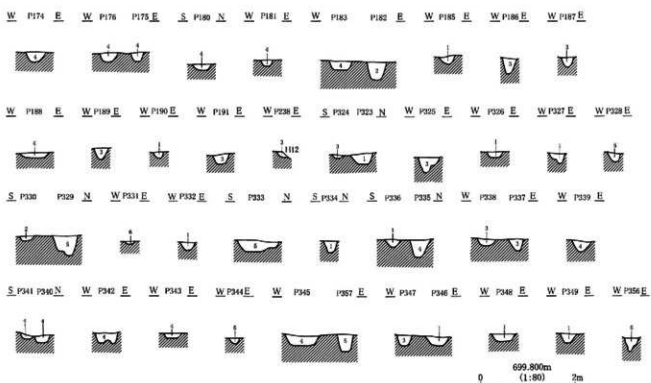
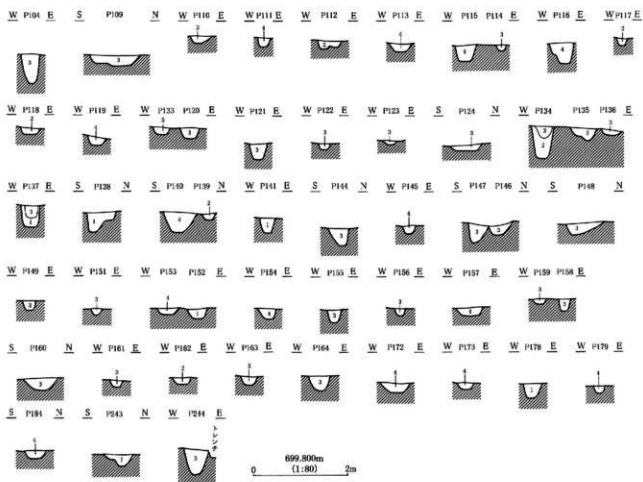
第74図 ビット実測図 (9)



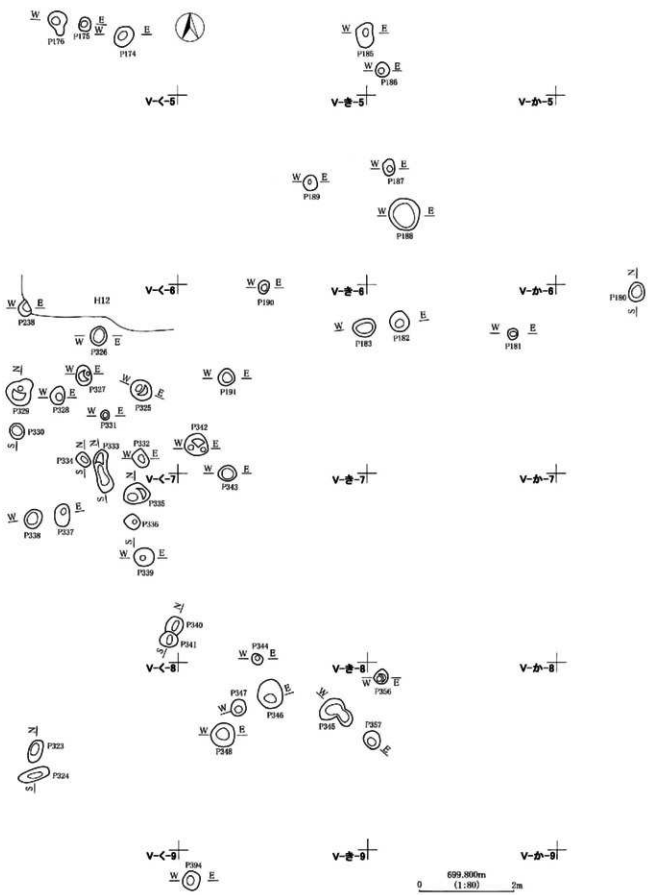
第75図 ビット実測図 (10)



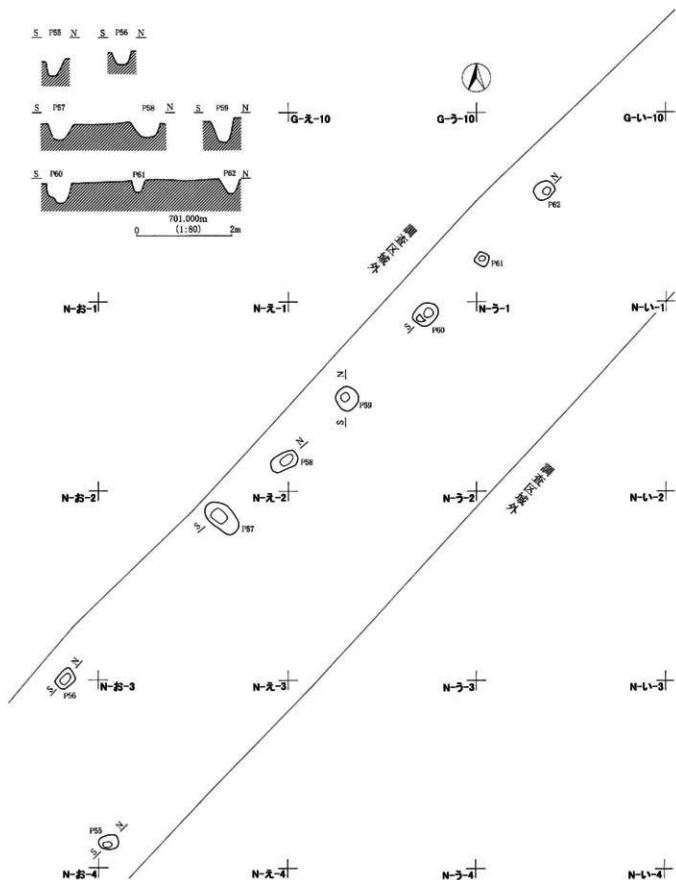
第76図 ビット実測図 (11)



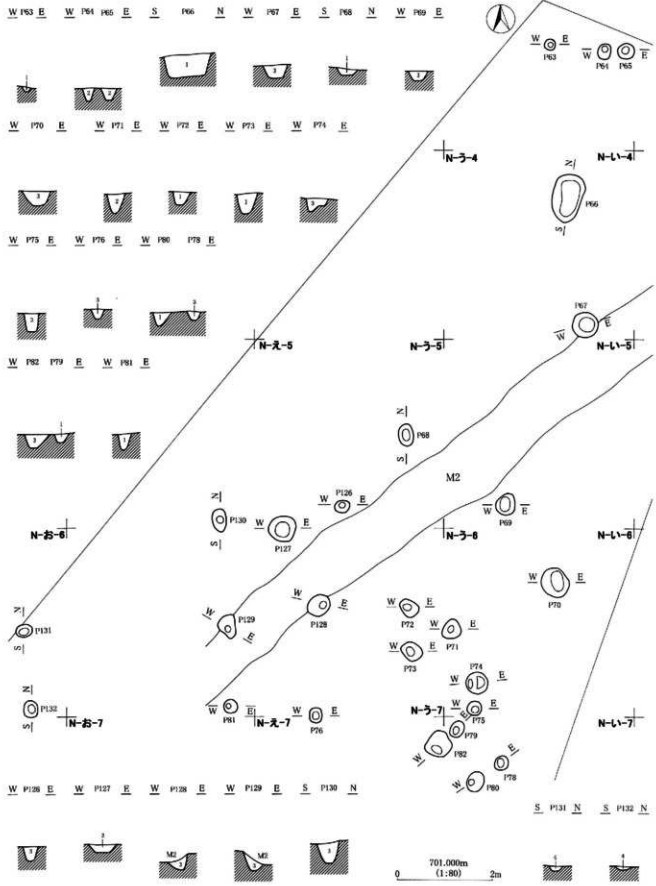
第77図 ビット実測図 (12)



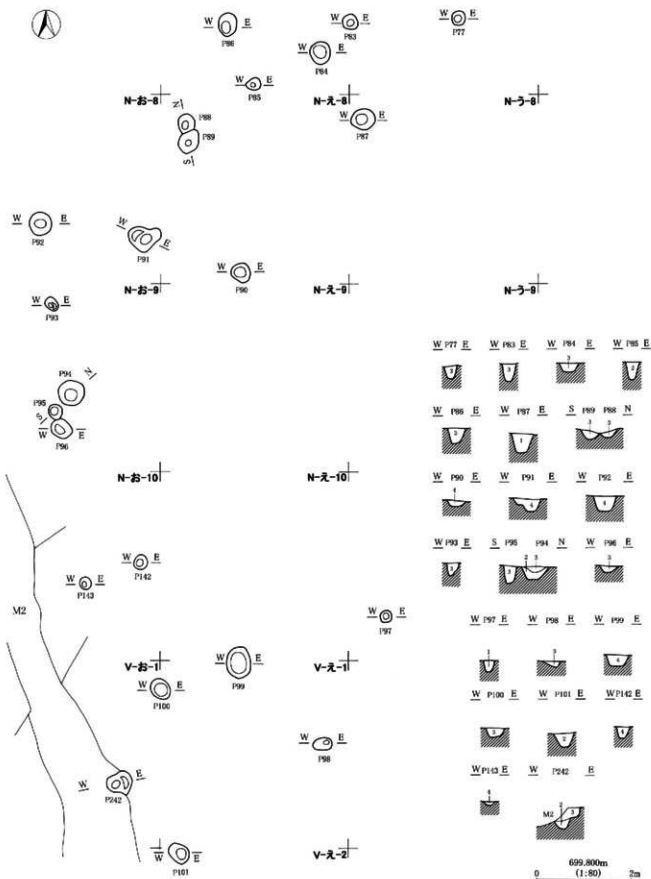
第78図 ビット実測図 (13)



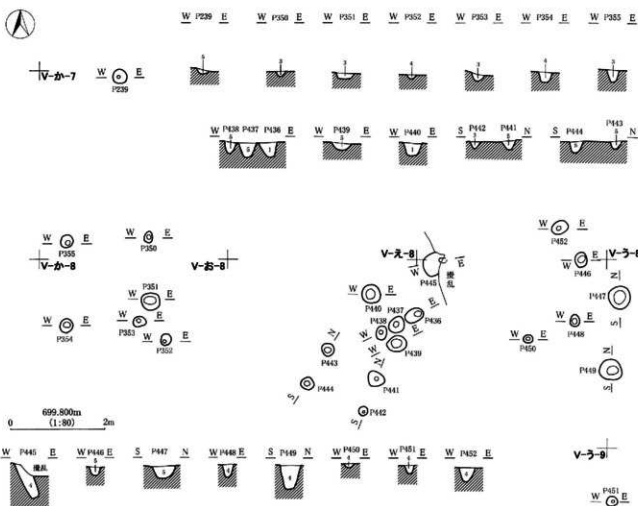
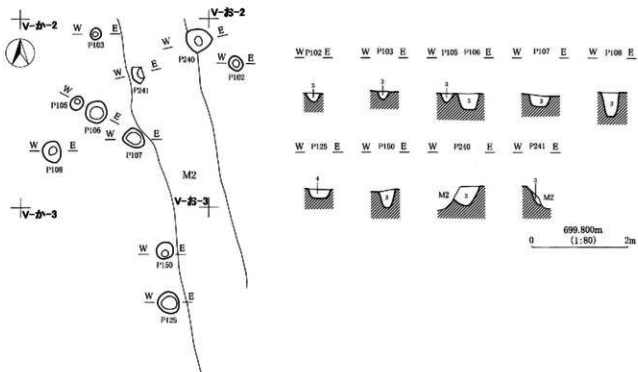
第79図 ビット実測図 (14)



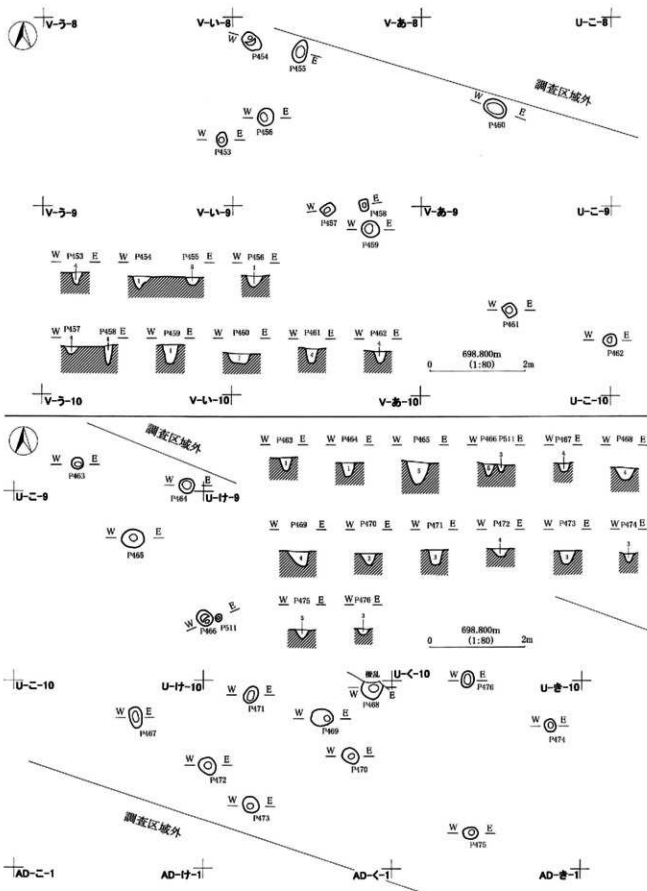
第80圖 ビット実測圖 (15)



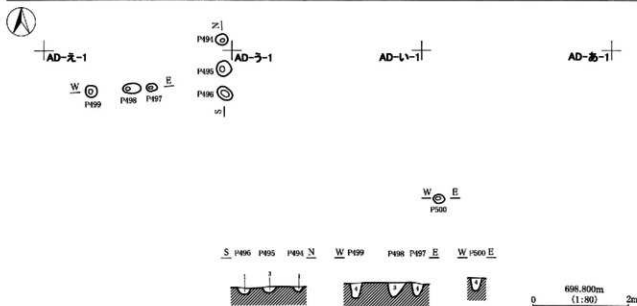
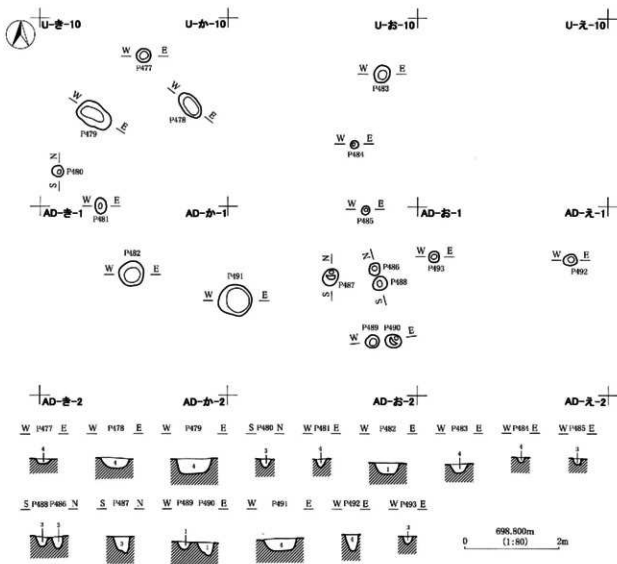
第81図 ビット実測図 (16)



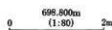
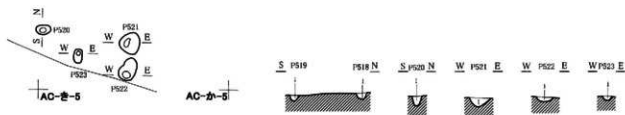
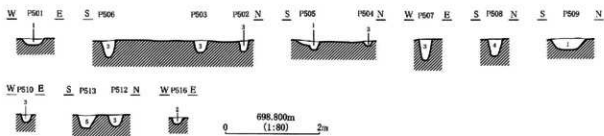
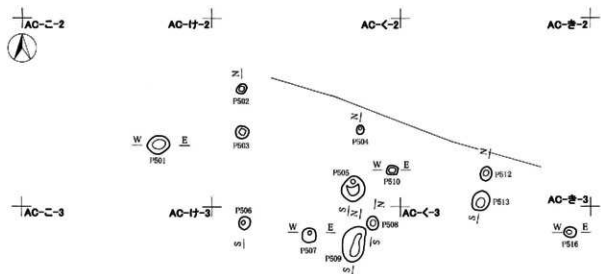
第82図 ビット実測図 (17)



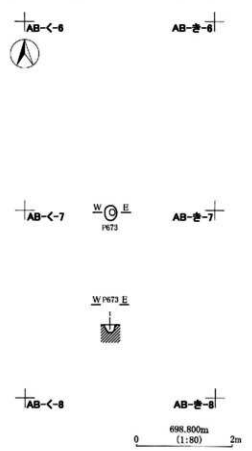
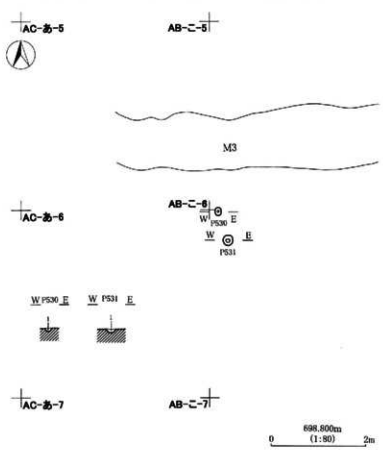
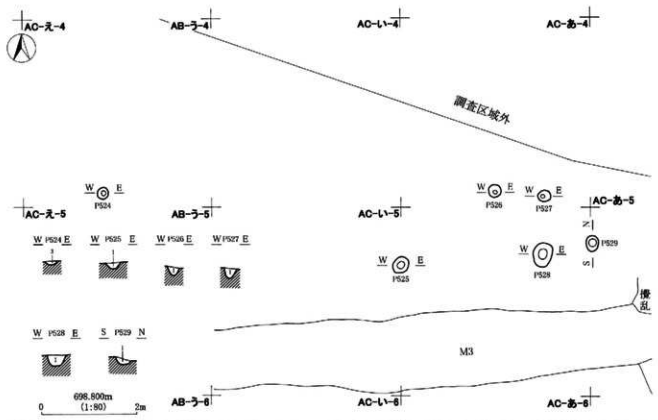
第83図 ビット実測図 (18)



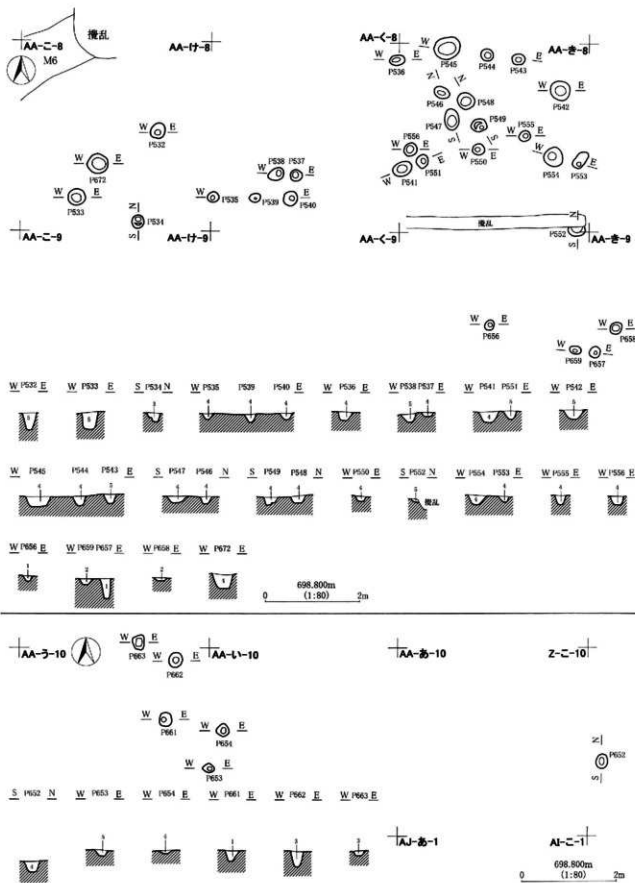
第84図 ビット実測図 (19)



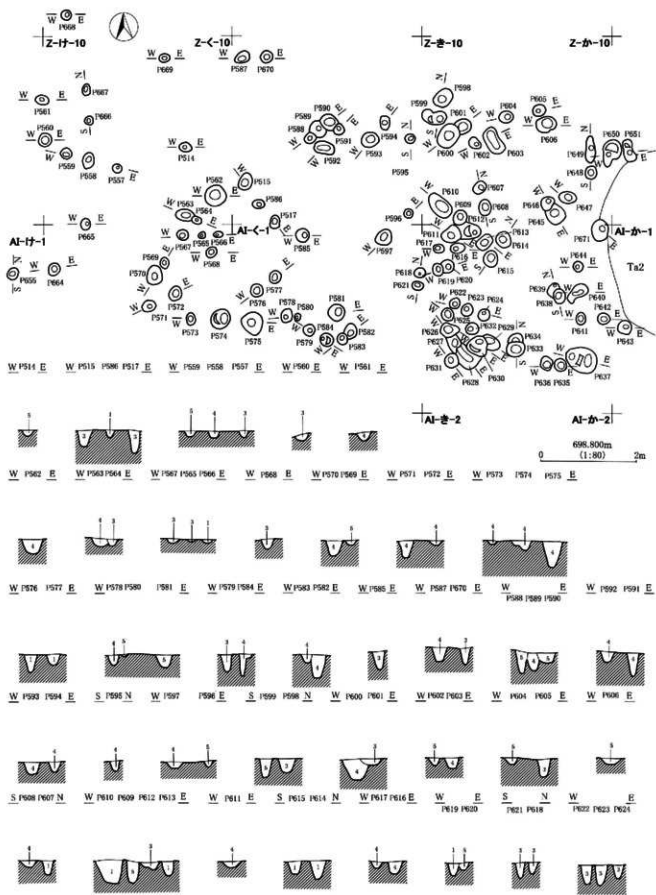
第85図 ビット実測図 (20)



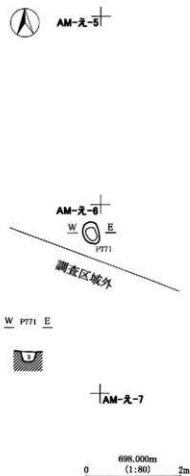
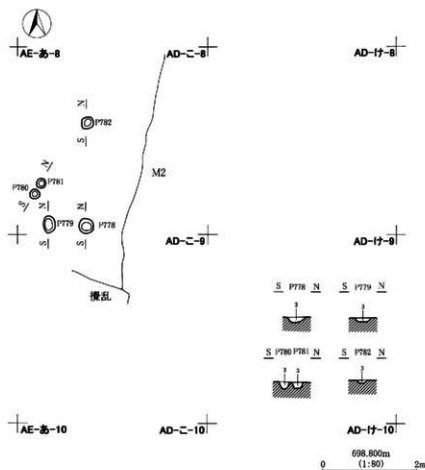
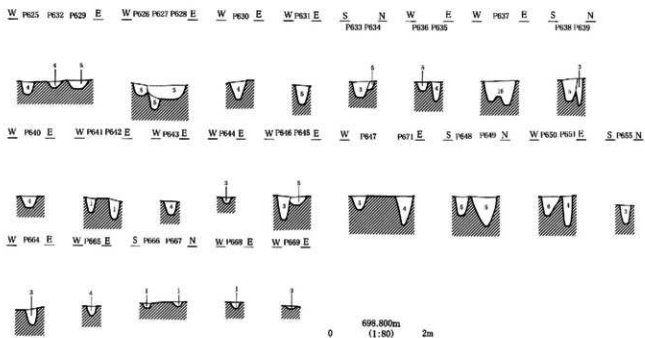
第86図 ビット実測図 (21)



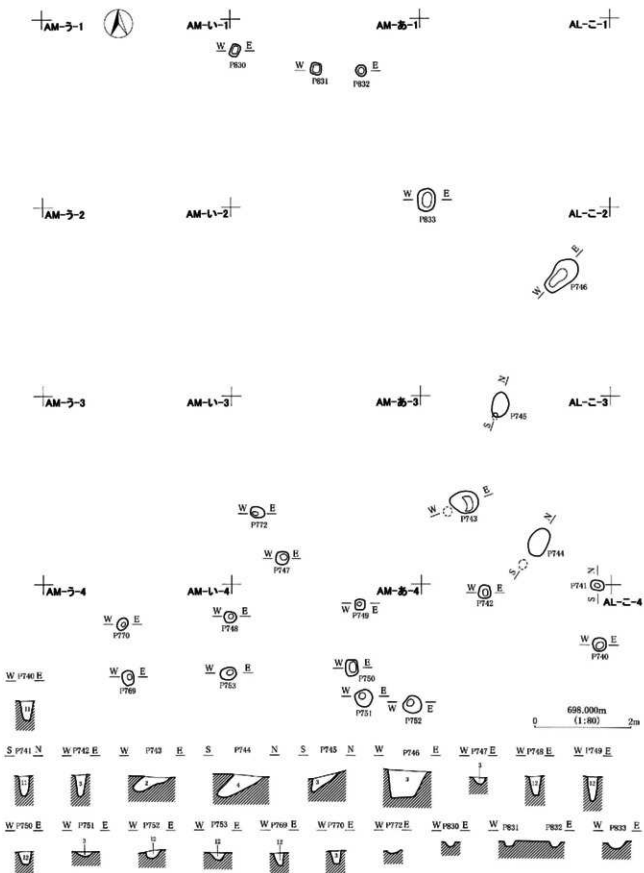
第87図 ビット実測図 (22)



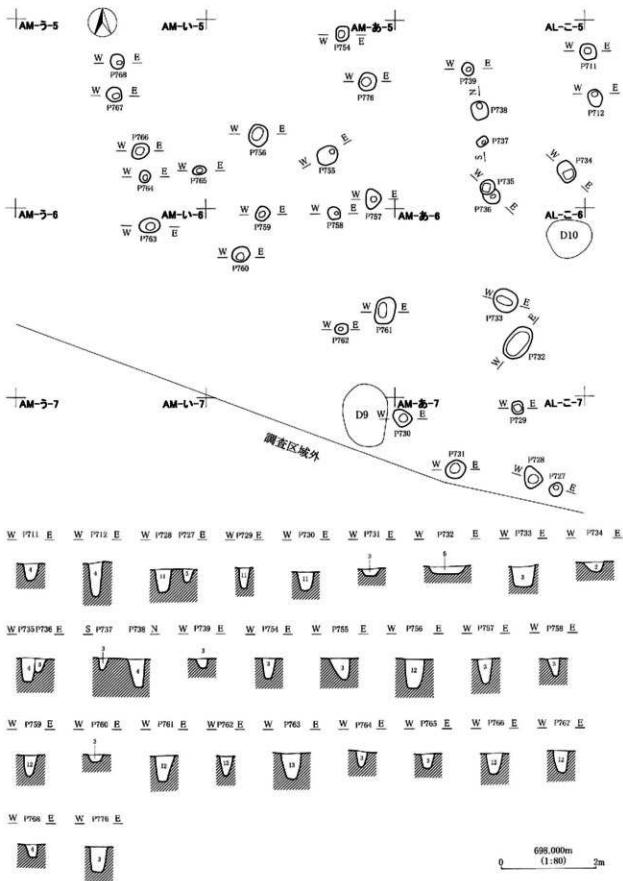
第88図 ビット実測図 (23)



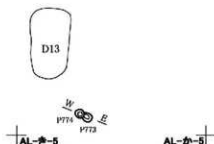
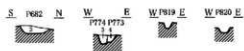
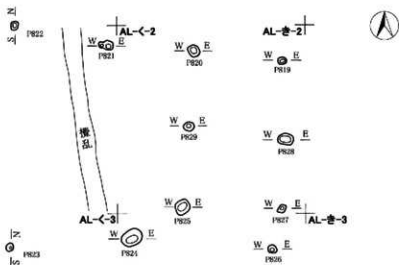
第89図 ビット実測図 (24)



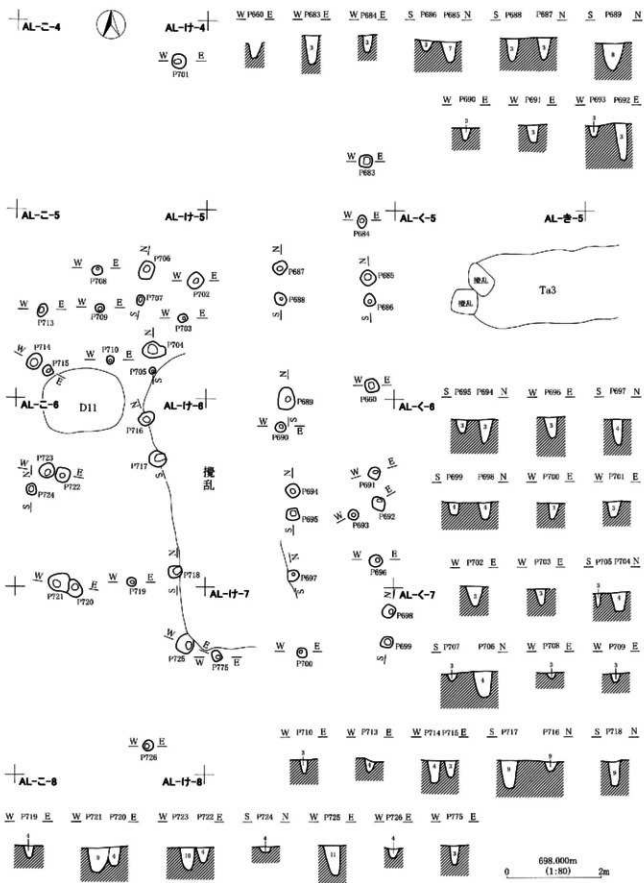
第90図 ビット実測図 (25)



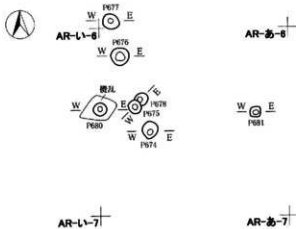
第91図 ビット実測図 (26)



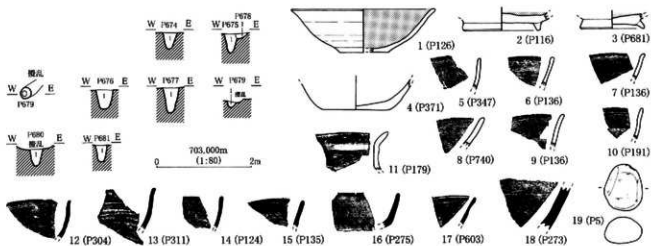
第92図 ビット実測図 (27)



第93図 ビット実測図 (28)



- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/4) E-I・軽石やや多く含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/2) D-I・軽石含む。
- 4 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石含む。
- 5 暗褐色土層 (10YR3/3) 軽石多く含む。
- 6 暗褐色土層 (10YR3/4) D-I・暗褐色土の混入土。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/3) D-Iやや多く含む。
- 8 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石含む。しまりなし。
- 9 黒褐色土層 (10YR2/3) E-I・軽石・D-I?7?9 (1~2cm 大) 含む。
- 10 黒褐色土層 (10YR2/3) E-I・軽石・D-I?7?9 (1~4cm 大) 含む。
- 11 黒褐色土層 (10YR2/3) D-I・軽石・D-I?7?9 (1~3cm 大) 含む。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/2) D-I・軽石・D-I?7?9 (1~2cm 大) 含む。
- 13 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石やや多く含む。
- 14 暗褐色土層 (10YR3/3) D-I・軽石やや多く含む。
- 15 暗褐色土層 (10YR3/4) D-Iやや多く、軽石含む。
- 16 暗褐色土層 (10YR3/4) D-Iと黒褐色土の混入土。E-I?7?9多く含む。



第94図 ビット実測図 (29)

遺構	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	備考	
1	土師器	坏	[15.2]	[5.2]	5.6	外面ロクロナデ 内面黒色処理	底面ヘラケズリ	40	外面10YR6/6暗黄褐色 断面実測 P126出土
2	土師器	碗	-	8.2	(1.8)	内面黒色処理	底面回転糸切り後高台付り付け	高台・底面100	外面7.5YR6/6褐色 完全実測 P116出土
3	土師器	碗	-	(6.7)	(1.5)	内面黒色処理	底面回転糸切り後高台付り付け	高台から底面部分	外面5YR5/4 断面実測 P681出土
4	土師器	坏	-	(6.9)	(3.3)	内面ミガキ	底面ヘラケズリ	底面から体部部分	外面5YR5/3に灰い赤褐色 断面実測 P71出土
5	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ	内面黒色処理	口縁破片	断面実測 P247出土
6	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ	内面黒色処理	口縁破片	断面実測 P136出土 断面実測 P136出土
7	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ	内面黒色処理	口縁破片	断面実測 P136出土
8	土師器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面7.5YR6/6褐色 断面実測 P246出土
9	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ	内面黒色処理	口縁破片	断面実測 P746出土
10	土師器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面5YR5/3に灰い赤褐色 断面実測 P136出土
11	土師器	変	-	-	-	内外面ナデ		口縁破片	外面7.5YR6/4に灰い赤褐色 断面実測 P191出土
12	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面5YR5/4に灰い赤褐色 断面実測 P179出土
13	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面10YR7/1灰白色 断面実測 P304出土
14	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面10YR3/1褐色 断面実測 P311出土
15	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面10YR6/1褐色 断面実測 P124出土
16	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面10YR7/3に灰い黄褐色 断面実測 P133出土
17	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面5Y6/1褐色 断面実測 P275出土
18	灰輪陶器	皿or碗	-	-	-	内外面ロクロナデ		口縁破片	外面2.5Y7/1灰白色 断面実測 P603出土
19	須恵器	変	-	-	-	内外面ナデ・自然釉付着		割部破片	外面5P2/1黄褐色 断面実測 P273出土
遺構	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調整・文様	重量(g)	備考	
19	石器	すり石	5	3.9	2.9	一部欠損 全体にすり痕		56.16	P5出土

第46表 ビット遺物観察表

ビット名	形類	直径 (cm)	厚さ (cm)	機出し位置
1	円形?	(16)	22	AF-シ9
2	楕円形	32	13	AF-シ9
3	方形	18	16	AF-シ8
4	円形?	(11)	16	AF-シ8
5	方形	30	19	AF-シ8
6	楕丸方形	28	19	AF-シ8
7	楕円形	28	20	AF-シ8
8	楕円形	26	16	AF-シ8
9	楕円形	34	18	AF-シ8
10	楕丸方形	21	13	AF-シ7
11	円形	25	22	AF-シ7
12	円形	36	20	AF-シ7
13	円形	C24	12	AF-シ7
14	円形	28	20	AF-シ7
15	方形	22	22	AF-シ7
16	方形	30	28	AF-シ6
17	方形	26	18	AF-シ6
18	楕円形	28	16	AF-シ6
19	円形	28	30	AF-シ6
20	楕丸方形	28	22	AF-シ5
21	方形	26	26	AF-シ5
22	楕丸方形	31	40	AF-シ5
23	方形	26	41	AF-シ5
24	楕丸方形	27	29	AF-シ4
25	楕丸方形	30	30	AF-シ4
26	楕円形	32	10	AF-シ3
27	楕円形?	C30?	24	AF-シ3
28	楕丸方形	29	20	AF-シ3
29	楕丸方形	28	38	AF-シ2
30	円形	28	28	AF-シ3
31	円形	34	25	AF-シ3
32	円形	44	16	AF-シ3
33	楕丸方形	26	28	AF-シ2
34	円形	38	18	AF-シ2
35	円形	20	21	W-シ4
36	円形	21	32	W-シ5
37	楕丸方形	23	26	W-シ5
38	円形	24	29	W-シ5
39	楕丸方形	22	30	W-シ4
40	円形	33	28	W-シ3
41	楕丸方形	24	10	W-シ4
42	楕丸方形	31	40	W-シ3
43	円形	27	28	W-シ3
44	円形	27	30	W-シ2
45	楕丸方形	29	23	W-シ2
46	円形	30	34	W-シ2
47	円形	43	12	W-シ1
48	円形	27	11	W-シ1
49	円形	20	9	AF-シ3
50	楕丸方形	26	15	AF-シ5
51	楕丸方形	36	24	W-シ10
52	円形	26	29	W-シ4
53	楕丸方形	27	28	W-シ4
54	楕丸方形	30	35	W-シ3
55	楕円形	41	37	N-シ3
56	楕丸方形	44	28	N-シ2
57	楕円形	83	34	N-シ2
58	楕円形	61	32	N-シ1
59	円形	51	51	N-シ1
60	円形	54	42	N-シ1
61	円形	28	25	G-シ10
62	円形	42	30	G-シ10
63	円形	23	11	N-シ3
64	楕円形	33	27	N-シ3
65	円形	35	25	N-シ3
66	楕円形	102	51	N-シ4
67	円形	54	30	N-シ4
68	楕円形	47	17	N-シ5
69	円形	40	20	N-シ5
70	円形	64	29	N-シ6
71	円形	40	42	N-シ6
72	楕円形	41	28	N-シ6
73	楕円形	47	44	N-シ6
74	円形	46	28	N-シ6
75	円形	31	38	N-シ6
76	楕円形	31	20	N-シ6

ビット名	形類	直径 (cm)	厚さ (cm)	機出し位置
77	円形	30	28	N-シ7
78	円形	32	20	N-シ7
79	楕円形	36	18	N-シ7
80	楕円形	44	29	N-シ7
81	円形	29	34	N-シ6
82	不整形	54	29	N-シ7
83	円形	32	38	N-シ7
84	円形	48	20	N-シ7
85	楕円形	31	38	N-シ7
86	楕円形	49	32	N-シ7
87	円形	52	41	N-シ8
88	円形	C38?	19	N-シ8
89	円形	54	20	N-シ8
90	円形	41	13	N-シ8
91	不整形	68	28	N-シ8
92	円形	47	32	N-シ8
93	楕円形	30	28	N-シ9
94	円形	56	27	N-シ9
95	円形	33	37	N-シ9
96	円形	46	14	N-シ9
97	円形	25	23	N-シ10
98	楕円形	40	12	V-シ1
99	楕円形	66	24	N-シ10
100	楕円形	47	20	V-シ1
101	楕円形	47	30	V-シ2
102	円形	35	18	V-シ2
103	円形	25	17	V-シ2
104	円形	41	62	V-シ2
105	円形	31	18	V-シ2
106	円形	47	34	V-シ2
107	楕円形	46	27	V-シ2
108	円形	45	50	V-シ2
109	不整形	109	24	V-シ2
110	楕円形	50	16	N-シ10
111	円形	33	20	N-シ10
112	双円形	54	18	N-シ10
113	楕円形	53	19	N-シ10
114	円形	22	14	V-シ1
115	円形	46	36	V-シ1
116	円形	54	44	V-シ1
117	円形	24	18	N-シ10
118	円形	39	15	N-シ10
119	円形	40	20	V-シ1
120	楕円形	49	22	V-シ1
121	楕円形	46	35	V-シ1
122	楕円形	30	13	V-シ1
123	楕円形	45	9	V-シ1
124	楕円形	71	16	V-シ1
125	円形	45	20	V-シ3
126	楕円形	33	30	N-シ5
127	円形	58	16	N-シ5
128	楕円形	(49)?	33	N-シ6
129	不整形	(50)?	41	N-シ6
130	楕円形	48	47	N-シ5
131	楕円形	34	12	N-シ6
132	円形	36	8	N-シ6
133	円形	38	16	V-シ1
134	楕円形	49	68	V-シ1
135	円形	60	27	V-シ1
136	円形	48	14	V-シ1
137	円形	46	46	V-シ1
138	双円形	66	45	V-シ2
139	円形	31	14	V-シ1
140	不整形	72	43	V-シ2
141	楕丸方形	35	31	V-シ1
142	円形	31	24	N-シ10
143	円形	24	8	N-シ10
144	楕円形	45	37	V-シ2
145	円形	28	18	V-シ2
146	楕円形	51	28	V-シ2
147	楕円形	(44)?	42	V-シ2
148	不整形	82	28	V-シ2
149	円形	28	20	V-シ2
150	円形	36	39	V-シ3
151	円形	22	14	V-シ3
152	円形	44	23	V-シ3

ビット名	形類	直径 (cm)	厚さ (cm)	機出し位置
153	楕円形	62	15	V-シ3
154	楕丸方形	40	22	V-シ3
155	楕円形	30	28	V-シ3
156	楕丸方形	28	14	V-シ3
157	楕円形	56	19	V-シ3
158	円形	28	26	V-シ2
159	円形	32	12	V-シ2
160	楕円形	76	26	V-シ3
161	円形	28	16	V-シ3
162	円形	38	14	V-シ3
163	円形	34	18	V-シ3
164	楕円形	62	32	V-シ3
165	円形	42	39	V-シ3
166	不整形	69	38	V-シ2
167	円形	56	23	V-シ3
168	円形	26	26	V-シ3
169	楕円形	62	18	V-シ3
170	円形	32	10	V-シ3
171	円形	34	26	V-シ3
172	楕円形	62	22	V-シ4
173	楕円形	35	14	V-シ4
174	楕円形	46	20	V-シ4
175	円形	30	20	V-シ4
176	不整形	51	20	V-シ4
177	楕円形	53	18	V-シ4
178	円形	41	30	V-シ4
179	円形	22	16	V-シ4
180	楕円形	40	13	V-シ4
181	円形	23	13	V-シ4
182	円形	42	38	V-シ4
183	楕円形	48	20	V-シ4
184	楕円形	46	17	V-シ4
185	楕円形	53	18	V-シ4
186	円形	32	34	V-シ4
187	楕円形	36	21	V-シ4
188	円形	66	12	V-シ4
189	円形	32	24	V-シ5
190	円形	28	12	V-シ5
191	円形	36	20	V-シ5
192	円形	44	32	V-シ4
193	楕円形	43	18	V-シ4
194	楕円形	38	21	V-シ4
195	楕円形	38	18	V-シ4
196	円形	43	24	V-シ4
197	円形	42	27	V-シ3
198	円形	40	24	V-シ3
199	円形	36	30	V-シ3
200	円形	25	14	V-シ4
201	楕円形	58	24	V-シ4
202	円形	35	22	V-シ4
203	円形	31	24	V-シ4
204	円形	44	25	V-シ4
205	円形	27	20	V-シ4
206	円形	35	65	V-シ3
207	円形	50	38	V-シ3
208	円形	34	7	W-シ3
209	楕円形	62	41	W-シ4
210	円形	24	9	W-シ4
211	円形	45	31	W-シ4
212	円形	48	27	V-シ4
213	楕円形	33	14	W-シ4
214	不整形	44	23	W-シ4
215	楕円形	27	14	W-シ4
216	楕円形	28	17	W-シ4
217	円形	33	20	W-シ4
218	円形	24	21	W-シ4
219	円形	28	28	W-シ4
220	円形	43	36	W-シ5
221	円形	35	22	W-シ5
222	円形	38	19	V-シ5
223	円形	30	32	V-シ5
224	円形	29	38	V-シ5
225	楕円形	38	35	V-シ5
226	円形	28	22	V-シ5
227	円形	21	17	V-シ5
228	円形	26	26	V-シ5

第47表 ビット観察表 (1)

ビット名	形数	直径 (cm)	長さ (cm)	抽出位置
229	円形	29	20	V-1-5
230	円形	45	33	V-1-5
231	円形	24	12	V-1-5
232	円形	28	13	V-1-5
233	楕円形	46	29	V-1-5
234	円形	33	30	W-あ-5
235	楕円形	76	19	V-1-5
236	円形	60	34	V-1-5
237	円形	44	18	V-1-6
238	円形?	C20	12	V-く-6
239	円形	29	12	V-あ-7
240	円形	(53)	40	W-あ-2
241	?	C22	(58)	V-あ-2
242	楕円形	(54)	47	V-あ-1
243	楕円形	59	25	V-あ-1
244	楕円形	(54)	26	V-あ-1
245	円形	23	26	W-あ-5
246	円形	27	22	W-あ-5
247	円形	21	13	W-あ-5
248	楕円形	24	23	W-あ-5
249	円形	29	18	W-あ-5
250	円形	22	14	W-あ-4
251	円形	26	25	W-1-4
252	円形	30	33	W-1-5
253	円形	32	27	W-1-5
254	楕円形	26	13	W-1-5
255	円形	32	11	W-1-6
256	楕円形	59	12	W-1-5
257	円形	22	11	W-1-6
258	楕円形	45	20	W-1-5
259	楕円形	26	12	W-1-5
260	円形	28	14	W-1-5
261	円形	52	22	W-1-5
262	円形	29	43	V-く-5
263	円形	22	29	V-く-5
264	楕円形	37	29	V-く-5
265	円形	26	20	V-く-5
266	円形	48	27	V-く-6
267	円形	36	24	V-く-6
268	円形	32	47	V-く-5
269	円形	28	20	V-く-5
270	円形	26	28	V-く-5
271	楕円形	45	34	V-く-5
272	円形	63	27	W-あ-5
273	円形	34	32	W-あ-5
274	円形	52	32	W-あ-5
275	楕円形	36	18	W-あ-5
276	円形	40	32	W-あ-6
277	円形	30	24	W-あ-6
278	円形	25	20	W-あ-6
279	円形	52	18	W-あ-6
280	円形	C30	46	W-あ-6
281	円形	38	30	W-あ-6
282	円形	38	34	W-あ-6
283	円形	28	28	W-あ-6
284	円形	65	26	W-あ-6
285	円形	40	30	W-あ-6
286	双円形	82	28	W-あ-6
287	円形	22	19	W-あ-6
288	円形	56	19	W-あ-6
289	円形	40	41	W-1-6
290	楕円形	59	20	W-1-6
291	円形	33	16	W-1-6
292	楕円形	34	34	W-1-6
293	円形	24	20	W-く-6
294	円形	70	44	W-く-6
295	円形	43	20	W-1-6
296	円形	49	62	W-く-6
297	円形	62	45	W-く-6
298	円形	C30	26	W-く-6
299	円形	C28	20	W-く-6
300	楕円形	46	28	W-く-6
301	円形	25	12	W-く-6
302	楕円形	33	18	W-く-6
303	楕円形	44	46	W-く-6
304	楕円形	C30	40	W-く-6

ビット名	形数	直径 (cm)	長さ (cm)	抽出位置
305	楕円形	32	18	W-あ-7
306	楕円形	68	20	W-く-7
307	楕円形	(40)	16	W-あ-7
308	円形	48	28	W-く-7
309	不整形	58	24	W-く-7
310	円形	28	22	W-く-7
311	円形	30	14	W-く-7
312	円形	32	12	W-く-7
313	楕円形	73	34	V-1-6
314	円形	41	47	V-1-6
315	楕丸方形	40	15	V-く-6
316	楕丸方形	41	38	V-1-6
317	楕円形	72	53	V-1-6
318	楕円形	(37)	48	V-1-6
319	円形	47	37	V-1-6
320	楕丸方形	36	30	V-1-6
321	楕円形	44	24	V-1-6
322	楕丸方形	63	36	V-1-6
323	楕円形	49	24	V-く-8
324	楕円形	67	8	V-く-8
325	円形	47	32	V-く-6
326	円形	40	13	V-く-6
327	円形	62	22	V-く-6
328	楕円形	38	22	V-く-6
329	不整形	60	42	V-く-6
330	円形	33	10	V-く-6
331	円形	20	6	V-く-6
332	楕円形	38	18	V-く-6
333	不整形	88	28	V-く-6
334	楕円形	32	23	V-く-6
335	楕円形	57	36	V-く-7
336	楕丸方形	32	16	V-く-7
337	楕円形	47	26	V-く-7
338	円形	42	16	V-く-7
339	円形	43	26	V-く-7
340	楕円形	(34)	16	V-く-7
341	円形	38	12	V-く-7
342	円形	49	23	V-く-6
343	円形	38	11	V-く-6
344	円形	25	12	V-く-7
345	双円形	70	25	V-く-8
346	円形	61	22	V-く-8
347	円形	34	23	V-く-8
348	円形	49	15	V-く-8
349	楕丸方形	39	21	V-く-9
350	楕円形	23	11	V-く-7
351	円形	39	14	V-く-8
352	円形	24	8	V-く-8
353	楕円形	28	18	V-く-8
354	円形	29	22	V-く-8
355	円形	26	26	V-く-7
356	円形	30	30	V-く-8
357	円形	37	37	V-く-8
358	円形	66	34	V-く-10
359	円形	27	23	V-く-10
360	楕円形	39	24	V-く-10
361	楕円形	76	31	V-1-10
362	楕円形	35	15	V-1-10
363	楕円形	34	16	V-1-10
364	楕円形	45	10	V-1-10
365	円形	67	27	V-く-10
366	楕丸方形	36	16	W-あ-10
367	円形	36	15	W-あ-10
368	楕円形	30	20	W-1-10
369	円形	43	23	W-1-10
370	楕円形	52	16	AF-あ-1
371	楕円形	44	13	AF-あ-1
372	楕円形	33	20	AE-く-2
373	楕円形	38	30	AE-く-2
374	円形	34	11	AF-あ-2
375	楕円形	41	8	AF-あ-3
376	楕円形	50	24	AF-あ-3
377	楕円形	38	8	AF-1-4
378	楕円形	32	9	AF-1-6
379	円形	30	7	AF-1-7
380	円形	42	12	AF-1-7

ビット名	形数	直径 (cm)	長さ (cm)	抽出位置
381	欠番			
382	欠番			
383	方形	27	9	AF-う-7
384	円形	30	14	AF-1-3
385	楕円形	37	15	AF-あ-3
386	円形	28	11	AF-あ-3
387	円形	34	11	AF-あ-3
388	楕円形	83	34	AF-あ-2
389	不整形	78	21	AF-あ-4
390	円形	36	10	AF-あ-5
391	楕円形	29	14	AE-1-2
392	円形	28	10	AF-あ-3
393	楕円形	50	15	AF-あ-3
394	楕円形	32	8	AF-あ-4
395	楕円形	61	18	AF-あ-4
396	円形	38	30	AF-あ-4
397	円形	31	10	AF-あ-5
398	円形	28	15	AF-あ-5
399	円形	20	8	AF-あ-4
400	楕円形	58	15	AF-あ-4
401	楕円形	45	13	AF-あ-4
402	不整形	(79)	16	AF-あ-4
403	円形	22	10	AF-あ-4
404	円形	20	12	AF-あ-4
405	円形	28	11	AF-あ-5
406	楕丸方形	24	14	AF-あ-4
407	円形	14	6	AF-あ-4
408	円形	47	20	AF-あ-5
409	楕円形	43	15	AF-あ-6
410	円形	31	7	AF-あ-3
411	円形	58	31	AF-あ-3
412	楕円形	32	11	AF-あ-3
413	円形	34	20	AF-あ-1
414	円形	32	18	AF-あ-1
415	円形	32	14	AF-あ-1
416	不整形	72	30	AF-あ-2
417	円形	36	28	AF-あ-2
418	楕円形	47	21	AF-あ-2
419	円形	29	14	AF-あ-2
420	円形	31	16	W-1-10
421	円形	25	21	W-1-10
422	楕丸方形	26	24	W-1-10
423	楕円形	42	15	W-1-9
424	楕円形	40	21	W-1-9
425	円形	34	34	W-1-10
426	楕丸方形	38	14	W-1-10
427	欠番			
428	楕円形	30	11	AF-1-1
429	楕円形	26	25	AF-1-1
430	円形	26	15	AF-1-1
431	楕円形	32	12	AF-1-1
432	楕円形	33	10	AE-く-2
433	楕円形	29	19	AE-く-2
434	楕円形	45	15	AE-く-2
435	円形	27	12	AF-1-1
436	楕円形	40	31	V-あ-8
437	円形	35	31	V-あ-8
438	楕円形	29	26	V-あ-8
439	楕円形	41	16	V-あ-8
440	円形	39	28	V-あ-8
441	円形	33	16	V-あ-8
442	円形	19	16	V-あ-8
443	円形	26	17	V-あ-8
444	円形	27	25	V-あ-8
445	楕円形?	(52)	76	V-あ-8
446	楕円形	31	19	V-あ-8
447	円形	48	28	V-あ-8
448	楕円形	25	28	V-あ-8
449	円形	42	52	V-あ-8
450	円形	20	8	V-あ-8
451	円形	21	18	V-1-9
452	楕円形	35	31	V-1-7
453	楕円形	30	25	V-1-8
454	楕円形	44	28	V-1-8
455	楕円形	49	17	V-1-8
456	円形	36	24	V-1-8

第48表 ビット観察表(2)

ビット名	形番	直径 (cm)	長さ (cm)	検出位置
457	円形	28	16	V あ9
458	楕丸方形	24	40	V あ8
459	円形	38	40	V あ9
460	楕円形	48	23	U へ8
461	楕丸方形	28	32	U へ9
462	円形	28	25	U へ9
463	円形	24	28	U け8
464	円形	31	29	U け8
465	楕円形	47	49	U け9
366	円形	35	27	U け9
467	楕円形	43	18	U け10
368	円形	42	27	U け10
469	楕円形	48	33	U け10
470	楕円形	41	26	U け10
471	楕円形	36	32	U け10
472	楕円形	39	17	U け10
473	円形	35	29	U け10
474	円形	26	18	U け10
475	楕円形	31	20	U け10
476	楕円形	34	13	U け9
477	円形	28	11	U け10
478	楕円形	61	22	U け10
479	楕円形	74	33	U け10
480	円形	24	18	U け10
481	楕円形	32	18	U け10
482	円形	62	25	AD あ1
483	円形	36	20	U け10
484	円形	16	11	U け10
485	円形	18	13	AD あ1
486	楕丸方形	26	26	AD あ1
487	楕円形	37	36	AD あ1
488	円形	29	22	AD あ1
489	円形	27	17	AD あ1
490	円形	33	29	AD あ1
491	円形	71	26	AD あ1
492	円形	29	35	AD あ1
493	円形	23	16	AD あ1
494	円形	26	11	U け10
495	円形	32	12	AD う1
496	楕円形	34	14	AD う1
497	楕円形	23	29	AD う1
498	楕円形	38	30	AD う1
499	円形	24	32	AD う1
500	円形	23	28	AD あ1
501	楕円形	47	14	AC け2
502	楕円形	23	24	AC け2
503	円形	27	25	AC け2
504	楕円形	19	10	AC け2
505	円形	53	20	AC け2
506	円形	27	36	AC け3
507	円形	30	44	AC け3
508	円形	28	37	AC け3
509	楕円形	76	24	AC け3
510	楕丸方形	24	17	AC け2
511	円形	16	16	U へ9
512	楕円形	29	25	AC け2
513	円形	42	28	AC け2
514	楕円形	28	13	Z け10
515	楕円形	36	36	Z け10
516	楕円形	26	14	AC け3
517	楕円形	27	49	Z け10
518	楕円形	25	14	AC け3
519	円形	19	12	AC け4
520	楕円形	31	20	AC け4
521	円形	46	19	AC け4
522	楕円形	49	11	AC け4
523	楕円形	29	9	AC け4
524	円形	24	8	AB う4
525	円形	36	14	AC あ5
526	円形	28	20	AC あ4
527	楕円形	28	22	AC あ4
528	楕円形	51	23	AC あ5
529	楕円形	33	16	AC あ5
530	楕円形	17	7	AB け6
531	円形	22	7	AB け6
532	円形	32	36	AA け8

ビット名	形番	直径 (cm)	長さ (cm)	検出位置
533	円形	35	36	AA け8
534	円形	28	19	AA け8
535	円形	24	13	AA け8
536	楕円形	32	18	AA け8
537	円形	24	8	AA け8
538	楕円形	35	19	AA け8
539	楕円形	24	18	AA け8
540	円形	30	14	AA け8
541	楕円形	42	24	AA け8
542	円形	41	20	AA け8
543	円形	28	20	AA け8
544	円形	25	20	AA け8
545	円形	55	21	AA け8
546	楕円形	34	16	AA け8
547	楕円形	44	14	AA け8
548	円形	36	17	AA け8
549	円形	34	16	AA け8
550	円形	26	12	AA け8
551	円形	29	17	AA け8
552	円形	(19)	8	AA け8
553	楕円形	39	13	AA け8
554	円形	41	21	AA け8
555	円形	24	20	AA け8
556	円形	29	19	AA け8
557	円形	19	14	Z け10
558	楕円形	34	14	Z け10
559	円形	23	12	Z け10
560	円形	28	16	Z け10
561	楕円形	28	19	Z け10
562	円形	44	31	Z け10
563	楕円形 (O6)	20	20	Z け10
564	楕円形	22	13	Z け10
565	円形	14	4	AB け1
566	楕円形	20	6	AB け1
567	円形	24	9	AB け1
568	円形	25	21	AB け1
569	楕円形	24	11	AB け1
570	楕円形	40	32	AB け1
571	楕円形	29	37	AB け1
572	楕円形	31	10	AB け1
573	楕円形	26	8	AB け1
574	円形	43	20	AB け1
575	円形	48	55	AB け1
576	円形	27	37	AB け1
577	円形	27	22	AB け1
578	楕円形	30	21	AB け1
579	円形	25	36	AB け1
580	円形	14	6	AB け1
581	円形	36	27	AB け1
582	楕円形 (G4)	49	AB け1	
583	円形	23	18	AB け1
584	円形	28	40	AB け1
585	円形	28	39	AB け1
586	楕円形	26	16	Z け10
587	楕円形	34	30	Z け10
588	円形	23	49	Z け10
589	円形	35	37	Z け10
590	円形	34	20	Z け10
591	円形	24	49	Z け10
592	楕円形	43	23	Z け10
593	円形	38	26	Z け10
594	楕円形	29	21	Z け10
595	円形	22	21	Z け10
596	円形	19	13	Z け10
597	円形	34	13	AB け1
598	楕円形	42	30	Z け10
599	双円形	52	40	Z け10
600	楕円形	53	45	Z け10
601	楕円形 (Z9)	14	Z け10	
602	楕円形	28	16	Z け10
603	楕円形	59	24	Z け10
604	楕円形	31	15	Z け10
605	楕円形	28	40	Z け10
606	楕円形	42	14	Z け10
607	楕円形	29	28	Z け10
608	楕円形	33	14	Z け10

ビット名	形番	直径 (cm)	長さ (cm)	検出位置
609	楕円形	32	18	Z け10
610	楕円形	59	50	Z け10
611	楕円形	40	14	AB け1
612	楕円形 (44)	18	AB け1	
613	楕円形	36	31	AB け1
614	円形	33	40	AB け1
615	円形	34	28	AB け1
616	楕円形	32	27	AB け1
617	楕円形	23	16	AB け1
618	楕円形	24	24	AB け1
619	円形	26	27	AB け1
620	円形 (G4)	16	AB け1	
621	楕円形	24	34	AB け1
622	円形	23	40	AB け1
623	円形	27	44	AB け1
624	円形	24	28	AB け1
625	円形	27	28	AB け1
626	楕円形	40	15	AB け1
627	楕円形 (36)	55	AB け1	
628	楕円形	81	30	AB け1
629	楕円形 (30)	18	AB け1	
630	円形	43	41	AB け1
631	円形	28	41	AB け1
632	円形	27	15	AB け1
633	楕円形	39	32	AB け1
634	楕円形	17	18	AB け1
635	円形	26	41	AB け1
636	円形	26	20	AB け1
637	楕円形	66	52	AB け1
638	楕円形	31	46	AB け1
639	円形	(16)	58	AB け1
640	不要形	48	25	AB け1
641	楕円形	25	32	AB け1
642	円形	26	44	AB け1
643	円形	29	29	AB け1
644	円形	22	14	AB け1
645	楕円形 (35)	20	Z け10	
646	楕円形	30	51	Z け10
647	楕円形	36	28	Z け10
648	円形	27	40	Z け10
649	楕円形	56	62	Z け10
650	不要形	59	40	Z け10
651	楕円形	47	63	Z け10
652	楕円形	30	24	Z け10
653	楕円形	25	13	AA け10
654	楕丸方形	24	7	AA け10
655	円形	25	20	AB け1
656	楕円形	23	12	AA け9
657	円形	23	41	AA け9
658	楕円形	26	6	AA け9
659	楕円形	24	13	AA け9
660	楕丸方形	27	32	AL け5
661	円形	28	23	AA け10
662	円形	31	54	AA け10
663	楕丸方形	31	11	AA け9
664	円形	26	36	AL け1
665	円形	24	20	AL け1
666	円形	18	10	Z け10
667	楕円形	25	10	Z け10
668	円形	21	13	Z け9
669	楕円形	23	6	Z け10
670	円形	25	36	Z け10
671	楕円形 (45)	62	AB け1	
672	円形	44	32	AA け8
673	楕円形	31	16	AB け7
674	円形	36	35	AR あ6
675	円形	29	40	AR あ6
676	円形	37	41	AR あ6
677	円形	35	53	AR あ6
678	楕円形 (22)	12	AR あ6	
679	円形 (34)	(14)	AR あ7	
680	円形 (37)	(36)	AR あ6	
681	円形	21	36	AR あ6
682	楕丸方形	64	16	AL け5
683	楕丸方形	25	60	AL け4
684	楕円形	27	37	AL け5

第49表 ビット観察表 (3)

ビット名	形態	直径 (cm)	深さ (cm)	横出位置
685	圓丸方形	29	42	AL<5
686	圓丸方形	27	23	AL<5
687	円形	30	47	AL<5
688	圓形	29	48	AL<5
689	圓形	46	59	AL<5
690	円形	21	27	AL<6
691	圓丸方形	22	38	AL<6
692	圓丸方形	26	79	AL<6
693	円形	21	24	AL<6
694	円形	30	61	AL<6
695	圓丸方形	27	29	AL<6
696	円形	27	44	AL<6
697	円形	C24	54	AL<6
698	圓丸方形	28	36	AL<7
699	円形	25	27	AL<7
700	圓丸方形	21	34	AL<7
701	円形	30	32	AL+4
702	円形	33	42	AL+5
703	円形	20	35	AL+5
704	圓形	48	41	AL+5
705	円形	14	30	AL+5
706	圓形	39	55	AL+5
707	圓形	22	16	AL+5
708	円形	19	13	AL+5
709	円形	17	19	AL+5
710	円形	17	28	AL+5
711	円形	34	35	AL+5
712	圓形	37	73	AL+5
713	圓形	28	28	AL+5
714	圓形	36	48	AL+5
715	円形	20	35	AL+5
716	円形	C34	21	AL+6
717	円形	C34	58	AL+6
718	円形	C28	55	AL+6
719	円形	17	26	AL+6
720	圓形	C30	41	AL+6
721	圓形	46	54	AL+6
722	圓丸方形	30	32	AL+6
723	円形	32	48	AL+6
724	圓丸方形	23	12	AL+6
725	圓形	C30	64	AL+7
726	円形	22	22	AL+7
727	円形	29	28	AL+7
728	圓形	47	48	AL+7
729	円形	27	44	AL+7
730	圓形	40	39	AL+7
731	円形	43	16	AL+7
732	圓形	76	16	AL+6
733	円形	51	46	AL+6
734	圓形	44	22	AL+6

ビット名	形態	直径 (cm)	深さ (cm)	横出位置
735	円形	31	50	AL+6
736	円形	C23	30	AL+6
737	圓丸方形	24	25	AL+6
738	圓丸方形	38	61	AL+6
739	円形	27	20	AL+6
740	円形	29	41	AL+6
741	圓丸方形	27	44	AL+6
742	圓丸方形	28	48	AL+6
743	圓形	60	34	AL+6
744	圓形	61	50	AL+6
745	圓形	52	42	AL+6
746	圓形	83	60	AL+6
747	圓丸方形	27	15	AM+3
748	円形	26	42	AM+4
749	方形	21	53	AM+4
750	圓丸方形	33	28	AM+4
751	円形	36	10	AM+4
752	円形	36	18	AM+4
753	圓形	33	16	AM+4
754	圓丸方形	31	43	AM+5
755	円形	45	45	AM+5
756	円形	47	62	AM+5
757	圓形	42	52	AM+5
758	円形	27	38	AM+6
759	圓丸方形	30	44	AM+6
760	円形	38	15	AM+6
761	圓形	58	54	AM+6
762	圓形	28	42	AM+6
763	圓形	43	55	AM+6
764	円形	26	34	AM+6
765	圓形	29	31	AM+6
766	圓形	39	44	AM+6
767	円形	30	47	AM+6
768	円形	30	26	AM+6
769	圓形	31	27	AM+6
770	圓形	27	28	AM+6
771	圓形	47	22	AM+6
772	圓形	30	7	AM+6
773	円形	(18)	15	AL+6
774	円形	18	18	AL+6
775	圓丸方形	23	41	AL+7
776	円形	38	54	AM+6
777	円形	30	24	AM+6
778	円形	32	11	AD+6
779	圓形	36	8	AD+6
780	円形	19	15	AD+6
781	円形	20	12	AD+6
782	圓丸方形	24	6	AD+6
783	円形	26	28	Y+6
784	円形	33	22	Y+6

ビット名	形態	直径 (cm)	深さ (cm)	横出位置
785	圓丸方形	48	31	Y+9
786	円形	36	22	Y+9
787	圓形	(30)	32	Y+9
788	円形	30	25	Y+9
789	圓形	38	30	Y+9
790	圓形	48	14	Y+10
791	円形	31	17	Y+10
792	円形	48	36	Y+10
793	円形	30	28	Y+10
794	圓形	40	18	Y+10
795	木製	42	26	AH+6
796	円形	32	24	AH+6
797	円形	48	16	AH+6
798	反円形	82	21	AG+2
799	円形	27	16	AG+2
800	円形	34	17	AG+2
801	円形	37	32	AG+2
802	圓形	28	20	AG+2
803	円形	29	25	AG+2
804	円形	50	21	AG+3
805	圓丸方形	29	24	AG+3
806	円形	50	18	AG+3
807	円形	32	16	AG+3
808	圓形	44	13	AG+3
809	圓形	40	18	AG+3
810	圓形	46	11	AG+3
811	圓形	(34)	18	AG+3
812	円形	(32)	17	AG+3
813	円形	28	12	AG+3
814	圓形	31	20	AG+3
815	圓丸方形?	(34)	28	AG+3
816	円形	48	26	AG+3
817	円形	48	14	AG+3
818	円形	(24)	21	AG+3
819	圓形	18	12	AL+2
820	圓丸方形	25	12	AL+2
821	反円形	30	27	AL+2
822	圓丸方形	19	8	AL+2
823	円形	18	9	AL+2
824	圓形	46	18	AL+2
825	圓丸方形	31	13	AL+2
826	圓形	18	22	AL+2
827	圓丸方形	18	20	AL+2
828	圓形	34	22	AL+2
829	圓形	23	16	AL+2
830	圓丸方形	26	10	AM+1
831	圓丸方形	26	12	AM+1
832	円形	24	12	AM+1
833	圓形	46	16	AL+1

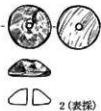
第50表 ビット観察表 (4)

(横線部) (残存部)

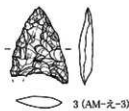
第7節 遺構外遺物



1 (表採)



2 (表採)



3 (AM-6-3)

第95図 遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存部・部位	備考
1	須臾器	甕	-	-	-	外周黒目明き・自然輪付着 内面ナシ	剥部破片	外面N3/1暗灰色 断面黒色 表採出土
2	石製品	紡錘車	4.48	4.35	1.7	孔径5.5mm		外面G6/1青灰色 完全黒腐 表採出土 AM-6-3グラッド出土
3	石器	鏃	2	0.35	0.92	左側先端欠損		0.92

第51表 遺構外遺物観察表



野馬窟遺跡VI 調査区調査前（北東から）



野馬窟遺跡VI 調査区調査前（南から）



A区全景（北東から）



A区全景（南から）



B区全景（南西から）



C区全景（北西から）



D区全景（南から）



D区全景（北から）



E区全景（西から）



E区全景（東から）



F区全景 (南西から)



G区全景 (南西から)



H区全景（北西から）



H区全景（東から）



試掘調査（北から）



平成24年度表土除去作業（南から）



平成24年度表土除去作業（北から）



A・B区調査終了状況（南から）



C区調査終了状況（南から）



平成24年度基準杭設定作業・調査風景1（南から）



平成24年度調査風景2（北東から）



平成24年度調査風景3（南から）



平成25年度表土除去作業1（北から）



平成25年度表土除去作業2（北から）



平成25年度表土除去作業3（北から）



平成25年度表土除去作業4（南東から）



平成25年度ハウス等設置状況



平成25年度基準杭設定作業・調査風景1（北から）



平成25年度調査風景2（南から）



平成25年度調査風景3（西から）



平成25年度調査風景4 (南東から)



平成25年度調査風景5 (西から)



平成25年度D区調査終了状況 (北から)



平成25年度F区調査終了状況 (南西から)



平成25年度G区調査終了状況 (西から)



平成25年度H区調査終了状況 (南から)



平成25年度H区調査終了状況 (東から)



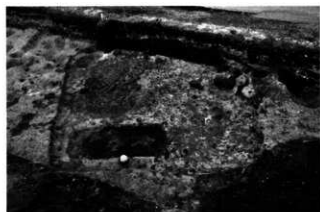
平成25年度E区調査終了状況 (東から)



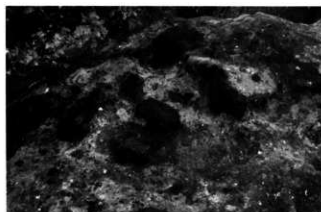
H 1 号住居址全景（北から）



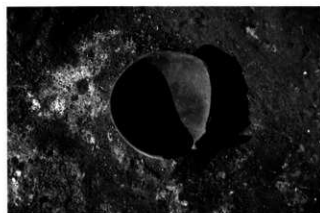
H 1 号住居址掘方（北から）



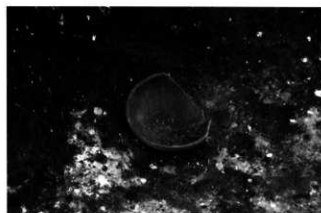
H 2 号住居址全景（東から）



H 2 号住居址カマド（南から）



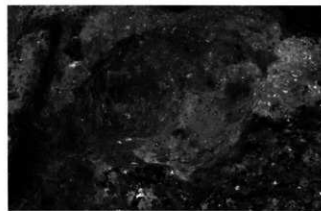
H 2 号住居址遺物出土状況 1



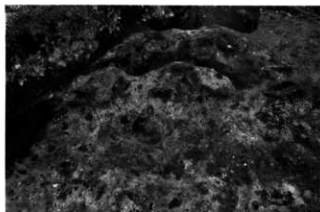
H 2 号住居址遺物出土状況 2



H 2 号住居址遺物出土状況 3



H 2 号住居址土坑



H2号住居址カマド掘方（南から）



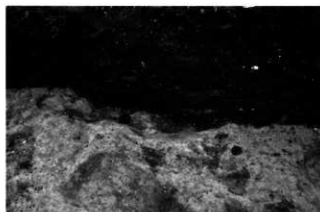
H2号住居址掘方（北東から）



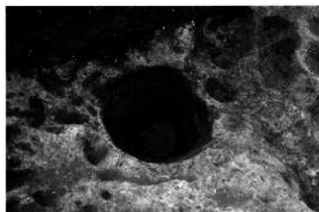
平成24年度調査分H3号住居址全景（西から）



平成25年度調査分H3号住居址全景（北東から）



H3号住居址カマド（西から）



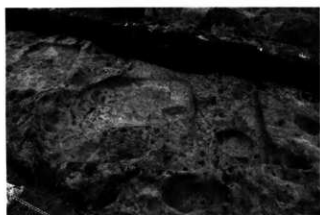
H3号住居址土坑



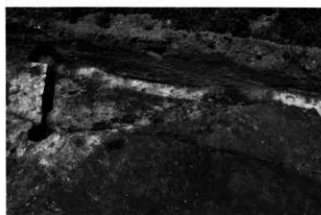
平成24年度調査分H3号住居址掘方（西から）



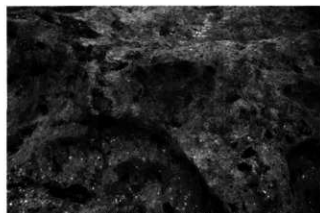
平成25年度調査分H3号住居址掘方（東から）



平成24年度調査分H4号住居址全景（西から）



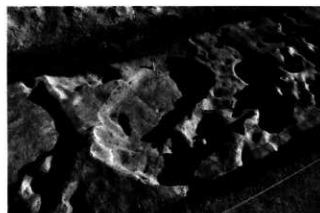
平成25年度調査分H4号住居址全景（東から）



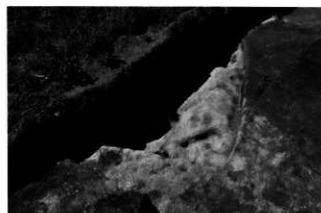
H4号住居址カマド（南から）



H4号住居址カマド掘方（南から）



平成24年度調査分H4号住居址掘方（北西から）



平成25年度調査分H4号住居址掘方（南東から）



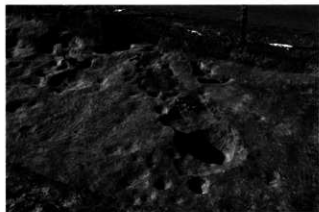
H5号住居址全景（東から）



H5号住居址カマド（南から）



H5号住居址掘方（北東から）



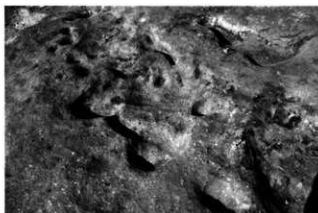
H6号住居址全景（東から）



H6号住居址カマド（南から）



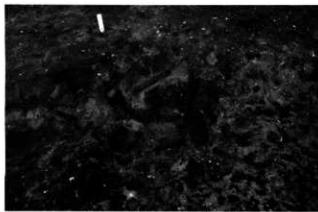
H6号住居址遺物出土状況



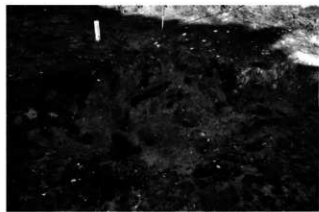
H6号住居址カマド掘方（南東から）



H7号住居址全景（南から）



H7号住居址カマド（南から）



H7号住居址カマド掘方（南から）



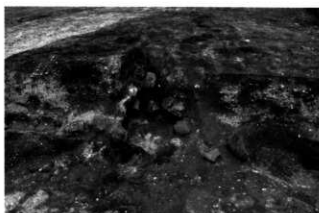
H7号住居址掘方（北西から）



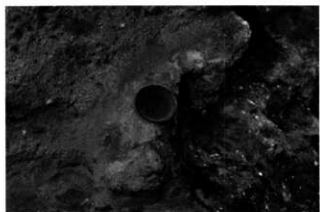
H8号住居址検出状況（東から）



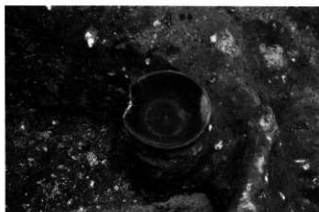
H8号住居址全景（南東から）



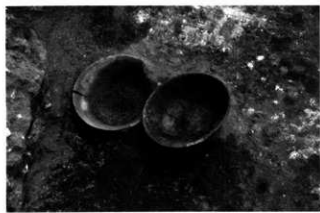
H8号住居址カマド（南から）



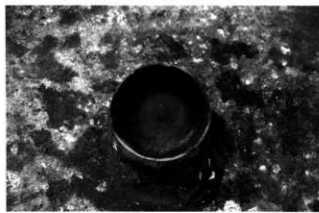
H8号住居址遺物出土状況1



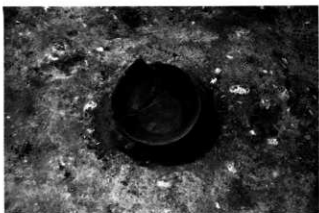
H8号住居址遺物出土状況2



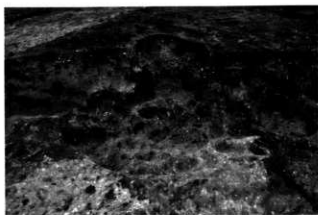
H8号住居址遺物出土状況3



H8号住居址遺物出土状況4



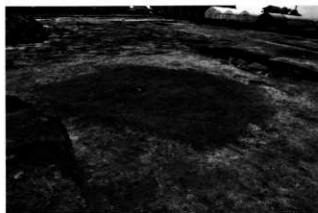
H 8 号住居址遺物出土状況 5



H 8 号住居址カマド掘方 (南から)



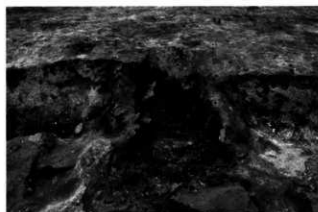
H 8 号住居址掘方 (東から)



H 9 号住居址検出状況 (北から)



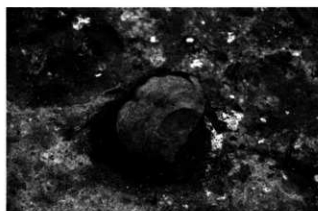
H 9 号住居址全景 (南から)



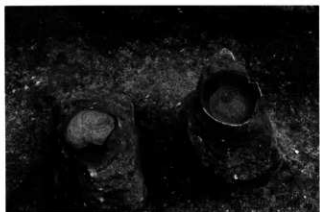
H 9 号住居址カマド (南から)



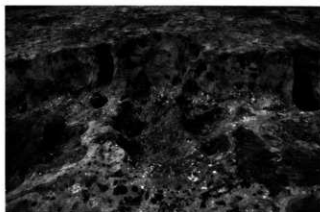
H 9 号住居址遺物出土状況 1



H 9 号住居址遺物出土状況 2



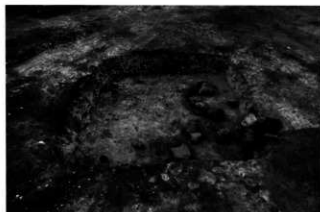
H9号住居址遺物出土状況3



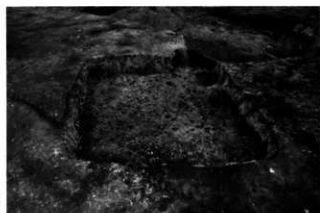
H9号住居址カマド掘方(南から)



H9号住居址掘方(南から)



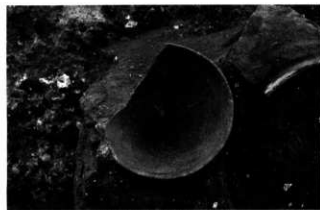
H10号住居址全景1(南から)



H10号住居址全景2(西から)



H10号住居址カマド(西から)



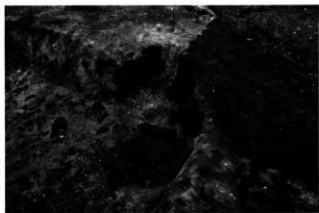
H10号住居址遺物出土状況1



H10号住居址遺物出土状況2



H10号住居址遺物出土状況3



H10号住居址カマド掘方（西から）



H10号住居址掘方（南から）



H11号住居址検出状況（西から）



H11号住居址全景1（南西から）



H11号住居址全景2（南西から）



H11号住居址遺物出土状況



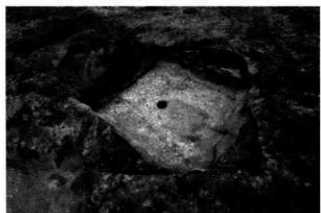
H11号住居址カマド（南西から）



H11号住居址カマド掘方(南西から)



H11号住居址掘方(南西から)



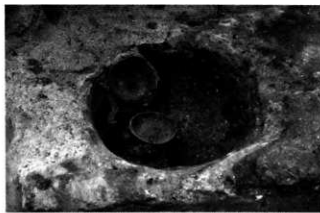
H12号住居址全景(西から)



H12号住居址カマド(西から)



H12号住居址遺物出土状況1



H12号住居址カマド南側土坑・遺物出土状況2



H12号住居址カマド掘方(西から)



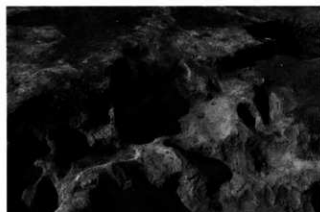
H12号住居址掘方(西から)



H13号住居址検出状況（北東から）



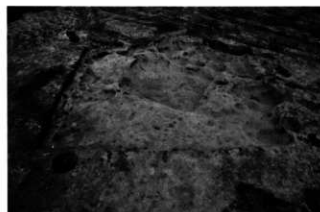
H13号住居址全景（南から）



H13号住居址北カマド（南西から）



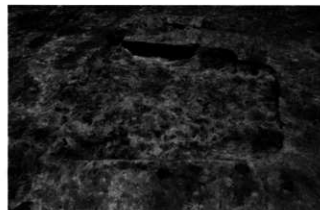
H13号住居址東カマド（西から）



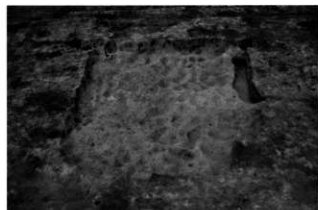
H13号住居址掘方（南から）



H14号住居址検出状況（北西から）



H14号住居址全景（西から）



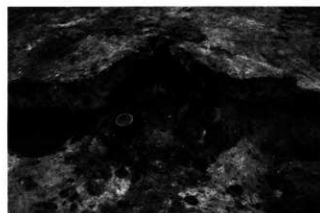
H14号住居址掘方（南から）



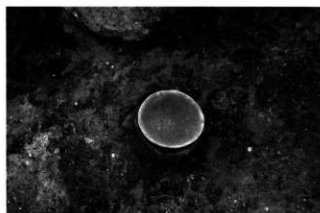
H15・16号住居址検出状況（北西から）



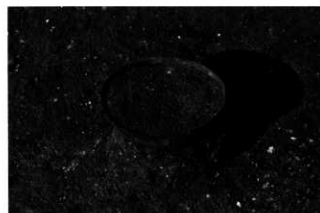
H15号住居址全景（南から）



H15号住居址カマド（西から）



H15号住居址遺物出土状況1



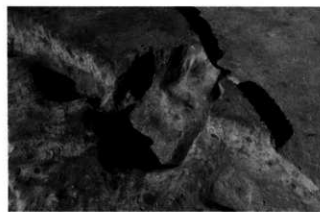
H15号住居址遺物出土状況2



H15号住居址遺物出土状況3



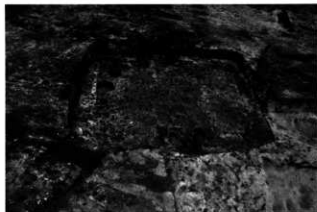
H15号住居址遺物出土状況4



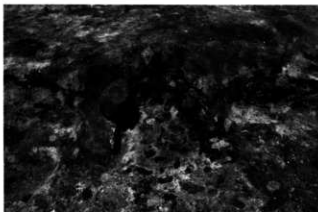
H15号住居址カマド掘削（南西から）



H15号住居址掘方（南から）



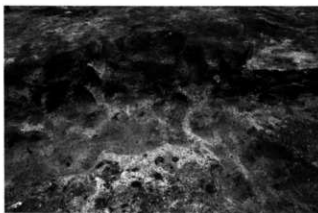
H16号住居址全景（南から）



H16号住居址カマド（南から）



H16号住居址遺物出土状況



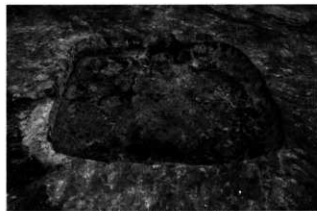
H16号住居址カマド掘方（南から）



H16号住居址掘方（南から）



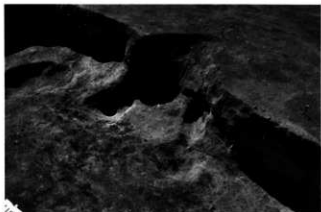
H17号住居址検出状況（南西から）



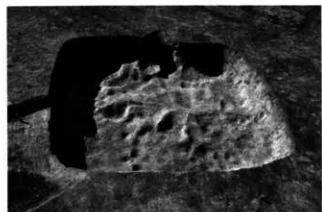
H17号住居址全景（南東から）



H17号住居址カマド (南東から)



H17号住居址カマド掘方 (東から)



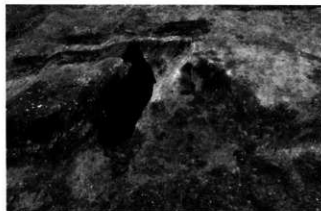
H17号住居址掘方 (南東から)



H18号住居址検出状況 (北東から)



H18号住居址全景 (南から)



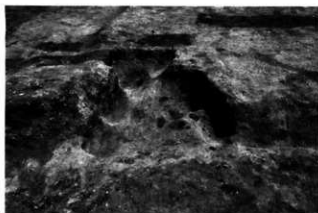
H18号住居址カマド (南から)



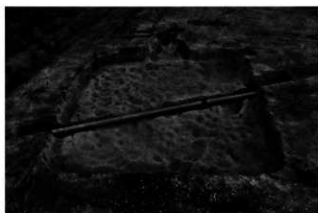
H18号住居址遺物出土状況 1



H18号住居址遺物出土状況 2



H18号住居址カマド掘方 (南から)



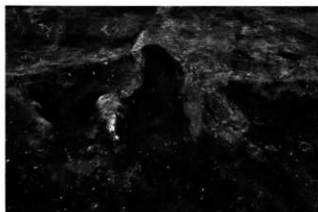
H18号住居址掘方 (南から)



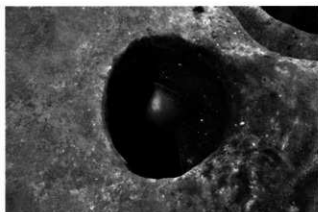
H19号住居址検出状況 (北から)



H19号住居址全景 (南から)



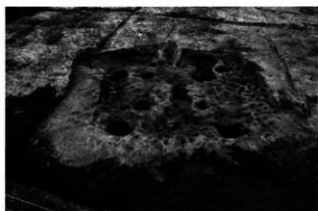
H19号住居址カマド (南から)



H19号住居址ビット内遺物出土状況



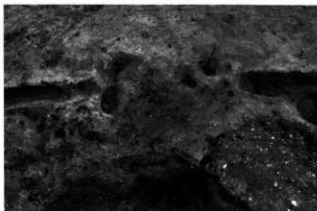
H19号住居址カマド掘方 (南から)



H19号住居址掘方 (南から)



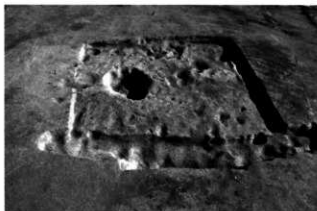
H20号住居址全景（南から）



H20号住居址カマド（西から）



H20号住居址カマド掘方（西から）



H20号住居址掘方（北から）



H21号住居址検出状況（西から）



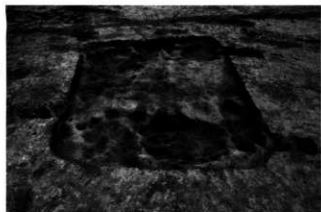
H21号住居址全景（南から）



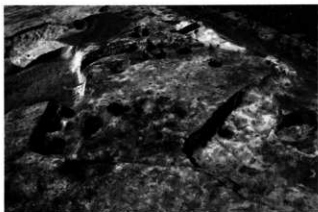
H21号住居址カマド（南から）



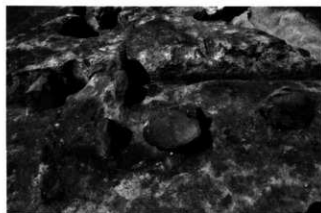
H21号住居址カマド掘方（南から）



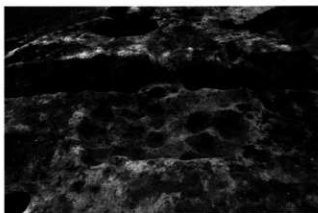
H21号住居址掘方（南から）



H22号住居址全景（北東から）



H22号住居址カマド（北東から）



H22号住居址カマド掘方（北東から）



H22号住居址掘方（北東から）



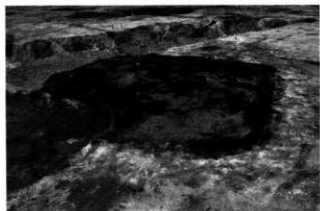
H23号住居址検出状況（東から）



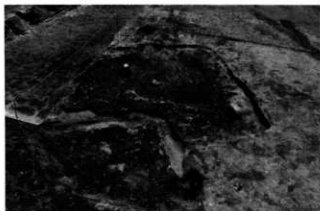
H23号住居址全景（南東から）



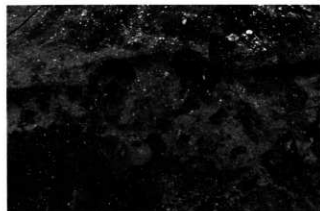
H23号住居址掘方（南東から）



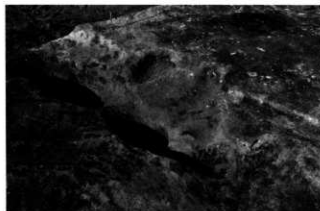
H24号住居址検出状況（南西から）



H24号住居址全景（西から）



H24号住居址カマド（西から）



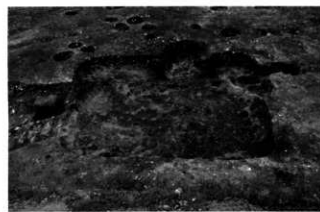
H24号住居址カマド（南西から）



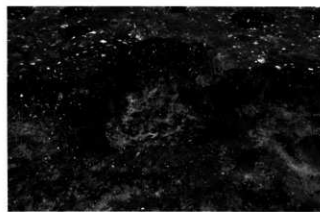
H24号住居址掘方（南から）



H25号住居址検出状況（南東から）



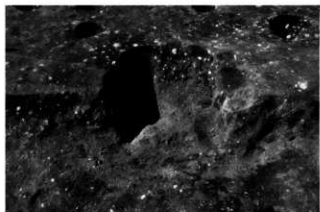
H25号住居址全景（南から）



H25号住居址カマド（南から）



H25号住居址土坑



H25号住居址カマド掘方(南から)



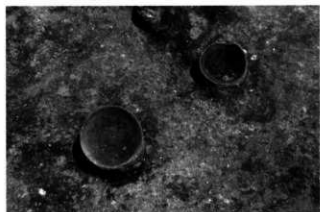
H25号住居址掘方(南から)



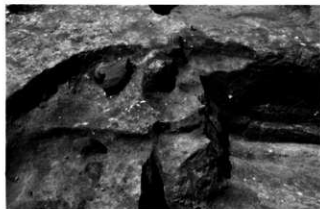
H26号住居址全景(西から)



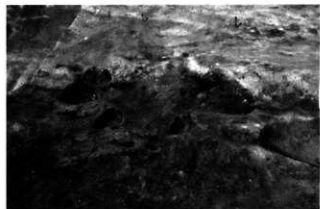
H26号住居址東カマド(西から)



H26号住居址東カマド周辺遺物出土状況



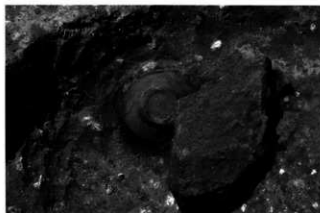
H26号住居址北カマド(南から)



H26号住居址東カマド掘方(西から)



H26号住居址北カマド掘方（南から）



H26号住居址北カマド西側遺物出土状況



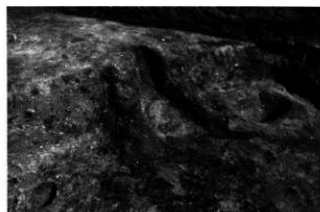
H26号住居址掘方（西から）



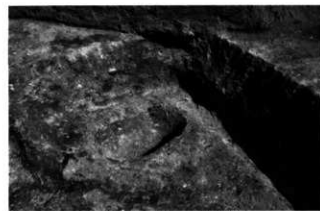
H27号住居址検出状況（西から）



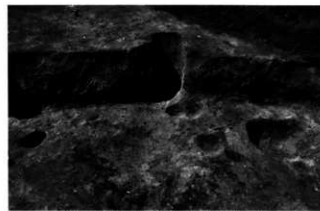
H27号住居址全景（北東から）



H27号住居址カマド（南東から）



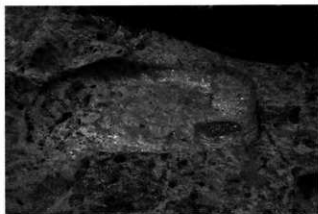
H27号住居址カマド東側土坑



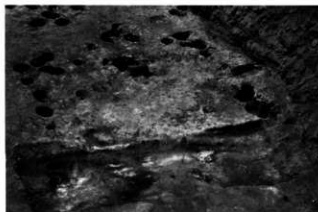
H27号住居址カマド掘方（南東から）



H27号住居址掘方（南東から）



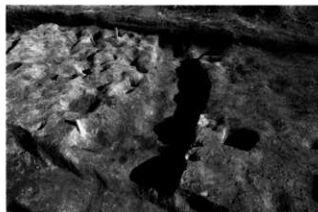
Ta1号竪穴状遺構全景（西から）



Ta2号竪穴状遺構全景（東から）



Ta3号竪穴状遺構全景（南から）



平成24年度調査分M1号溝状遺構全景（西から）



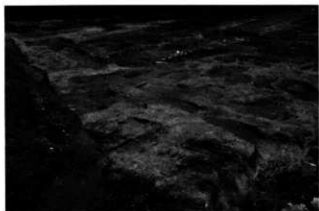
平成25年度調査分M1号溝状遺構全景（東から）



M2号溝状遺構北側部全景（北から）



M2号溝状遺構中間部全景（西から）



M2号溝状遺構南側部全景（南西から）



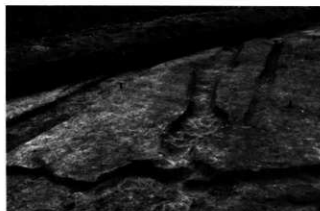
M3号溝状遺構全景（西から）



M4・5号溝状遺構全景（南から）



M6号溝状遺構全景（南西から）



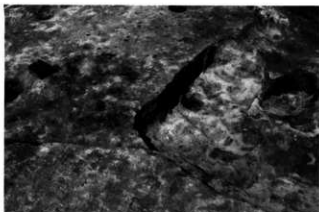
M7号溝状遺構全景（南西から）



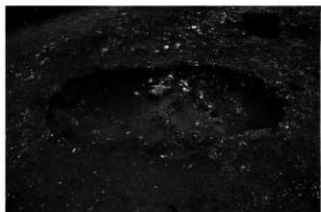
M8号溝状遺構全景（南西から）



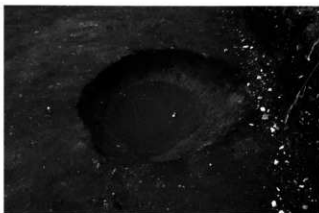
D1号土坑全景



D 2号土坑全景



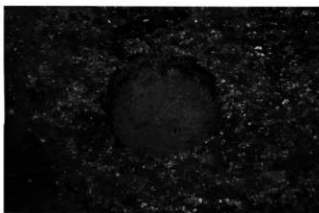
D 3号土坑全景



D 4号土坑全景



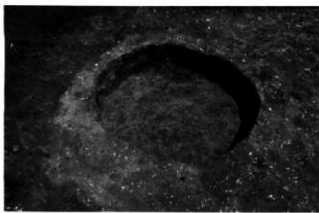
D 5号土坑全景



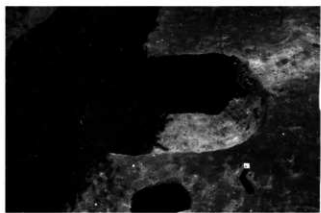
D 6号土坑全景



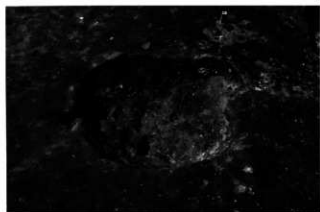
D 7号土坑全景



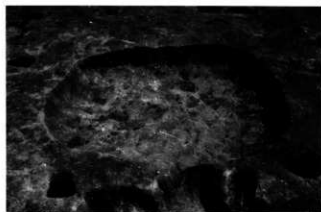
D 8号土坑全景



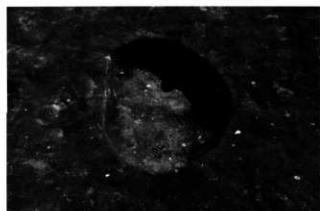
D 9号土坑全景



D10号土坑全景



D11号土坑全景



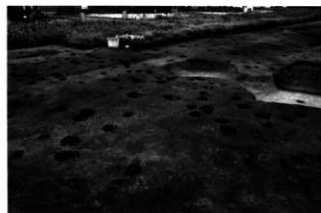
D12号土坑全景



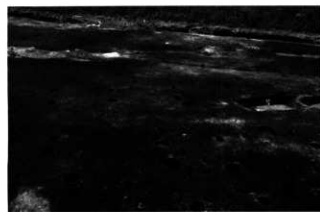
D13号土坑全景



D13号土坑遺物出土状況



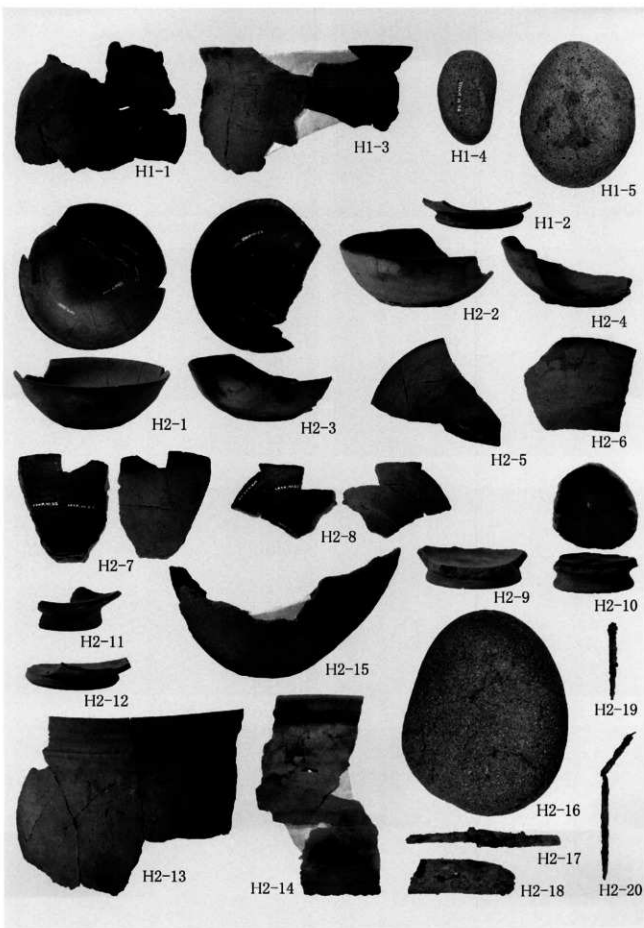
D区ピット群 (南東から)



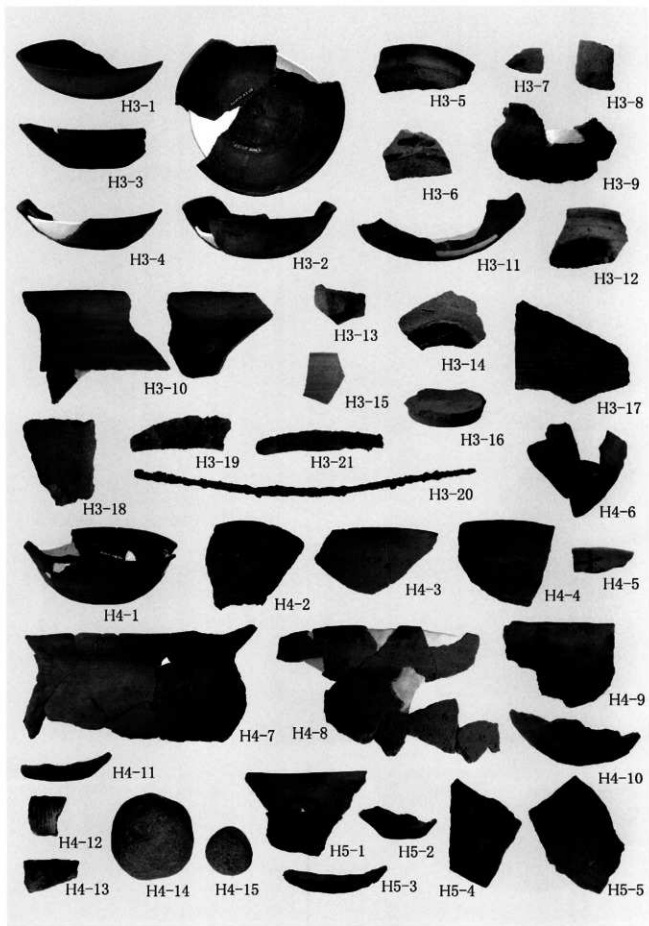
G区ピット群1 (南から)



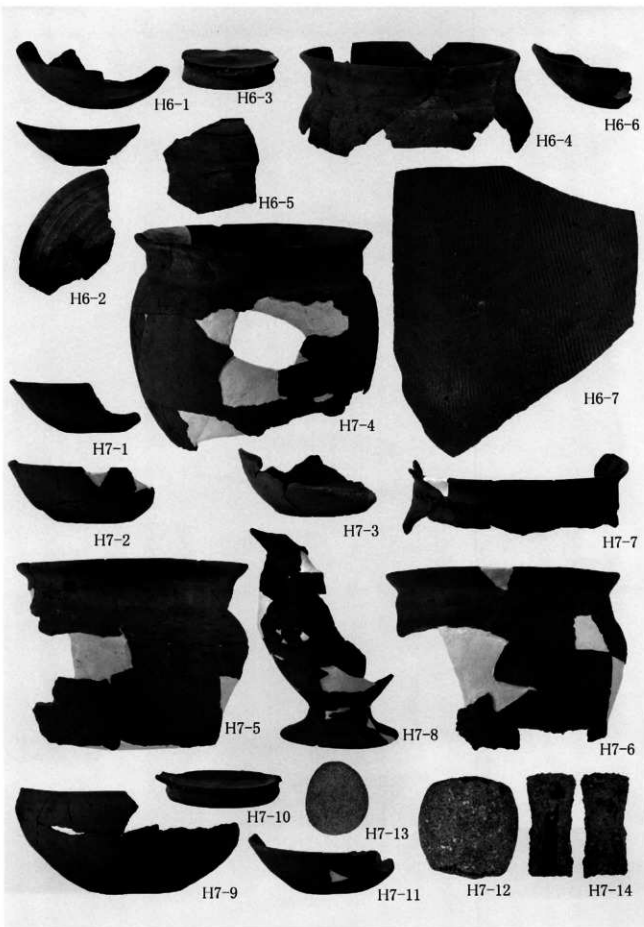
G区ピット群2 (南から)



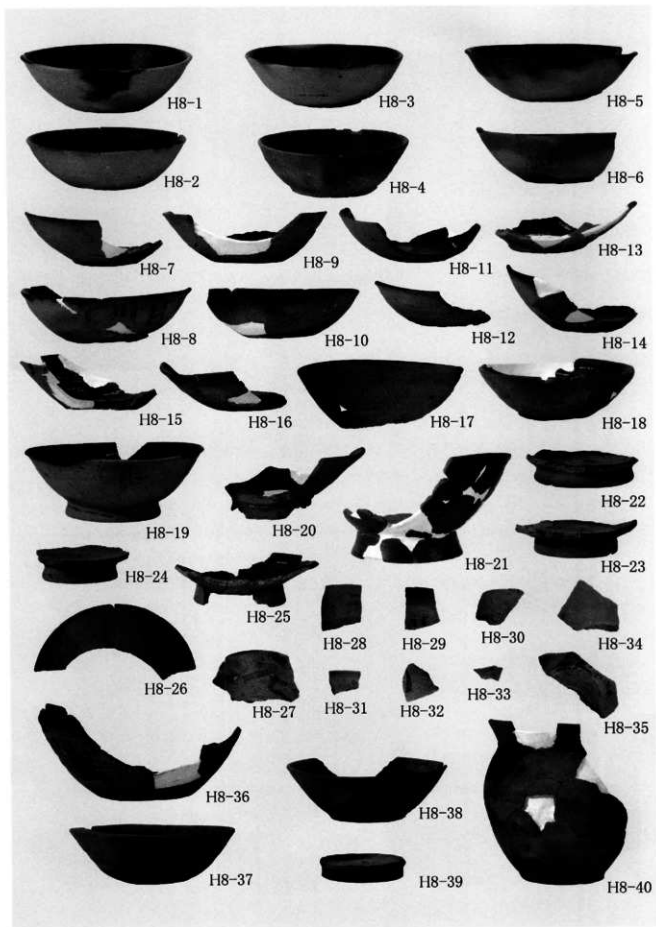
H1·2号住居址出土遺物



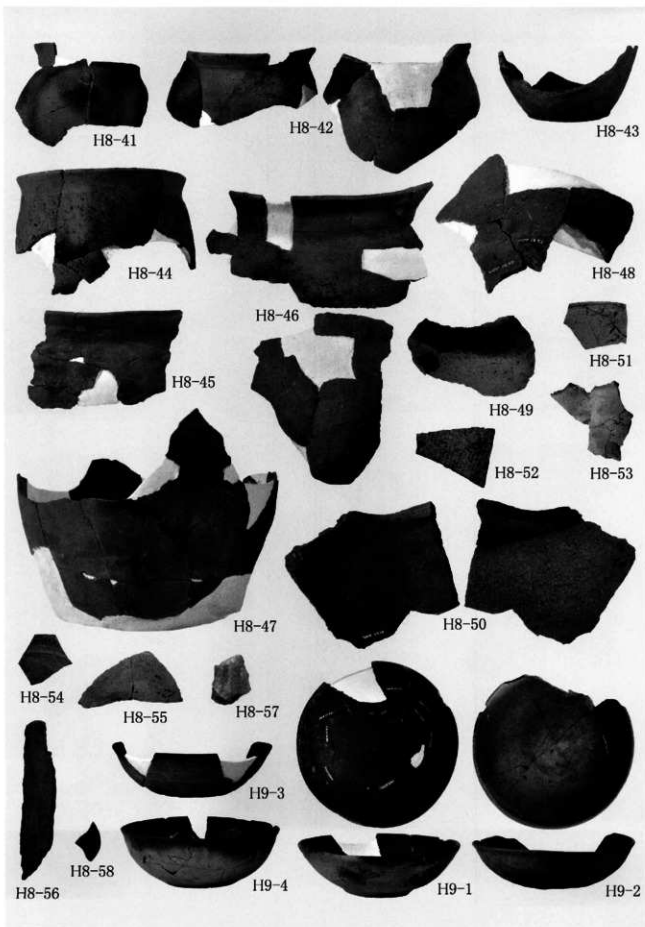
H3·4·5号住居址出土遺物



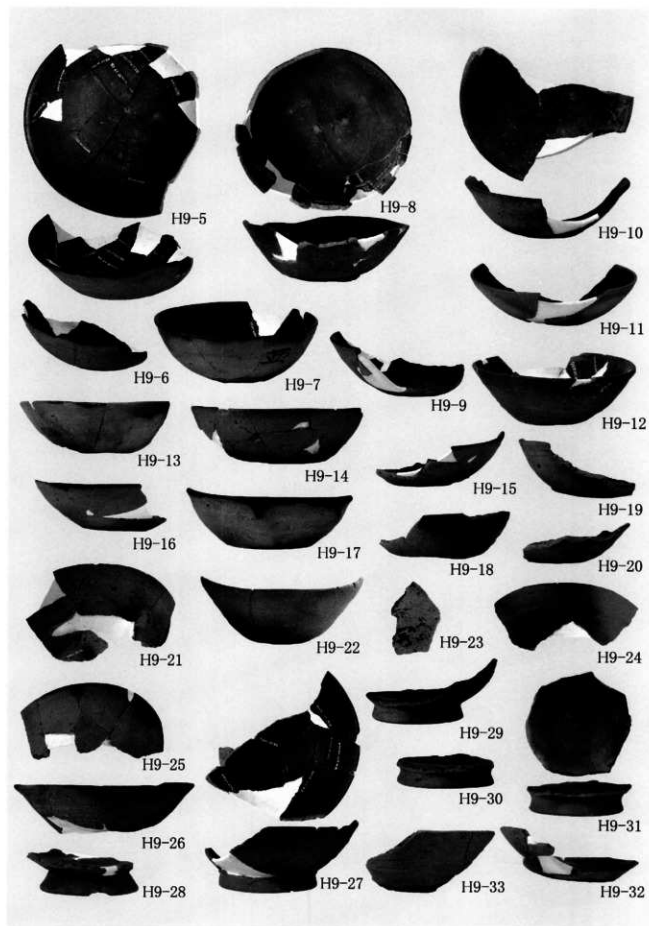
H6・7号住居址出土遺物



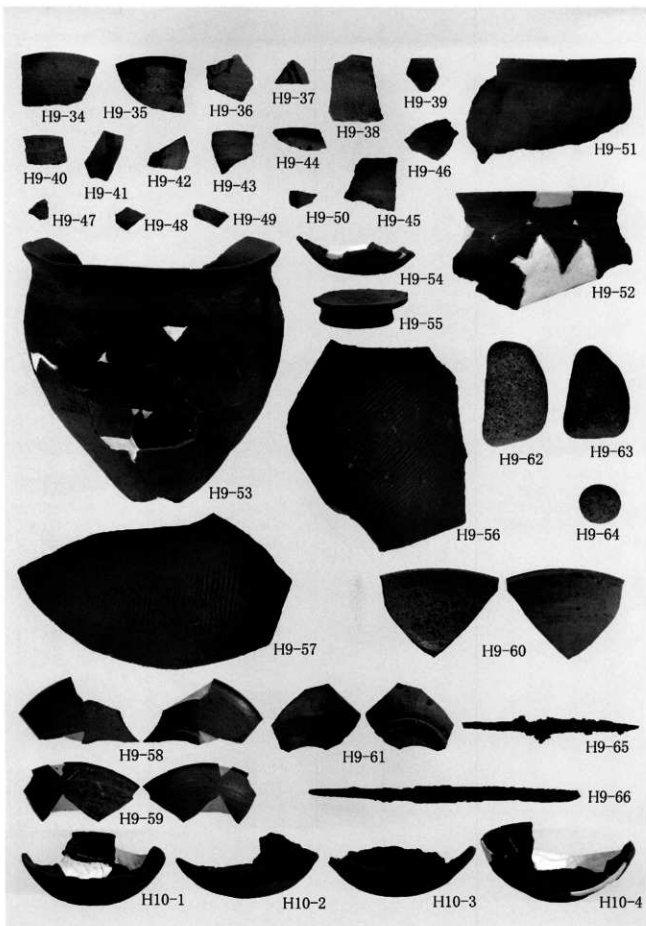
H8号住居址出土遺物



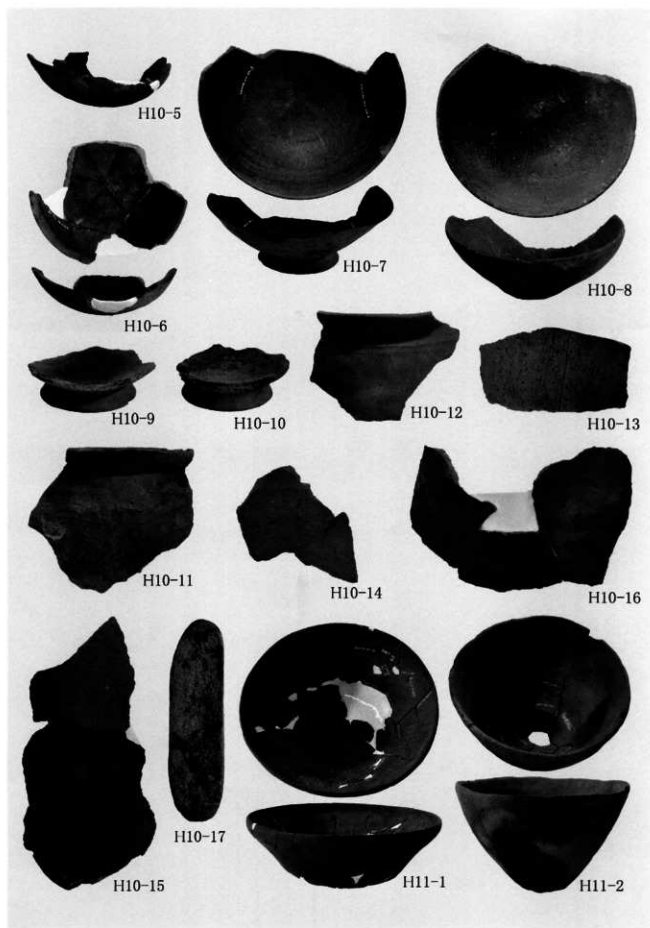
H8·9号住居址出土遺物



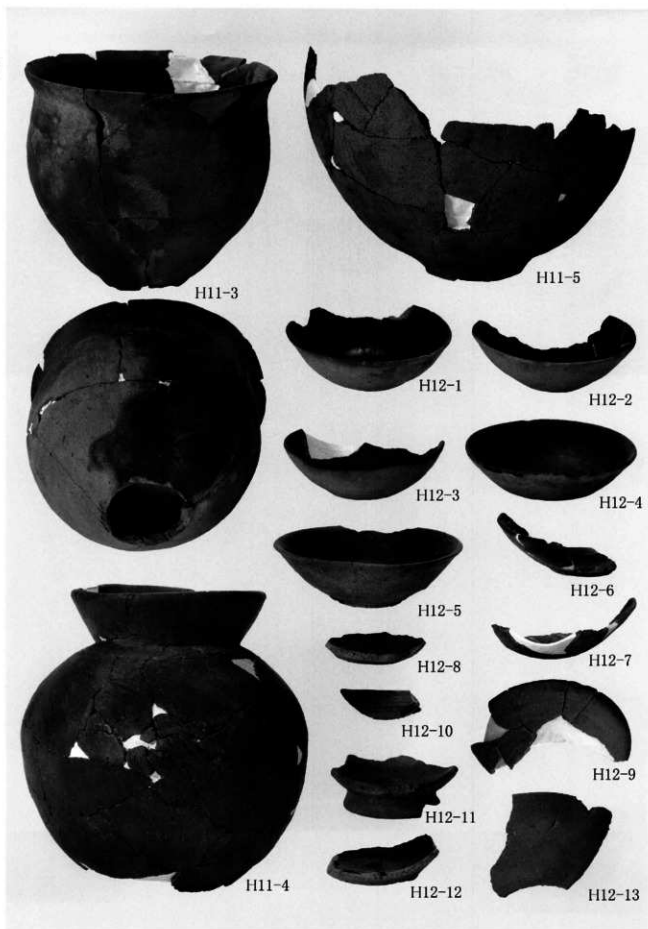
H9号住居址出土遺物



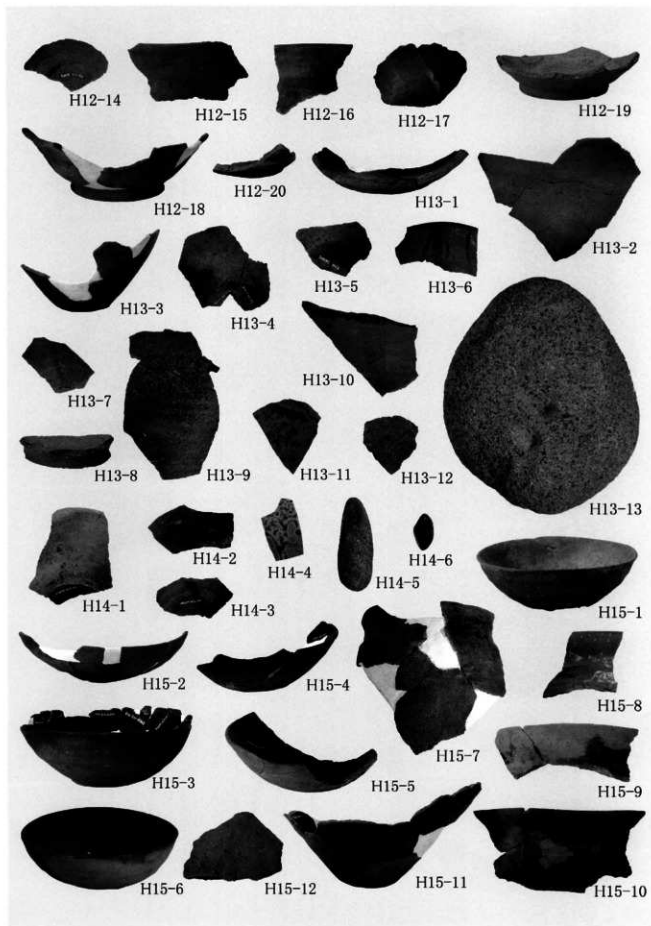
H9·10号住居址出土遺物



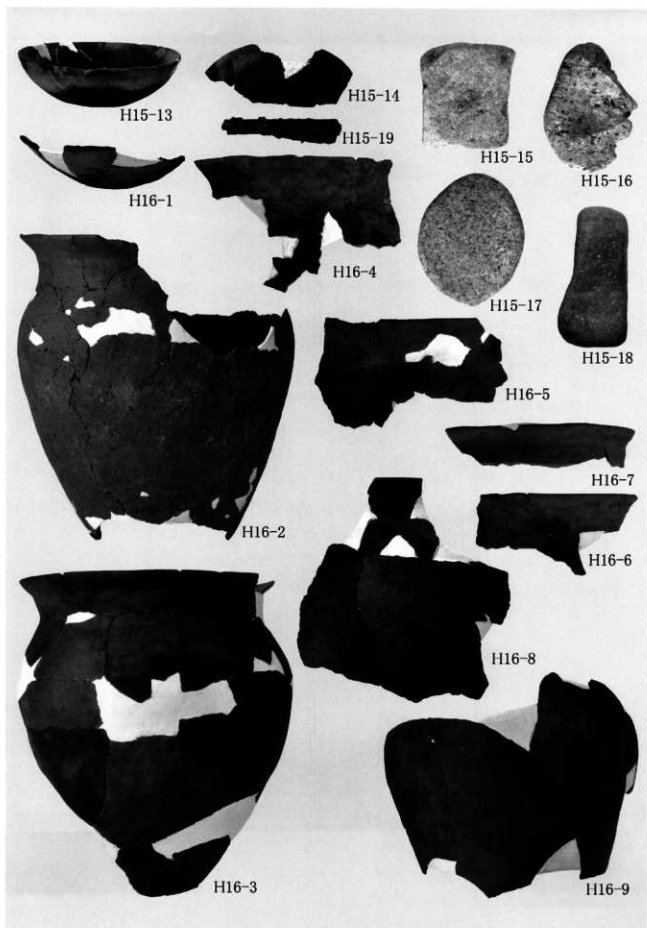
H10·11号住居址出土遺物



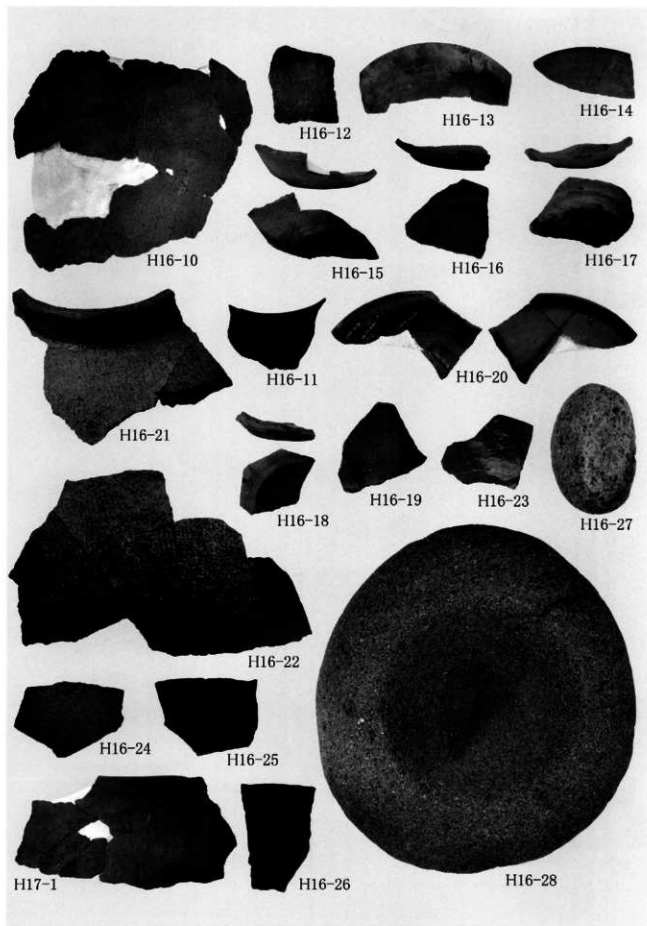
H11・12号住居址出土遺物



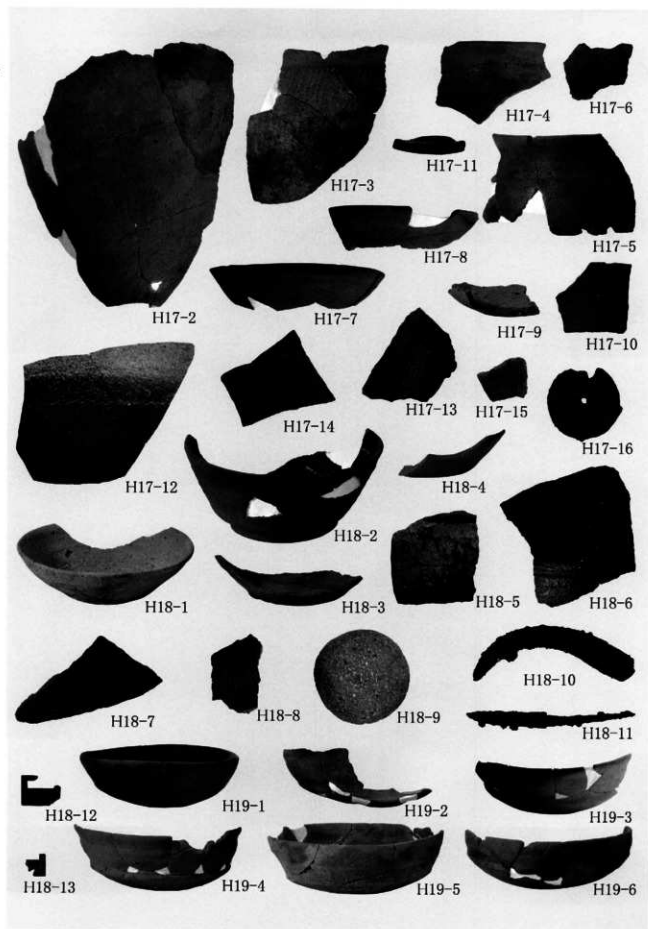
H12·13·14·15号住居址出土遺物



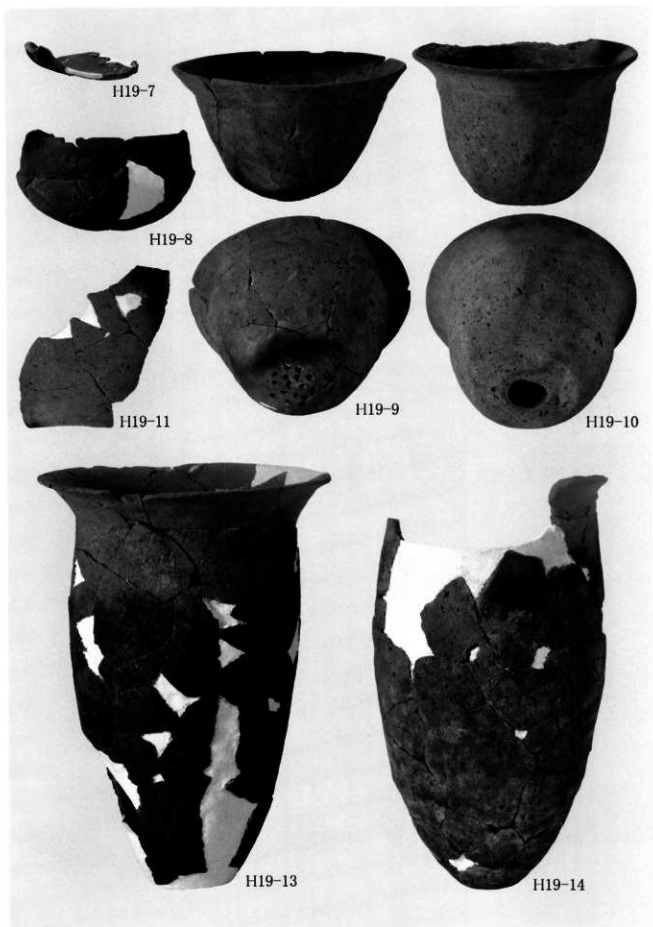
H15·16号住居址出土遺物



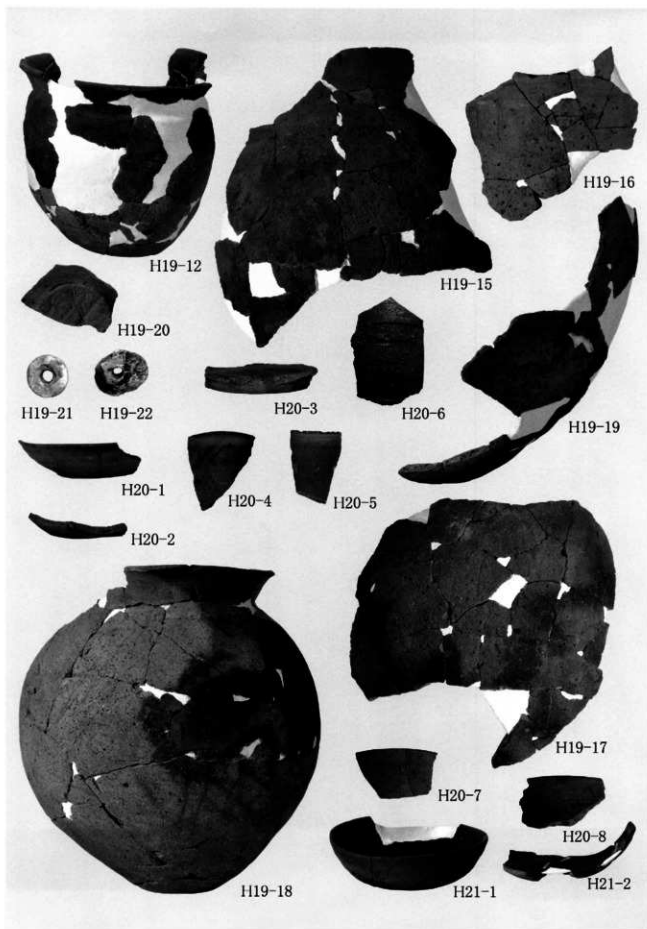
H16·17号住居址出土遺物



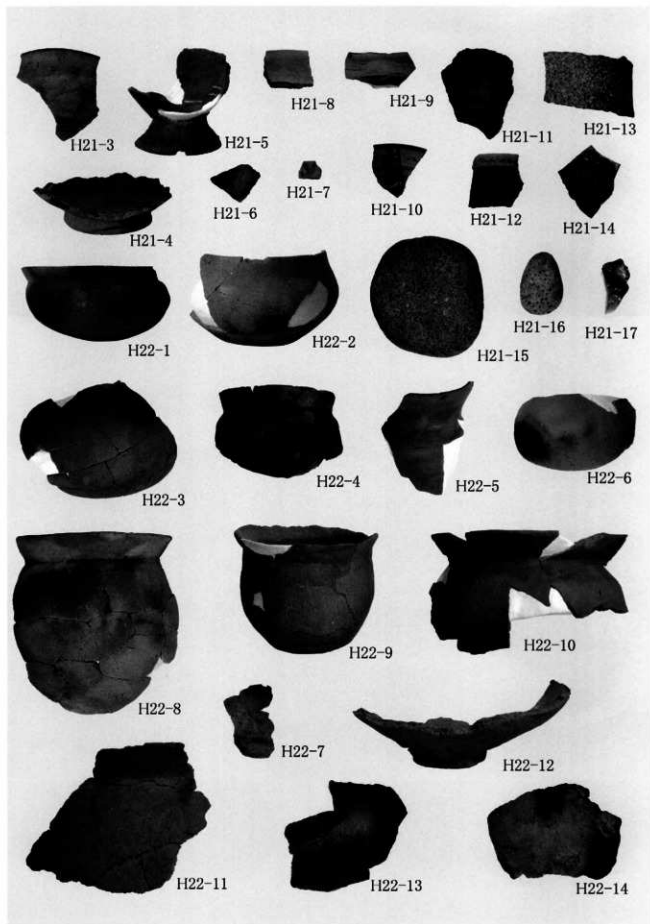
H17·18·19号住居址出土遺物



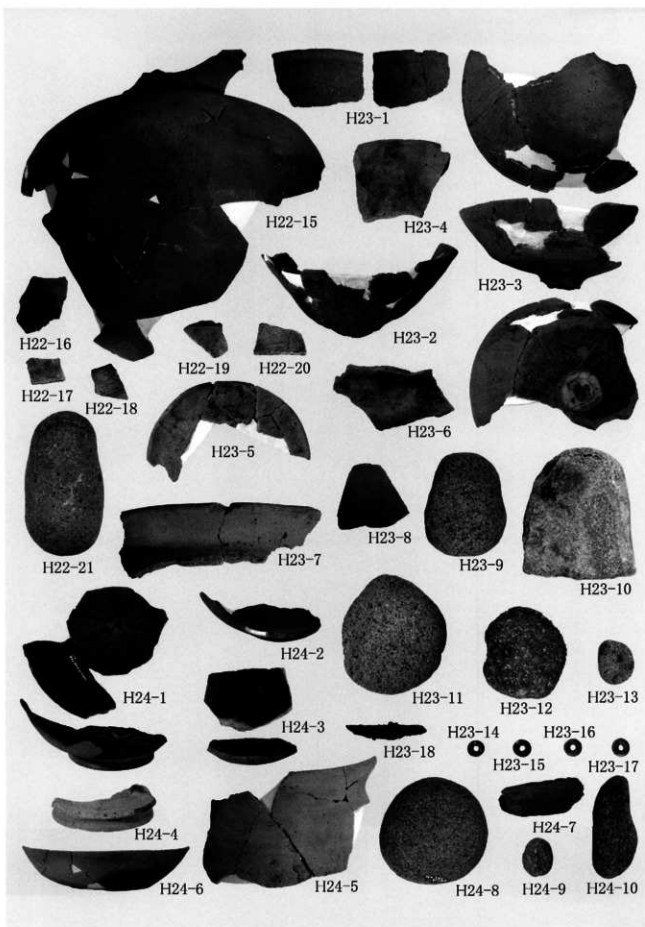
H19号住居址出土遺物



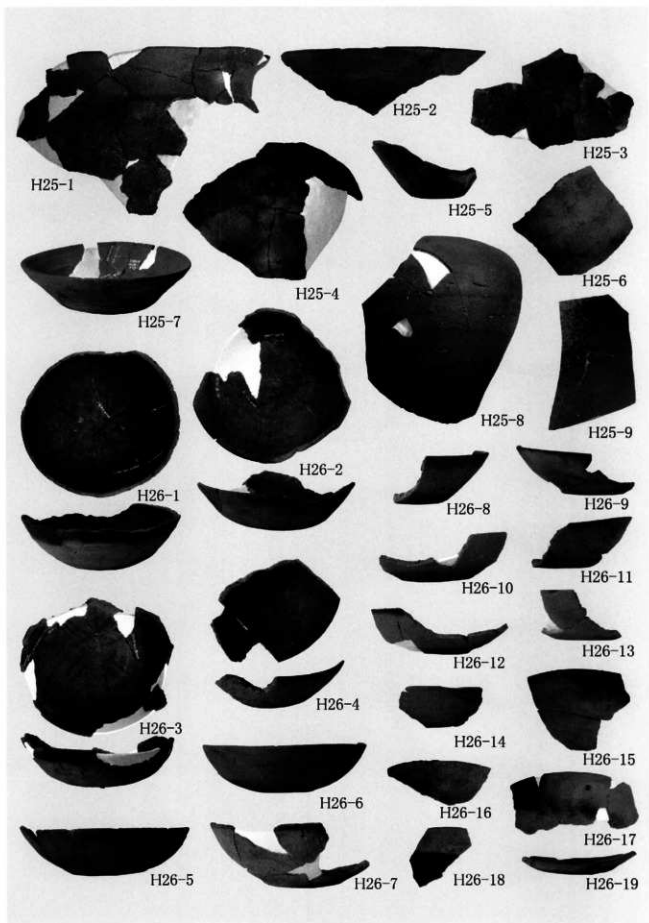
H19·20·21号住居址出土遺物



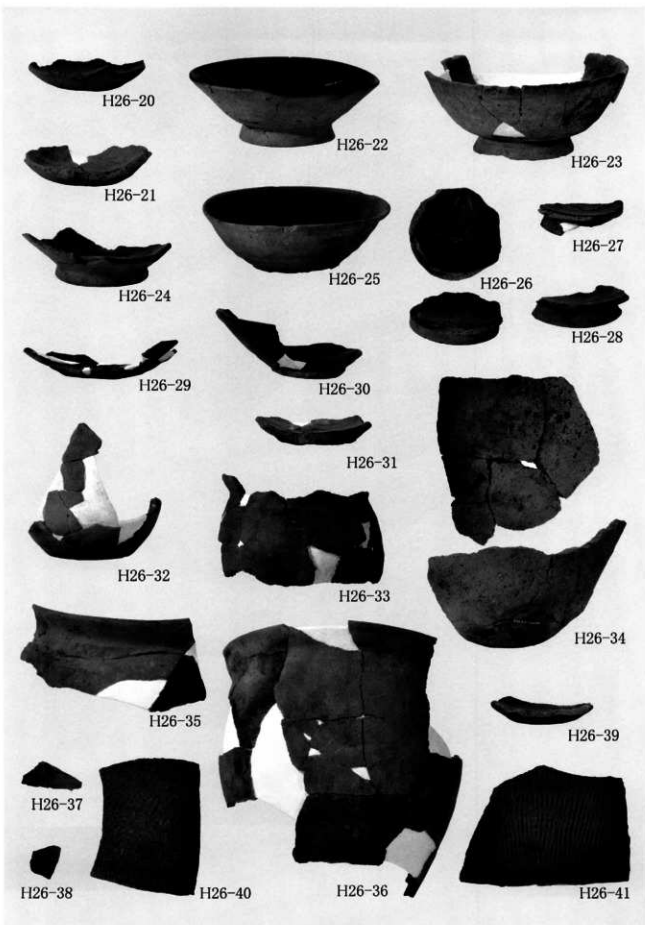
H21·22号住居址出土文物



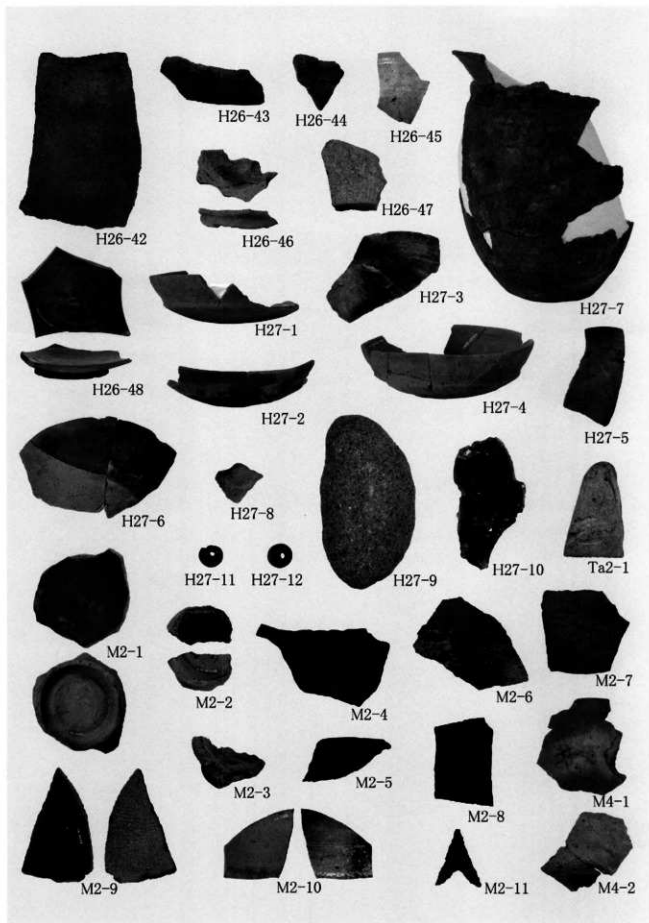
H22·23·24号住居址出土遺物



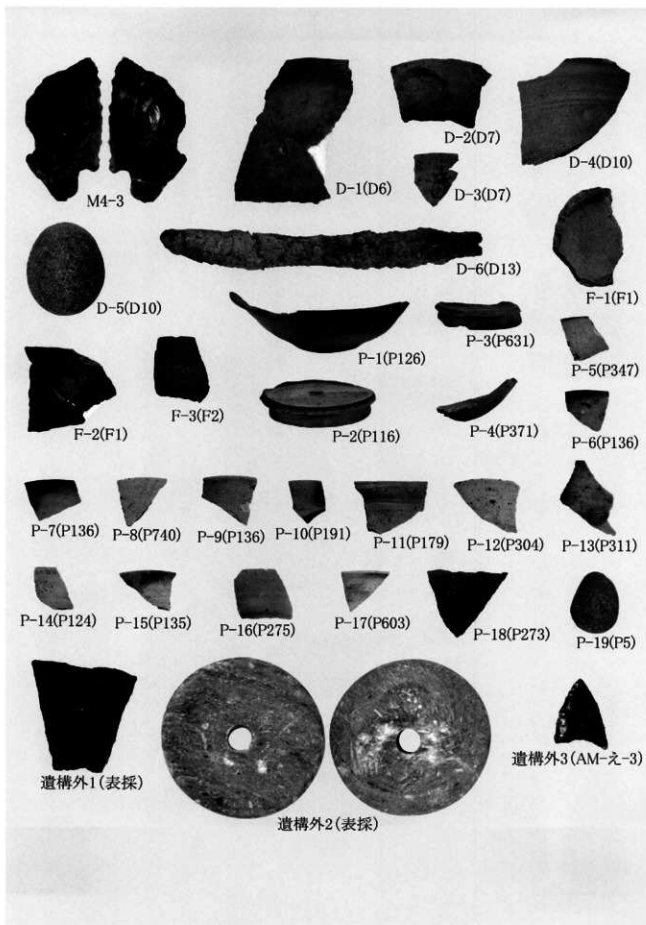
H25・26号住居址出土遺物



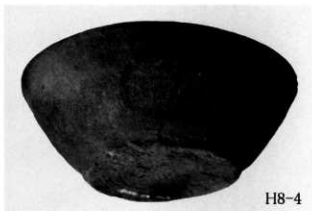
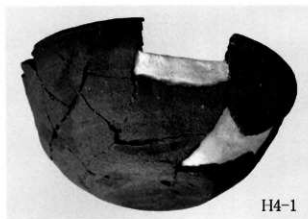
H26号住居址出土遺物

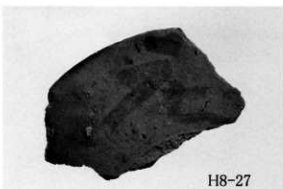


H26·27号住居址、Ta2号竖穴状遗構、M2·4号溝状遺構出土遺物



M4号溝状遺構、土坑、掘立柱建物跡、ピット、遺構外出土遺物





報告書抄録

ふりがな	のまくぼいせきぐん のまくぼいせきろく							
書名	野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VI							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第230集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成27年(2015)3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯	東 経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
のまくぼいせき ぐん のまくぼいせき ろく	さくしさる くばあざの まくぼ	20217	122	36° 15' 34"	138° 29' 5"	20121121 ～ 20121221	7,468	創設の森 整備事業 (周辺道路整 備、研修セ ンター移転 改築、武道 館・多目的 運動場整備)
野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VI	佐久市猿久 保子野馬窪 165-1.165- 10.165- 12.257-1外					20130430 ～ 20140303		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VI	集落	古墳・平安・ 中世	壑穴住居址27軒、溝 状遺構8条、土坑13 基、掘立柱建物跡2 棟、ピット830個	土器、石製品、鉄製品		古墳・平安時代の 集落及び中世と考 えられる溝状遺構 ・ピットが発見さ れた。		
要 約	佐久市猿久保地籍の湯川左岸段丘上に立地する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。今回の調査から、古墳・平安時代の集落が、調査区西側の河岸段丘端部に沿って形成されていることが認められ、中世以降になると生活の範囲が東側の内陸部にも拡大していった状況を窺い知る事ができた。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第230集

野馬窪遺跡群 野馬窪遺跡VI (SNKVI)

平成27年(2015)3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
TEL0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司